



# THE BRAIN

湘南藤沢キャンパス 教員プロフィール

2023

KEIO SFC REVIEW

No. 75

2018年に『THE BRAIN』を刊行してから、早5年。その間に、多くの方に手に取っていただきました。5年のうちに着任、退職なされた先生方も少なくなく、授業の情報が一部古くなりました。

また、前回の『THE BRAIN』を刊行してからおよそ1年半後、世界中をCOVID-19のパンデミックが襲い、キャンパスライフが変化しました。SFCの学生も2020年度、2021年度の2年間は、オンライン授業中心で過ごしていました。サークルの先輩や同じ授業の友人と情報を共有しづらくなり、研究会やプロジェクト選びの悩みが増加したように感じます。

そこで、今回の『THE BRAIN』では、研究会やプロジェクトを選んだり専門的な授業を履修したりする際に学生が知りたい事柄について先生方にお聞きし、情報を最新のものに更新しました。さらに、先生方にご協力いただいて、日英併記の試みを行いました。また、研究会やプロジェクトの選び方の一例を「先輩たちのあしあと」として紹介しています。

本号がSFCで学ぶ皆さんの助けになることを願っています。

KEIO SFC REVIEW 編集部 一同

# THE BRAIN

湘南藤沢キャンパス教員プロフィール 2023

KEIO SFC REVIEW No. 75

## CONTENTS

学部・研究科紹介	Faculties and Graduate Schools	3
先輩たちのあしあと	Senior Students' Journey at SFC	6
読み方	How to Read	12

## Faculty Profiles

総合政策学部 / 環境情報学部 / 政策・メディア研究科	15
.....Faculty of Policy Management / Faculty of Environment and Information Studies / Graduate School of Media and Governance	
看護医療学部 / 健康マネジメント研究科	121
.....Faculty of Nursing and Medical Care / Graduate School of Health Management	

## Index

教員名索引	Index of Names	150
専門分野索引 (日本語)	Index of Specialities (Japanese)	156
専門分野索引 (英語)	Index of Specialities (English)	162
SNS・Web 一覧	Social Media Accounts and Websites	168
もし森に迷ったら	When Lost in the Woods	172
編集後記	Editorial Note	174

## Faculties and Graduate Schools

学部・研究科紹介

### 総合政策学部・環境情報学部

総合政策学部と環境情報学部はともに 1990 年に湘南藤沢キャンパスに開設された。

総合政策学部は「実践知」を重視しながら、ひとつの学問領域だけでは解決困難な多様な問題の解決に資する新しい「知」を生み出す力を涵養する。

環境情報学部は、最先端のサイエンス、テクノロジー、デザインを駆使し、柔軟に人文・社会科学と融合することによって、地球、自然、生命、人間、社会を理解し、未解決の問題に取り組み、解決策を創造する。

両学部は、「研究会」と「卒業プロジェクト」を中心とするカリキュラムを共有し、学生は 2 つの学部を自由に横断して学んでいる。また、「GIGA プログラム」や「学部・大学院修士 4 年一貫教育プログラム」もある。GIGA プログラムでは、卒業に必要な単位を英語のみでも修得できる。学部・大学院修士 4 年一貫教育プログラムは、学士および修士の 2 つの学位を、学士課程 3 年 + 修士課程 1 年の計 4 年間で取得できる道を開く。

詳細は、SFC のウェブサイトでの紹介を参照。

<https://www.sfc.keio.ac.jp/pmei/>

Faculty of  
Policy Management and  
Faculty of Environment and  
Information Studies



## 政策・メディア研究科

1994年開設。“Interdisciplinarity：学際的研究教育（分野横断的研究教育）”と“問題発見解決型”の理念をベースに、多様な分野で世界的に高く評価される多くの研究教育の成果を示し、新たなリーダーとなる人材を育てている。グローバルかつ複雑な社会問題、広域あるいは地域的な環境問題、急速な技術と社会の革新など多くの課題に対して、また、夢のある創造的社会、独創的技術の実現に向けて、優れた研究成果と新たな社会的価値を発信し、時代の変化を先導し、イノベーションを起こす人材の育成を行っている。

詳細は、SFCのウェブサイトでの紹介を参照。

<https://www.sfc.keio.ac.jp/gsmg/about/guideline.html>

Graduate School of  
Media and Governance  
Master's Program /  
Doctoral Program

## 看護医療学部

2001年開設。慶應義塾の建学精神にある「躬行実践を以て全社会の先導者たらん」とする理念に基づき、看護医療における実践をもって先導できる能力を備えた人材を育成している。「生命・人間尊重の精神の涵養と看護の判断能力、問題解決能力、実践力の養成」と「看護活動の創造と保健・医療・福祉の発展、および、看護学の体系化を図り、他の学問分野と相互交流して実学としての看護の発展に寄与する人材の育成」を教育目標としている。

詳細は、SFCのウェブサイトでの紹介を参照。<https://www.nmc.keio.ac.jp/about/policy.html>

Faculty of  
Nursing  
and Medical Care

Graduate School of  
Health Management  
Master's Program /  
Doctoral Program

## 健康マネジメント研究科

### 看護学専攻

既存の枠組みにとどまらない構想力、複雑かつ先進的な健康課題を包括的に理解するための臨床判断能力、Evidence-based practice および理論や概念基盤に基づいた最善のアウトカムをもたらすケア実践能力を修得し、看護ケアの新しいあり方を開発・構築、実践できる人材を養成。

### 公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

専門的知識の修得にとどまらず、個人や社会が抱える健康課題を見出す洞察力、課題の背後にある構造・因果関係を推定し仮説として構築するための論理的思考力、万人が納得できる方法で仮説を検証するための分析力、導出した結論を共有・実践するためのコミュニケーション力などをマネジメント力として修得。

詳細は、SFCのウェブサイトでの紹介を参照。

<https://gshm.sfc.keio.ac.jp/outline/character.html>



# 先輩たちのあしあと

先輩たちはどのように研究会やプロジェクトに関わってきたのでしょうか。「研究会・プロジェクト遍歴」を聞いてみました。

	1年	2年	3年	4年
Aさん	研究会を聴講。	研究会で精力的にプロジェクトに取り組む。	プロジェクトを後輩に託す。	研究会を移り、卒プロへ。
Bさん	ボランティア活動に参加。	研究会で研究活動そのものを学ぶ。	助成金を元に、関心のある複数のテーマを研究。	看護医療学部プロジェクトに参加。
Cさん	入学前から入りたかった研究会で学ぶ。	自分を鍛えられる環境に身を置きたい。	よりハードな研究会に入り研究を楽しむうちに、自分自身の興味関心を深く知り直す。	
Dさん	この内容、興味ある！ 履修した授業に興味を持つ。	研究会に入り、オンラインで活動。	なかなかうまくいかない。 シラバスで面白そうなテーマを発見。	別の研究会に入り、卒プロに取り組み中。
Eさん	授業で先生の熱意に感動。	研究会に入る。看護医療学部での実習と両立させながら、積極的に研究・活動。	看護医療学部の授業の合間に研究会。大変だったけど、やって良かった。	

## ● Aさんのあしあと ●

1年次の春学期中、当時関心を持っていた「地方創生」を扱っている研究会を聴講していました。グループワークや発表にも参加していましたが、次の学期には、同時に興味を持っていた別の研究会に入りました。すぐに活動を始められることが決め手でした。1年次の秋学期から1年半、研究会中心の生活をしていました。高校と大学の橋渡しをしたいと思い、そのきっかけ作りをプロジェクトとして行いました。当時は、喜怒哀楽の全てが研究会活動の中にありました。

3年次に入ってから、プロジェクトを後輩に引き継ぎ、個人研究に専念することにしました。

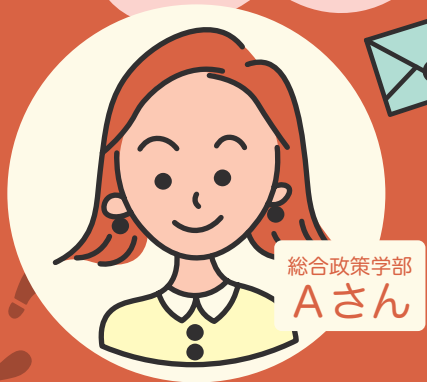
3年次秋学期に入った研究会では、個人研究におけるリサーチの仕方を初めて学びました。卒業プロジェクトについて考え始めていましたが、先生の専門分野が私の関心と少しずれていることを感じ始め、別の先生の下に移ることにしました。

通常4年次春学期からの所属は認められにくいですが、先生との面談を通して所属が決定しました。オーラルヒストリーをテーマとするその研究会で、私がこれまで行ってきたインタビューを卒業プロジェクトとしてまとめる予定です。

Q. 良かったことはなんですか？  
A. 様々な分野の研究会に知り合えることです。かつて所属していた研究会のメンバーともいまだによく話し、お互いに刺激を与え合う関係が続いています。

Q. 難しかったことはなんですか？  
A. 3年次の秋学期や4年次になると入ることが難しくなる研究会が多く、また、研究会に入ることで、時間の都合上履修できなくなる授業があることが難点です。研究会に入る前に、受けたい授業は積極的に履修しておくことをおすすめします。

Q. 後輩にメッセージをお願いします。  
A. 私が所属していた研究会の先生の言葉で印象的だったものを紹介します。「学生が両立させられるのは3つまで」。そのうちの一つに研究を置くのも良いし、そうでなくても良いと思います。今やりたいことに実直に取り組む自分を支える指針やコミュニティとして、研究会も大いに活用してみてください。無理しすぎず、周りの人に相談しながら決めてくださいね！



## ● Bさんのあしあと ●

1年次から、国際保健ボランティアを行う「Euphoria」というサークルに所属していました。このサークルでは、ストリートチルドレンなどに対して公衆衛生の面からサポートを行っており、私もインドネシアに2回渡航して現地での活動に参加しました。長年同じ土地で、そこにいる方を対象に、同じような活動を続けているこのサークルですが、単なるボランティアの活動記録を見ても、対象者の成長や成長に合わせた支援内容の調整が分からないことに気がつきました。そこで、「本格的な調査研究が必要なのではないか」と強く思いました。データを集める方法やその分析の仕方、解析結果を現場の活動に活かす方法も当時は全く分からなかったため、まずは研究というものを学ぼうと決めました。

2年次には看護医療学部の研究サークルや総合政策学部・環境情報学部の研究会に入り、健康行動や訪問看護のパターンランゲージに関する研究を通して、研究活動そのものについて学びました。3年次には、エキセントリックリサーチや慶應SFC学会から助成金を給付していただき、学生の子育てや男性の育児休暇についての質的研究、患者満足度や看護学生の国際学会参加に関する量的研究に挑戦しました。



看護医療学部  
Bさん

Q.良かったことはなんですか？

A. 卒業プロジェクトのメンバーは3名おり、それぞれ興味のあるテーマで論文執筆に取り組んでいました。隔週でオンラインで集まることで意見を交換できたのが非常に貴重でした。また、卒業プロジェクトで取り組んだ内容をまとめた論文は、慶應SFC学会主催の学術交流大会で金賞（卒業プロジェクト発表の部）、看護医療学部学生プロジェクト優秀賞をいただくことができました。

Q.難しかったことはなんですか？

A. 4年生にならないとプロジェクトに入れなかったことです。もし学外で調査研究を進めていなければ、4年生の期間だけでプロジェクトをここまでまとめることはできなかったと思います。

Q.後輩にメッセージをお願いします。

A. ぜひ、学術交流大会（卒業プロジェクト発表）の卒業研究を低学年のうちから目にしておくことをおすすめします。興味のあるテーマ、研究手法だと感じたら、その指導教員の教授と繋がりを持っておくことで4年のプロジェクトの時に活きると思います。

Q.難しかったことはなんですか？

A. 限られた情報の中で選択するので、入ってみたいと自分に合うかどうか分からないことです。

Q.良かったことはなんですか？

A. 早い時期から所属し、実践知を積むことができます。

Q.後輩にメッセージをお願いします。

A. 総環のカリキュラムでは、研究会活動が非常に重視されています。早めに入っておかなければ、他学部や他大学に専門性において差をつけられてしまう可能性もあります。必ずしも研究である必要はないですが、夢になれるものに全力で取り組んで、「何もしなかった」と後悔しないようにするのがオススメです！



環境情報学部  
Cさん

## ● Cさんのあしあと ●

高校生の頃から、脳とコンピュータを繋げるシステム、BMI (Brain-Machine-Interface)に興味があり、入る研究会を決めていました。念願叶って入った研究会では、脳のメカニズムや脳に関する先行研究を学び、簡単な脳波の計測も行うことができました。その中で、BMIの開発には最短20年、本格的には50年以上かかるということを知り、僕には基礎研究を数十年も続けるのが辛いと感じられました。

そこで、新しい研究会を探すことにしました。とはいえBMI以外にやりたいことが無かったので、自分を鍛えられるような厳しい環境に身を置くという観点で次に入る研究会を選びました。そうして新たに入った研究会には魅力的なプロジェクトがあり、その一環として、「人間にとって快適な森とは何か」という研究を行いました。また、研究会SAとしてメンバーへの助言や研究会の運営にも主体的に関わり、チームを運営・維持する方法も学ぶことができました。そのような活動を経て、チームや自然・デジタル空間という居場所の創造や、それを支える技術の開発に興味があるのだと、気づくことができました。



## ● Dさんのあしあと ●

1年次の秋学期に履修した授業の内容が興味と合致したので、2年次の春学期に、同じ担当教員の言語とメディアをテーマにした研究会に入りました。当時は活動が全てオンラインで行われていたので、既存のメンバーと上手く馴染めませんでした。研究も思うように進められず、3年次の秋学期に別の研究会に移動しました。シラバスを見ていて目に留まった古典落語の研究会で、今もその研究会に所属して卒業プロジェクトに取り組んでいます。

### 環境情報学部 Dさん



Q.良かったことはなんですか？

A. 複数の研究会を移動することができ、途中で研究テーマを変えられることです。もちろん同じ研究会に所属し続けることもできるので、メンバーと反りが合えば、深く濃く仲良くなれると思います。

Q. 難しかったことはなんですか？

A. 看護医療学部での実習と研究会を両立することは、時間的・体力的に簡単ではないかもしれません。特にキャンパス間の移動があると両立は厳しいです。3年次の春学期は、看護医療学部の授業が無かったのが水曜日の3限と4限だけでした。幸いにも研究会が水曜日の3限と4限だったので両立できていましたが、体力的に厳しいものがありました。しかしながら、どれだけ両立がハードでも、「この友人たちと学びを深めたい!」という熱い想いがあれば、きっと両立できるはずですよ! そのために、まずは熱中したい研究テーマや切磋琢磨できる仲間に出会うことが大事かと思っています。

Q. 後輩にメッセージをお願いします。

A. どんな看護人材になりたいかによって総合政策学部・環境情報学部の研究会に入る必要があるのかどうかは変わってくるかと思いますが、私としては、研究会に入ることを強くおすすめします。想定外のところで、自分のためになる視座が得られたり、多様な仲間に出会えたり、良いことがたくさんあります! ぜひ新しい扉を開いてみてください!

Q. 難しかったことはなんですか？

A. 早いうちから動いている周りの人たちを見て焦ってしまい、落ち着いて決められなかったことです。自分のやりたいことがあっても、その分野を専門にしている先生がいないこともあります。

Q. 良かったことはなんですか？

A. 他学部の友人から専門性の高い知見をシェアしてもらえる機会が増えたことです。私自身も、看護医療学部の授業で身につけた知識や研究の現場で得た問題意識を、他の研究会の友達にシェアし、共同でケア用品のプロトタイプを作ったことがあります。多種多様な友人に出会えたことが何よりの財産です。

### 看護医療学部 Eさん



Q. 後輩にメッセージをお願いします。

A. 積極的に聴講へ行くことがとても大事です。実際に見てみないと分からないことがたくさんあります。やりたいことが特に無くて困っている人は、シラバスやこの本『THE BRAIN』を一通り読んでみてください。意外な発見や新たな興味が生まれるかもしれません。身近な上級生に聞いてみるのもいいですね。きっといろいろなことを教えてくれるはずですよ!

## ● Eさんのあしあと ●

看護医療学部には、「医療と他分野を融合した領域で活躍できる人材になりたい」「幼少期に培ったミュージカルという経験を生かして音楽療法を学びたい」という思いで入学しました。

入学後、総合政策学部や環境情報学部の仲間たちから刺激を受け、1年次の秋学期から音楽と神経科学を軸にする研究室に進みました。

先生の授業を履修したことが研究会に入るきっかけでした。目を輝かせながら研究を語る先生に惚れ、授業終了後「先生の研究室に入りたいです!」と直談判したのはいい思い出です。

研究会では「闘病中のこどもたちの社会的支援」をテーマに活動をしていました。実践、PBL (Project Based Learning) に重きをおき、病気を持つこどもたちがいる現場に足を運び、そこから課題を構造化し、適切な打手を考える、というサイクルを回していました。具体的には、慶應義塾体育会に協力を仰ぎ、スポーツチャリティの活動を推進する企画を早慶戦にて企画、運営しました。

## How to Read

読み方



藤沢 鴨太郎  
FUJISAWA KAMOTARO

### speciality

教員の専門分野を記載しています。

This section lists the faculty members' areas of specialization.

### e-mail

### works

教員が、自分の著書・作品・論文等の中から、学生に特にお勧めするものを掲載しています。

In this column, faculty members list their own books, works, and articles that they particularly recommend to students.

巻末の索引では、教員の専門分野を日本語と英語で探せます。

The index at the end of the book allows you to search for faculty members by their areas of specialization in both Japanese and English.

教員の研究会や授業に強い興味を持ったなら、worksの著書・作品・論文などから教員について調べてみることをお勧めします。If you are interested in a seminar, project, or course, we recommend checking out the faculty member's "works".

## 研究会 / プロジェクト / おすすめ授業 Seminars / Projects / Recommended Courses

研究会・プロジェクト・授業の内容を掲載しています。

This section describes the goals, the topics, and the themes of Seminars / Projects / Courses.

### 研究会 / プロジェクト / 授業の進め方 Seminar / Project / Course Style

研究会やプロジェクト、授業の進め方についてアイコンで掲載しています。

The icons below show how the Seminars / Projects / Courses are conducted.

#### 個 個人研究 Individual Research

個人で研究やプロジェクトを進めます。Students work on their own research and projects.

#### 講 講義形式 Lecture

教員が講義を行います。Lecture given by faculty members.

#### グ グループワーク Group Work

グループになって研究やプロジェクトを進めます。Students work in groups to conduct research and projects.

#### フ フィールドワーク Field Work

フィールドワークを行いながら研究・勉強を進めます。Students advance their research or deepen their learning while conducting fieldwork.

### 所属・受講に向いている学生 Expected Students

研究会・プロジェクト・授業がどのような学生に向いているかがわかります。

This section indicates for which type of students the Seminars / Projects / Courses are suited.

### 卒プロ Graduation Projects

過去の卒業プロジェクトの例として、いくつか印象に残っているものを挙げていただきました。

Some examples of past impressive graduation projects.

### 他 その他 Others

左の4つ以外の進め方です。Approaches other than the four on the left.

### イメージカラー・掲載順

色は、各教員の本務となる所属学部・所属研究科を表しています。

Each color indicates the faculty or graduate school to which each member primarily belongs.

pp.15-119

総合政策学部  
Faculty of Policy Management

環境情報学部  
Faculty of Environment and Information Studies

政策・メディア研究科  
Graduate School of Media and Governance

pp.121-149

看護医療学部  
Faculty of Nursing and Medical Care

健康マネジメント研究科  
Graduate School of Health Management



総合政策学部  
環境情報学部  
政策・メディア研究科

AOYAMA ATSUSHI  
AKIYAMA MIKI  
ATAKA KAZUTO  
ARAKAWA KAZUHARU  
ALMANSOUR AHMAD  
ISAGAI YOSHINORI  
ISHIKAWA HAJIME  
ICHINOSE TOMOHIRO  
INNAMI ICHIRO  
UEHARA KEISUKE  
USHIYAMA JUNICHI  
OKI SATOKO  
OHGI YUJI  
OKOSHI TADASHI  
OHORI TOSHIO  
OIMAE MANABU  
OKADA AKIYOSHI  
OGUMA EIJI  
KATO TAKAAKI  
KATO FUMITOSHI  
KANAI AKIO  
KANAZAWA ATSUSHI  
KANIE NORICHIKA  
KAMO TOMOKI  
KAWASHIMA HIDEYUKI  
KUNIEDA TAKAHIRO  
KUNIEDA MIKA  
KURODA HIROKI  
YAN WANGLIN  
KO JAEPIL  
KONO NOBUAKI  
KOKURYO JIRO  
KOTOSAKA MASAHIRO  
KOBAYASHI HIROTO  
SAVAGE PATRICK  
CHEDDADI AQIL  
SHINOHARA SHUGO  
SHIMAZU AKIHITO  
SHIMIZU TAKUMI  
SHIMIZU YUICHIRO  
SHAW RAJIB  
SHIRAI SAYURI  
SHIRAI YUKO  
SHIMPO FUMIO  
SUGIHARA YUMI  
SUGIMOTO MASAHIRO  
SUZUKI HARUO  
SOGA TOMOYOSHI  
TAKAGI TAKEYA  
TAKASHIO KAZUNORI  
TAKAHASHI YUKO  
TAJIMA EIICHI

TANAKA KOICHIRO  
TANAKA HIROYA  
TAMAMURA MASATOSHI  
TSUKAHARA SACHIKO  
TSURUOKA MICHITO  
ZHENG HAOLAN  
TEZUKA SATORU  
TOKAIRIN YUKO  
TRACE JONATHAN  
NAITO YASUHIRO  
NAKAGAWA ERIKA  
NAKAZAWA JIN  
NAKATANI MASASHI  
NAKANISHI YASUTO  
NAKAHAMA YUKO  
NARUKAWA HAJIME  
NISHIKAWA HASUMI  
NONAKA YO  
HAKUTO HIROMI  
HASEGAWA FUKUZO  
HASEBE YOKO  
HATTORI TAKASHI  
HUA JINLING  
BABA WAKANA  
HIRAYAMA AKIYOSHI  
HIROSE YOKO  
FUJII SHINYA  
FUJITA MAMORU  
FURUTANI TOMOYUKI  
PETRUS ARI SANTOSO  
HOENIGMAN DAVID  
HODA TAKAAKI  
MEYER ANDREAS  
MASUI TOSHIYUKI  
MATSUI KOJI  
MATSUKAWA SHOHEI  
MITSUGI JIN  
MIYAGAKI GEN  
MIYASHIRO YASUTAKE  
MIYAMOTO DAISUKE  
MIYAMOTO YOSHIAKI  
MORI SACHIKO  
MORI MASAKI  
YANAGIMACHI ISAO  
YAHAGI NAOHISA  
YAMAMOTO KAORU  
YOSHII HIROKAZU  
WAKITA AKIRA  
WADA TATSUMA  
WATANABE MITSUHIRO  
WARAGAI IKUMI  
VU LE THAO CHI



青山 敦

AOYAMA ATSUSHI

環境情報学部准教授

specialty

脳情報学 / 脳磁気学 / 脳機能計測  
Brain information science / Neuroelectromagnetism /  
Measurement of brain functions

works

- Aoyama, A. (2018) . "A method to study adaptation to left-right reversed audition", *Journal of Visualized Experiments*. 140, e56808.
- Aoyama, A., Kuriki, S. (2017) . "A wearable system for adaptation to left-right reversed audition tested in combination with magnetoencephalography", *Biomedical Engineering Letters*. 7 (3) , pp. 205-213.
- Aoyama, A., Shimura, Y., Ohmura, T., Nomoto, Y., & Kawasumi, M. (2017) . "Parasympathetic activation enhanced by slow respiration modulates early auditory sensory gating", *Neuroreport*. 28 (17) , pp. 1150-1156.
- Aoyama, A., Krummenacher, P., Palla, A., Hilti, L. M., Brugger, P. (2012) . "Impaired spatial-temporal integration of touch in xenomelia (body integrity identity disorder) ", *Spatial Cognition & Computation*. 12 (2-3) , pp. 96-110.

研究会 Seminars

研究会 A

近年、人間の脳活動を頭の外から計測する技術が発展し、未知なる脳のメカニズムを探ることが可能になってきました。そのため我々は、先端的な脳計測手法やデータ解析手法を用いて、例えば、「目前に広がる世界が脳内でどのように再構成されているのか」といった「脳の本質」を突く問題に取り組んでいます。

Recent advances in non-invasive techniques to measure human brain activity have enabled us to pursue the unknown mechanisms of the brain. Therefore, by using advanced brain measurement methods and data analysis methods, we are dealing with the problems that get at the heart of the brain, e.g., how the world in front of you is reconstructed in the brain.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会の授業時間の前半には、論文紹介や研究の進捗報告を行い、後半には、脳計測や解析に関する講義やグループ討論を行っています。実験は授業時間外に行っています。

In the first half of the Kenkyukai class, journal club and research progress report are conducted, and lectures and group discussion on the brain measurement and analysis are conducted in the second half.

Experiments are performed outside of class hours.

所属に向いている学生 Expected Students

脳に興味があり、研究主体の大学生活を考えている意欲の高い方を歓迎いたします。

We welcome anyone who is interested in the brain and has high motivation with the thought that the main part of university life is research.

卒プロ Graduation Projects

研究会の卒業生たちは個々の興味に基づいて意欲的に卒プロに取り組んできたため、どの研究テーマも印象に残っています。

Since alumni of this Kenkyukai have worked on graduate projects based on their individual interests with enthusiasm, each research theme is impressive for me.

specialty

健康情報とコミュニケーション / 公衆衛生 / 疫学  
Health Communication / Community Health / Public Health

e-mail

miki@sfc.keio.ac.jp

works

- 秋山美紀・宮垣元 (編著) (2022) 『ヒューマンサービスとコミュニティ』 勁草書房.
- 秋山美紀 (2013) 『コミュニティヘルスのある社会へ 「つながり」 が生み出す 「いのち」 の輪』 岩波書店.
- 秋山美紀 (2023) 『ヘルスケア変革のためのコミュニケーションの研究と実践』、琴坂将広 / 宮垣元 (編) 『社会イノベーションの方法と実践』 慶應義塾大学出版会.
- Miki Akiyama, Hirai K, Takebayashi T, et al. (2016) "The effects of community-wide dissemination of information on perceptions of palliative care, knowledge about opioids, and sense of security among cancer patients, their families, and the general public", *Supportive Care in Cancer*, 2016 Jan;24 (1) :347-356.



秋山 美紀

AKIYAMA MIKI

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

一人一人の健やかで幸せな状態 (Wellbeing) を実現するようなコミュニティについて考えを深め、包摂社会 (inclusive society) の実現に向けた実践を志向する人が、切磋琢磨しながら議論する場です。人とコミュニティに着目し、様々な社会科学的アプローチを融合し、ヘルスケアを取り巻く課題を解決するための研究を行っています。

Our Kenkyukai is a place for students who have passion to create community and inclusive society that achieve wellbeing of individuals. Focusing on social determinants of health, each student as well as groups are conducting research to solve issues surrounding healthcare by integrating interdisciplinary and participatory approaches.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会1は研究手法や理論を学ぶための輪読や個人の研究発表、研究会2はテーマごとのグループに分かれて研究活動をしています。

研究会1は研究手法や理論を学ぶための輪読や個人の研究発表、研究会2はテーマごとのグループに分かれて研究活動をしています。研究や活動のテーマは学生が設定します。Kenkyukai 1 consists of readings on theories and research methods and individual research presentations. Kenkyukai 2 is mainly for group research activities. Themes for research and activities are set by students.

所属に向いている学生 Expected Students

メンバーが切磋琢磨し学び合う場であり、活発な参加と貢献の意欲のある人を歓迎します。また、研究会2は地域フィールドでの活動もあり、コミットメントが求められます。

Our Kenkyukai is a place where members work hard and learn from each other, we welcome those who are willing to actively participate and contribute. In addition, Kenkyukai 2 includes activities outside of the campus (i.e. local elderly community) thus requires commitment.

卒プロ Graduation Projects

- 障害者が主体となって運営・活動する作業所の意義— 重度脳性麻痺者の語りから  
The Significance of Workplaces Operated and Activities Led by People with Disabilities: Narratives from People with Severe Cerebral Palsy
- 地域における介護予防のための「通いの場」を運営するボランティアスタッフの参加と継続に至る要因の探索  
Factors associating participation and continuity of volunteer staff running community place for the elderly
- 「痴漢」を生み出す日本社会の構造に関する考察  
A Study on the Structural problems of Japanese Society that Produces "Chikan (molester)"





安宅 和人

ATAKA KAZUTO

環境情報学部教授

speciality

データ× AI 時代の基礎教養 / 技術・デザインを包括した戦略立案 / 新商品開発  
Data science and data-driven thinking / Strategy building /  
New product development

works

- ・安宅和人 (2020) 「シン・ニホン AI×データ時代における日本の再生と人材育成」  
NewsPicks / パブリッシング
- ・安宅和人 (2010) 「イシューからはじめよ—知的生産の「シンプルな本質」」英治出版
- ・安宅和人 (2017) 「知性の核心は知覚にある」DIAMOND ハーバード・ビジネス・レ  
ビュー論文
- ・安宅和人 (2023) 「これからの人材育成を考える」文部科学省、今後の教育課程、学  
習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 (第3回)  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/184/siryo/mext\\_00002.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/184/siryo/mext_00002.html)

研究会 Seminars

研究会 A

都市集中型社会に対するオルタナティブの構築を目指し、文化創造、空間・インフラデザイン、生活・まち商業空間、食と農、教育、ヘルスケアなど課題の構造的背景と解決の方向性を見出すことを目指しています。加えて internet big data を活用した景気のメカニズムの探求、航空 big data、テキスト処理技術を活用した研究を実施しています。

Aiming to build alternatives to the urban-intensive society, we aim to find structural backgrounds and directions for solutions to issues such as cultural creation, space and infrastructure design, living and town commercial space, food and agriculture, education, and healthcare. In addition, we are exploring the mechanisms of the economy using internet big data, aviation big data, and text processing technology.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は1-2の実際課題のプロジェクトに参加し、外部の大人メンバーと実際に検討を行い、定期的に発表・検討の揉み込みをします。

Students will participate in 1-2 actual assignment projects, with actual review with outside adult members of the group, and regular presentation and review rubbings.

所属に向いている学生 Expected Students

様々なことへの知的好奇心と聞く耳を持ち、その人らしさとチャームに溢れ、生命力と推進力のある人。「データドリブン社会の創発と戦略」を優秀な成績で履修していること。

A person with intellectual curiosity about various things, an ear to listen, full of personality and charm, vitality and drive. Must have taken "Emergence and Strategies for a Data Driven Society" with distinction.

卒プロ Graduation Projects

- ・空間維持、上下水道、ごみ処理インフラの一人あたりコストが極度に居住者の密度に相関していることを示した研究  
Studies showing that the per capita costs of space maintenance, water, sewer, and waste disposal infrastructure are extremely correlated to the density of residents
- ・疎空間における文化創造の鍵となる要素とそれを成立させる系 (system dynamics) を整理した研究  
Research on the key elements of cultural creation in sparse spaces and the system dynamics that make them possible
- ・景気指標の値が人間の特定の欲望の多寡に直接関係していること、それがビッグデータから高度に予測可能であることを示した研究  
Research showing that the value of economic indicators is directly related to the amount of specific human desires, and that this is highly predictable from big data

speciality

バイオインフォマティクス / システム生物学 / ゲノム科学  
Bioinformatics / Systems Biology / Genome Science

e-mail

gaou@sfc.keio.ac.jp

works

- ・Arakawa, K et al. (2022) "1000 spider silkomes: Linking sequences to silk physical properties", *Science Advances*, 8 (41), pp. eabo6043.
- ・Arakawa, K. (2022) "Examples of Extreme Survival: Tardigrade Genomics and Molecular Anhydrobiology", *Annu Rev Anim Biosci*, 10, pp. 17-37.
- ・田中 牙, 荒川和晴 (2023) "最強生物クマムシの乾眠メカニズムの解析", *KEIO SFC JOURNAL*, 22 (2), pp. 178-190.
- ・荒川和晴 (2023) "クモ1,000種の解析からクモ糸高機能発現メカニズムを解明する", *実験医学*, 41 (4), pp. 580-584.



荒川 和晴

ARAKAWA KAZUHARU

政策・メディア研究科教授

研究会 Seminars

研究会 B

私たちは自然が作り出した例外的生物を対象に研究しています。例えば、我々は鋼を上回る強度を持つ《地上最強》の素材クモの糸の高機能発現メカニズムや、宇宙真空への10日間の直接曝露を経ても生存可能な《地上最強》生物クマムシの耐性メカニズムを、最先端の生命科学技術を用いて解明することに挑戦しています。

Our research focuses on exceptional organisms created by nature and evolution. For example, we are using cutting-edge life-science technologies to understand the high-performance mechanisms of spider silk, the toughest material exceeding steel in its strength, and the tolerance mechanisms of tardigrades, the toughest organism on earth, which can survive a 10-day direct exposure to the space vacuum.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は先輩アドバイザーと共に研究活動を行い、個別ないしプロジェクトのテーマを持ちます。週に一回ラボ全体の進捗ミーティングがあります。

Students work with a senior adviser on research activities and have an individual or project topic. There is a weekly lab-wide progress meeting.

所属に向いている学生 Expected Students

どのようなスケールであれ、何かしら自ら世界に変化をもたらすという気概を持つこと。

To have the determination to make a difference to the world in some way, whatever the scale.

卒プロ Graduation Projects

- ・マルチオミクス解析によるクモ篩板糸の用途理解  
Understanding Applications of Spider Cribellate Silk Using Multi-Omics Approaches
- ・クマムシの乾眠関連遺伝子のプロモーターのクマムシ種間における保存性解明  
Comprehensive identification of tardigrade-unique promoters associated with anhydrobiosis-related genes
- ・クマムシ *Acutuncus antarcticus* の寒冷・凍結耐性分子機構解明に向けた比較ゲノム解析  
Identification of the cold and freeze tolerance mechanisms in the tardigrade *Acutuncus antarcticus*



speciality

人間工学 / 機械と材料工学 / イスラーム学  
Ergonomics / Materials Engineering / Arabic and Islamic Studies

e-mail

amansour@keio.jp

ALMANSOUR AHMAD

アルマンスール アフマド

総合政策学部訪問講師 (招聘)

## 研究会 Seminars

## 研究会 B

研究会の目的は、イスラームに関する知識を深めることです。他の文化を理解すればするほど、世界はより平和になります。

毎週、イスラム教の研究に関連するさまざまなトピックに取り組みます。学生はトピックを提案することもできます。

The purpose of this research group is to deepen and broaden the knowledge related to Islam. The more we understand other cultures the more peace will prevail in the world.

Every week we are going to tackle different topic related to Islamic Studies. Students also can suggest topics.

### 研究会の進め方 Seminar Style

個グ他

先生から基本知識をある程度得た後に、学生がイスラームに関連するテーマの一つを選び調査します。

After the student get enough basic information from the teacher, the student chooses one topic related to Islam and do research related to it.

### 所属に向いている学生 Expected Students

イスラームや他文化に興味がある人。

Anyone who is interested in Islam or other cultures.

speciality

プラットフォームデザイン / 地域イノベーション / ファミリービジネスマネジメント  
Platform Design / Community Innovation / Family Business Management

works

- 飯盛義徳 (2015) 『地域づくりのプラットフォーム』学芸出版社。
- 飯盛義徳編著 (2021) 『場づくりから始める地域づくり』学芸出版社。
- 飯盛義徳 (2009) 『ケース・ブックⅣ 社会イノベーション』慶應義塾大学出版会。
- 國領二郎編著 (2011) 『創発経営のプラットフォーム』日本経済新聞出版社。



飯盛 義徳

ISAGAI YOSHINORI

総合政策学部教授

## 研究会 Seminars

## 研究会 A

飯盛義徳研究会では、地域における効果的なプラットフォーム設計の実践知の創造に挑んでいます。プラットフォームとは、多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらす基盤です。このプラットフォームをどのように設計すれば新しい活動や価値が生まれるようになるのか、アクションリサーチによってその方策を探究しています。

We are taking on the challenge of creating practical knowledge on effective platform design in the region. Platforms are the basis for social emergence through the interaction of diverse actors. Through action research, we are clarifying concrete measures on how to design these platforms so that new activities and values can be generated.

### 研究会の進め方 Seminar Style

個グ

授業では、プラットフォームやコミュニティなどに関する文献の精読を行います。授業以外の時間で、いろいろな研究プロジェクトを推進し、学んだことを実践にいかします。

In class, students will do a close reading of literature on platforms and communities. Outside of class, students carry out various research projects and apply what they learn in class to practice.

### 所属に向いている学生 Expected Students

行政など学外の方々とのコラボレーションが極めて多い研究会です。そのため、学び合いに深くコミットしてくださる方、学んだことを実践にいかすことに興味のある方の参加を希望しています。

We extremely often collaborate with people outside the university, such as local authorities. Therefore, we are looking for people who are deeply committed to learning from each other and who are interested in applying what they have learned to practice.

### 卒プロ Graduation Projects

- 地域づくり活動における効果的なプラットフォームデザイン  
Effective platform design in community development activities
- 持続的なファミリービジネスマネジメント  
Sustainable family business management
- コミュニティマネジメント  
Community management



石川 初

ISHIKAWA HAJIME

環境情報学部教授

speciality

ランドスケープアーキテクチャ / 地図学  
Landscape Architecture / Cartography

e-mail

hajimebs@keio.jp

works

- 石川初 (2018) 『思考としてのランドスケープ 一地上学への誘い』LIXIL出版
- 石川初 (2013) 『ランドスケール・ブック』LIXIL出版
- 石川初 (2023) 『建築学科初年度における地形教育の試み』『地形 (日本地形学連合)』43 (4), pp.129-140.
- 石川初 (2017) 『ものづくりのモデルとしての生活風景』KEIO SFC JOURNAL17 (1), pp.162-184.

研究会 Seminars

研究会 A

ランドスケープデザイン (外部空間や景観のデザイン) を基本に、その考え方や見方を広く様々なものごとに応用する方法を探る研究会です。

We consider the application of landscape design methods and thinking not only to spaces but also to various things, from products to society.

研究会の進め方 Seminar Style



任意参加の複数のプロジェクトが並立しています。それと並行して学生は個人研究に携わります。

There are several projects in which students participate voluntarily. In parallel, students are involved in individual research.

所属に向いている学生 Expected Students

絵が上手である必要はありませんが、観察や着想を積極的に絵に描くのを厭わないこと。街や野に出て、あらかじめ既知の意味を当てはめずに肯定的な発見ができること。

Be able to draw (does not have to be good).  
Be able to find the good in the field, not the problem.

卒プロ Graduation Projects

- まちの色採り —風景の色を捉えるワークショップのデザイン—  
Designing a workshop to capture the colors of the landscape
- 再耕 —ある農家の庭のプロフィール—  
Redrawing the history of a farmhouse garden
- 母親像構築による弔いのかたち  
Mourning my mother by reconstructing my mother's image

speciality

景観生態学 / 環境学 / 農村計画学  
Landscape ecology / Environmental sciences / Rural planning

works

- 亀山章監修・小野良平・一ノ瀬友博編著 (2021) 『造園学概論』. 朝倉書店, 204pp.
- 一ノ瀬友博編著 (2021) 『生態系減災Eco-DRR - 自然を賢く活かした防災・減災』. 慶應義塾大学出版会, 228pp.
- 一ノ瀬友博 (2010) 『農村イノベーション—発展のための撤退の農村計画というアプローチ』. イマジン出版, 93pp.
- 一ノ瀬友博 (2023) 『持続可能な社会構築のためのグリーンインフラ』. 129-144. 琴坂将広・宮垣元編『社会イノベーションの方法と実践』, 慶應義塾大学出版会.



一ノ瀬 友博

ICHINOSE TOMOHIRO

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

気候変動や生物多様性喪失といった地球環境問題に取り組むために、生態学を基盤として都市計画や緑地計画、農村計画の分野からアプローチしています。自然環境と人間社会の両面から持続可能な社会を形成することを目指します。自然や生物に興味がある方はもちろんのこと、都市や景観に興味のある方も大歓迎です。

In the face of pressing global environmental concerns like climate change and biodiversity loss, we are charting a path forward by leveraging our expertise in urban, open space, and rural planning—all grounded in the principles of ecology. Our mission is to shape regions that balance sustainability and vitality, harmonizing both the natural environment and human society. Whether your passion lies in the exploration of nature and living organisms, or you're captivated by urban and rural landscapes, we welcome you to join us on this journey towards a sustainable future.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会は、2種類開講していて、一つは個人研究を進めるもの、もう一つはグループでプロジェクトを進めるものです。卒業プロジェクトは個人研究で行います。

Two types of Kenkyukai are offered, one to pursue individual research and the other to pursue group projects. Graduation projects are conducted through individual research.

所属に向いている学生 Expected Students

生物が好きな方、自然が好きな方、野外で活動することが好きな方に向いています。ただし研究会の時間以外に活動できることが条件です。

It is suitable for those who like living organisms, nature, and outdoor activities. However, you must be able to work outside of the Kenkyukai hours.

卒プロ Graduation Projects

- 都市化地域における2つの空間スケールでのオオタカ  
の繁殖地選択に影響を与える要因について  
Factors Affecting breeding-site selection of  
northern goshawks at two spatial scales in  
urbanized areas
- 都市緑地における標識とWebページを用いた環境学  
習プログラムの開発と効果検証  
Development and effect validation of  
environmental education program at the urban  
open space, using signs and web pages
- 動物の移動を調査する有益な手段としてのドローンの  
活用  
Unmanned aerial vehicles as a useful tool for  
investigating animal movements





印南 一路

INNAMI ICHIRO

総合政策学部教授

speciality

意思決定論・交渉論・組織論 / 医療福祉政策  
Decision Making / Negotiation & Organizational Behavior / Health Policy

e-mail

zion@sfc.keio.ac.jp

works

- ・印南一路、堀真奈美、古城隆雄（2012）『生命と自由を守る医療政策』東洋経済新報社
- ・印南一路編著（2016）『再考・医療費適正化—実証分析と理念に基づく政策案』有斐閣
- ・印南一路（2006）『社会的入院の研究—高齢者医療最大の病理にいかに対処すべきか』東洋経済新報社
- ・印南一路（1997）『すぐれた意思決定—判断と選択の心理学』中央公論新社

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会1は「意思決定研究とサイバービジネスの実践」で、意思決定領域（交渉や社会現象を含む）で自由にテーマを選び研究します。研究の方法論はしっかりしたものを求めます。研究会2は「医療政策と医療機関経営」で、医療分野（介護を含む）の研究を行います。

Seminar 1 is on the research in decision-making and negotiation, and practice of cyber business. Seminar 2 is on the healthcare policy and management.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会1の意思決定研究では基本的に個人ベースの研究になります。サイバービジネス実践では、グループが基本になります。研究会2では、個人ベースの研究になります。定期的に発表を行い講師とTAがコメントします。

Seminar 1: research on decision-making and negotiation require individual study according to the scientific way, the practice of cyber business requires group works.

所属に向いている学生 Expected Students

研究会1も2も研究については、自分でテーマを見つけ、講師の指示に従い、アカデミックな方法で研究できる人が望ましい。研究会1のサイバービジネス実践では、積極的に自分で動かないと何も進みません。研究会2では、医療制度に関する知識がないと研究できません。

Both seminars, if you choose research, require that you find your own theme, conduct studies according to scientific ways as you instructed by the instructor. The practice of cyber business in Seminar 1 requires that you are on your own. Seminar 2 requires that you have knowledge on healthcare delivery and insurance systems.

卒プロ Graduation Projects

- ・オンライン服薬指導  
About on-line pharmaceutical guidance
- ・イスラム系移民の宗教慣行の変化  
The change of religious behavior of Islamic immigrants
- ・医療崩壊に関する新聞等の報道に関する分析  
Empirical research on mass media reports about 'Medical Crisis' phenomenon

speciality

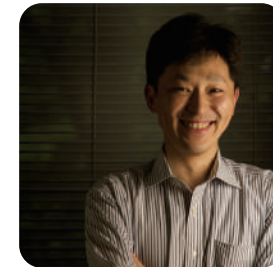
コンピュータネットワーク  
Computer Networks

e-mail

kei@sfc.keio.ac.jp

works

- ・植原啓介、“プロープ情報システム：車載センサを活用した環境情報の取得”、『情報処理』、Vol.51、No.9、pp.1144-1149、2010年9月
- ・植原啓介、“センタレスプロープ情報システム”、『自動車技術』、Vol.66、No.4、pp.106-107、2012年4月
- ・植原啓介、“『震災復興インターネット』の活動”、『三田評論』、No.1147、pp.28-33、2011年7月
- ・西田知博、植原啓介、角谷良彦、中野由章、“『情報科』の大学入試実施のためのCBTシステムの開発とその検討”、『大学入試研究ジャーナル』、第29号、pp.117-123、2019年3月



植原 啓介

UEHARA KEISUKE

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

2つの全く異なる研究会を主催しています。1つ目は「ネットワーク運用と実空間インターネット」という研究会で運用や応用を含むインターネット技術について研究をしています。もう1つは「水俣研究」という研究会で、熊本県水俣市での活動がメインになっています。

I have two very different research groups: the first is “Network Operations and Real Space Internet” research group. In the group we studies Internet technologies, including its operations and applications. The second one is “Minamata Research” research group, which is action research group in Minamata City, Kumamoto Prefecture.

研究会の進め方 Seminar Style



基本的には研究会の守備範囲で学生自身が興味をもった問題に取り組みます。研究会の時間に発表を行い、学生同士でディスカッションしたり教員が指導したりします。

Basically, students work on issues of their own interest within the scope of the research area of research group. Students make presentations during the class, and discuss them. In addition, a faculty member gives guidance.

所属に向いている学生 Expected Students

インターネットの研究会ではインターネットおよびプログラミングのスキルがあることが望ましいです。水俣研究ではリアルな社会問題に興味を持っていることが求められます。

Internet and programming skills are preferred for the Internet research group. Minamata research group requires an interest in real social issues.

卒プロ Graduation Projects

- ・コンシューマー機のP2PオンラインゲームにおけるQoEと疑似QoSのモデル化  
Modeling QoE and Pseudo-QoS in P2P Online Games on Consumer Machines
- ・高速かつ柔軟なNFV型Stateless NAT64機能の設計と提案  
Fast and flexible NFV-type Stateless NAT64 implementation
- ・カラーツーリズムが水俣にもたらす可能性  
The potential of color tourism for Minamata



牛山 潤一

USHIYAMA JUNICHI

環境情報学部教授

speciality

運動生理学 / 神経科学  
Exercise Physiology / Neuroscience

works

- Suzuki R, Ushiyama J. Context-Dependent Modulation of Corticomuscular Coherence in a Series of Motor Initiation and Maintenance of Voluntary Contractions. *Cerebral Cortex Communications*, 1: 1-14. tga074, doi: 10.1093/texcom/tgaa074, 2020.
- Ushiyama J, Yamada J, Liu M, Ushiba J. Individual difference in  $\beta$ -band corticomuscular coherence and its relation to force steadiness during isometric voluntary ankle dorsiflexion in healthy humans. *Clinical Neurophysiology* 128: 303-311, 2017.
- Matsuya R, Ushiyama J, Ushiba J. Prolonged reaction time during episodes of elevated  $\beta$ -band corticomuscular coupling and associated oscillatory muscle activity. *Journal of Applied Physiology* 114: 896-904, 2013.

研究会 Seminars

研究会 A

私たち人間の根源的な営みともいえる「身体運動」は、どのように生み出され、調整され、学習されているのでしょうか？ 本研究会では、「脳⇄身体⇄環境」のあいだでやりとりされる情報を生理学的／心理学的に読み解くことで、「人間」という存在の神秘と本質を理解することを目指します。

Our brain and body are always interacting each other by sending information named “neural signals”, and being essentials for our movements and sensations. In this seminar, by considering the brain and body as a system, we are trying to learn the control and learning mechanisms of our bodily movements and to understand the secrets and essentials of humans from physiological and/or psychological points of view.

研究会の進め方 Seminar Style



「ひとり1テーマ」が本研究室の大原則です。似たような方法論を用いて研究を進める学生たちが主体的に勉強会や意見交換を行なっています。

“1 student, 1 research topic” is a core rule of our laboratory. Students with similar research methodologies are actively performing student meetings and discussions.

所属に向いている学生 Expected Students

「独立自尊」の精神をもち、自分から主体的に行動できる学生…自ら動ける時間を探し、文献調査／実験／解析に取り組み、そのトライアンドエラーのなかから学ぶ実践知をもっとも重要視しています。したがって、タイムマネジメント力がとても重要です。腰が重いタイプの学生には不向きだと思います。逆に、アクティブな学生にはその分支援は惜しみません。

I hope to collaborate with students who can actively work with “DOKURITSU-JISON” spirit. You should manage your time by yourself to read academic papers, go to the lab, and try to acquire and analyze data. Therefore, if you are slow to act, you might not fit to our lab. On the contrary, I am unstinting in my best support for you, if you are actively promoting your research.

卒プロ Graduation Projects

- 筋の長さによって変わる脳と身体のシンクロ性  
Changes in synchrony between the brain and periphery depending on muscle length
- 随意運動のよる時間知覚の歪み  
Time perception distorted by voluntary movements
- 化粧動作の運動制御  
Motor control of make-up movements

speciality

地震学 / 災害情報 / 防災教育  
Seismology / Disaster Information / Safety Education

e-mail

soki@sfc.keio.ac.jp

works

- 大木聖子・織継一起（2011）『超巨大地震に迫る—日本列島で何が起きているのか—』NHK出版新書
- Satoko Oki, T.linuma, R.Yamazaki, S.Tagami, 2018, “Measuring the Effectiveness of Disaster Reduction Education through the ‘Community of Practice Theory’”, *Journal of Human Security Studies*. Special Issue 2018-1, pp.21-42
- 大木聖子（2021）『南海トラフ巨大地震を伝える未来の物語』『都市問題』, vol.112, pp.10-14
- 大木聖子（2011）『地球の声に耳をすませて』くもん出版



大木 聖子

OKI SATOKO

環境情報学部准教授

研究会 Seminars

研究会 A

大切に思う人の命と生活を、自然災害から守るために必要な研究を行っています。大地震や豪雨が起きることは止められませんが、それが災害となるかどうかは、私達の社会のあり方や個々人の行動に関わっています。未来の不確実なネガティブな事象に対して、いかに主体的に取り組んでもらえるか、研究しています。

We conduct research necessary to protect the lives and livelihoods of those we care about from natural disasters.

We cannot stop large earthquakes and torrential rains from occurring, but whether or not they become disasters depends on the state of our society and our individual actions. We are investigating how we can be proactive in dealing with uncertain and negative events in the future.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会では防災に関わる学術的な勉強をみんなで行い、それ以外の時間にグループや個人で研究プロジェクトを進めていく、進捗を共有する。

In the kenkyukai, everyone studies academic studies related to disaster prevention, and in other time, groups and individuals work on their research projects and share their progress.

所属に向いている学生 Expected Students

命に向き合う覚悟のある人。

A person who is ready to face people's death and life.

卒プロ Graduation Projects

- 机上訓練や実動訓練、防災教育など、実地の防災演習の効果を学術的に紐解いたもの  
Academic unraveling of practical disaster management exercises, such as desk exercises, practical drills and education
- 理科実験や断層保存など、サイエンス・コミュニケーションと防災を結びつけて考察したもの  
A study linking science communication and disaster prevention, such as science experiments and fault preservation
- 所属する部活やサークル、バイト／インターン／就職先などの防災対策を講じたもの  
Research on disaster prevention measures for clubs, circles, part-time job/internship places



仰木 裕嗣

OHGI YUJI

政策・メディア研究科教授

speciality

スポーツ工学 / スポーツバイオメカニクス / 生体計測  
Sports Engineering / Sports Biomechanics / Human Sensing

works

- 太田憲, 仰木裕嗣, 木村広, 廣津信義著, データサイエンスシリーズ11, 『スポーツデータ』, 共立出版, 2005.8.
- James D., Busch A., Ohgi Y., Quantitative Assessment of Physical Activity Using Inertia Sensors, Nigel K. Pope, et al. eds., *Digital Sport for Performance Enhancement and Competitive Evolution*, Information Science Publishing, Chapter VII, pp.122-135, (2009)
- 仰木裕嗣, 障がい者スポーツを支える技術開発-東京/パラリンピックを振り返る-, 『電子情報通信学会誌』, Vol.105, No.8, pp.771-776, 2022.
- 仰木裕嗣, SFC におけるパラリンピック支援研究開発, *KEIO SFC JOURNAL*, Vol.20, No.1, pp.50-65, 2020.

研究会 Seminars

研究会 A

研究会では「スポーツバイオメカニクス」と「スポーツエンジニアリング」のいずれかに取り組みます。前者は「どうやったら巧くなるのだ?」というアスリートの疑問, すなわちスポーツの「技」や「パフォーマンス」に潜む知について学びます。またスポーツにおける運動だけでなく, リハビリテーションにおけるヒトの運動解析, 楽器演奏や職人の技能といったヒトがもつ高度な運動機能を研究対象にします。後者はスポーツにおける支援技術開発, ウェアラブルデバイス開発, など工学的視点からスポーツ・身体運動を支えることを目標にします。

We will work on either 'sports biomechanics' or 'sports engineering'. The former is the question athletes ask themselves, "How do I get better?"; i.e. the knowledge behind the "skill" and "performance" of sport. In addition to sports, research targets include human movement analysis in rehabilitation, and advanced human motor functions such as playing musical instruments and craftsmanship. The latter aims to support sports and physical exercise from an engineering perspective, including the development of assistive technologies in sports and wearable devices.

研究会の進め方 Seminar Style



学期中は, A-Cのいずれかのテーマのグループに所属し, その中でのディスカッション,

プレゼンテーションを行う。(A) 3Dプリンティング技術のスポーツ・福祉・医療に向けた応用, (B) リンクセグメントモデル・粘弾性モデル等によるヒトや動物の運動解析, (C) スポーツおよびリハビリテーションの遠隔コーチングに関する技術開発。

During the semester, students will be assigned to a group on one of the themes A-C, and will engage in discussions and presentations within that group. (A) Applications of 3D printing technology for sports, welfare and medicine, (B) Analysis of human and animal movement using link segment models, viscoelastic models, etc., (C) Technological development of remote coaching for sports and rehabilitation.

所属に向いている学生 Expected Students

数理モデルでスポーツを考えることをいとわない人。実験手法の学び, データ解析など手間を惜しまない人。

People who are willing to think about sports in terms of mathematical models. People who are willing to take the time and effort to learn experimental methods and analyse data.

卒プロ Graduation Projects

- 足型測定における足底弾性計測システムの提案  
A proposal of plantar elasticity measurement system for foot shape measurement

speciality

Wellbeingのためのコンピューティング / モバイル・ユビキタスコンピューティング  
Computing for Wellbeing / Mobile and Ubiquitous Computing

e-mail

slash@sfc.keio.ac.jp

works

- Tadashi Okoshi, Julian Ramos, Hiroki Nozaki, Jin Nakazawa, Anind K Dey, Hideyuki Tokuda (2015) "Reducing users' perceived mental effort due to interruptive notifications in multi-device mobile environments", *Proceedings of the 2015 ACM International Joint Conference on Pervasive and Ubiquitous Computing*, 475-486
- Tadashi Okoshi, Kota Tsubouchi, Hideyuki Tokuda (2019) "Real-world product deployment of adaptive push notification scheduling on smartphones", *Proceedings of the 25th ACM SIGKDD International Conference on Knowledge Discovery & Data Mining*, 2792-2800



大越 匡

OKOSHI TADASHI

環境情報学部准教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

コンピューティング環境に加えてAIの存在もユビキタス化していく21世紀において、フィジカル空間/サイバー空間双方に広がる我々生活の多様な局面における多義的なウェルビーイングの向上・促進に資する、新しいIT/AI技術、システムの研究開発を行っています。

In the 21st century, when AI is becoming ubiquitous in addition to computing, we are researching and developing new IT/AI technologies and systems that contribute to improving and promoting multifaceted wellbeing in various aspects of our lives, both in physical and cyber spaces.

研究会の進め方 Seminar Style



KGと呼ぶ学生主導の研究グループ毎に属しながら、自分自身のやりたい研究テーマを発見・定義し、その技術的解決手法や課題の明確化、システムの設計・実装・評価まで、時間を忘れて夢中で研究します。

While belonging to student-led research group ("KG": Kenkyu Group), each student discover and define their own research theme, clarify the technical solution methods and challenges, design, implement, and evaluate the system, losing the sense of the time.

所属に向いている学生 Expected Students

プログラミングやコンピュータが好きでたまらない人。そしてそれらを使って何か新しい/面白いシステムを作って社会に聞きたい人。時がたつのを忘れてそれらの活動に没頭できる人。

People who love programming and computers. People who want to use them to create new/interesting systems and deploy to society. People who can lose track of time and immerse themselves in these activities.

卒プロ Graduation Projects

- Cyberoception: サイバー空間上の無意識的な基本操作への感覚  
Cyberoception: Sense of User Activity in Cyber Space
- アイトラッキングによる感情推定と視界映像からの物体検出を用いた物体への感情データセット作成システム  
A system for creating emotion datasets for objects using emotion estimation by eye tracking and object detection from visual field images
- SmileWave: 自撮り画像を介したネットワーク情動伝染の評価  
Investigating the occurrence of selfie-based emotional contagion over social network





## 大堀 壽夫

OHORI TOSHIO

環境情報学部教授

### specialty

言語学 (意味論、機能的類型論、談話分析)  
Linguistics (Semantics, Functional typology, Discourse analysis)

### works

- 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』 東京大学出版会.
  - 大堀壽夫 (2023) 『語彙意味論の冒険』 宮代康丈 & 山本薫 編集『言語文化とコミュニケーション』 慶應義塾大学出版会.
  - 大堀壽夫 (2014) 『従属節の階層を再考する』 益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦 編集『日本語複文構文の研究』. ひつじ書房
  - 大堀壽夫 (2013) 『That's whyの談話機能』 秋元美治・前田満 編集『構文化と文文化』. ひつじ書房.
- その他、とある国民的キャラクターのネーミングの仕事をしたこともあります。

## 研究会 Seminars

## 研究会 A

言語の構造と機能に着目し、私たちの日常生活が語や構文の談話文脈での使用を通じてどのように構築されているかを理解することを目的としています。主として認知・機能言語学の枠組みをとっていますが、社会言語学、会話分析、記号論、コーパス言語学など、利用可能なアプローチにも目を向けます。

We'll look at the structure and function of language and try to understand how our everyday reality is constructed via the use of words and grammatical constructions in the discourse context. The framework to be adopted is that of cognitive-functional linguistics, but students are also encouraged to learn whatever approach that they find useful, including sociolinguistics, conversation analysis, semiotics, and corpus linguistics.

### 研究会の進め方 Seminar Style



言語分析関連の講読および各人のプロジェクト報告。

Reading of literature on linguistics and students' project report.

### 所属に向いている学生 Expected Students

言語の詳細な分析を好んで行い、その結果を心のはたらきに結びつけて考察する。

Those who love analyzing language in detail and connecting its result to understanding how the mind works.

### 卒プロ Graduation Projects

- 英語 [ADV and ADV] 構文のマルチモーダル性：コロストラクショナルアプローチ  
On the multimodality of English [ADV and ADV] construction: A colostruational approach
- 日本語におけるコロナウイルスに対する戦争メタファー  
War metaphors for coronavirus in Japanese
- インターネットスラングの認知言語学的考察：「親ガチャ」を例に  
A cognitive linguistic study of the internet slang: the case of "oya-gacha"

### specialty

機械工学 (機械力学・制御、自動車工学)  
Mechanical Engineering / Automotive Engineering / Advanced Vehicle Control and Safety Systems

### e-mail

omae@sfc.keio.ac.jp

### works

- SFC内シャトルバス (So-Kan-Kan) の自動運転システム  
Automated Driving System of the So-Kan-Kan, shuttlebus in SFC



## 大前 学

OMAE MANABU

環境情報学部教授

## 研究会 Seminars

## 研究会 B (1) / 研究会 B (2)

いつでも、だれでも、どこへでも行ける社会の実現に向けた技術面からのアプローチとして、自動車の自動運転技術に関する基礎知識とスキルを醸成します。実験車の構築、実車実験、自動運転シャトルバス (So-kan-kan) の運行などにより、机上の知識やシミュレーションに留まらない実践的な取り組みを行っています。

As technical approach towards realizing a society where anyone, anytime, and anywhere can go, we are fostering fundamental knowledge and skills related to automated driving technology. Through activities such as building experimental vehicles, conducting field tests, and operating automated shuttle buses (So-kan-kan), we are engaging in practical initiatives that go beyond theoretical knowledge and simulations.

### 研究会の進め方 Seminar Style



授業は月曜日の2、3限に実施し、前半は、主に自動運転技術に関する基礎知識の勉強を行い、後半は、個人あるいはチームで推進するプロジェクトの進捗報告などを行います。

The classes are conducted on Mondays during the 2nd and 3rd periods. In the first half, we mainly focus on studying

fundamental knowledge about automated driving technology. In the second half, we conduct progress reports on individual or team-driven projects that we are working on.

### 所属に向いている学生 Expected Students

車、バイク、ロボット、プログラミング、ゴルフ、タイ、熱帯魚などが好き (全部を好きでなくて良いです) で、モノを作ったり、動かしたりすることに興味がある人。

A student who is interested in control machines using computer and has a liking for cars, motorcycles, robots, programming, golf, Thailand, tropical fish, and can understand lectures given in Japanese language.

### 卒プロ Graduation Projects

- 自動運転車と歩行者のコミュニケーションのための目玉型表示デバイスの開発  
Development of eye-ball shaped devise for communication between autonomous vehicle and pedestrian
- 小型EVを使った後進方向の自動運転に関する研究  
Study on vehicle motion control in reverse direction for autonomous vehicle
- 自動運転バスの運用の高度化のための機械学習を用いた歩行者挙動認識に関する研究  
Study on pedestrian behavior recognition using machine learning for advanced operation of automated shuttlebus



岡田 暁宣

OKADA AKIYOSHI

環境情報学部教授

speciality

精神分析 / 力動精神医学 / 青年期精神医学  
Areas of Expertise / Psychoanalysis / Dynamic Psychiatry

e-mail

psyche@sfc.keio.ac.jp

works

- 岡田暁宣 (2017) 「週一回の精神分析的療法におけるリズム性について」『週一回サイコロピー序説: 精神分析からの贈り物』, pp.47-59.
- 岡田暁宣 (2015) 「きたやまおさむ」と「北山修」を複眼視すること『北山理論の発見—錯覚と脱錯覚を生きる』, pp.183-204.
- Okada, A. (2021) "The health insurance system and psychoanalytic psychotherapy in Japan: the association with evidence-based practice", *Psychoanalytic Psychotherapy*, 36 (4) , pp. 288-299.
- Okada, A. (2016) "On Becoming a Psychoanalyst in Japan", *Psychoanalytic Inquiry*, 36 (2) , pp. 155-161.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

本研究会は、Sigmund Freudが発見した精神分析的世界観に基づいています。本来、精神分析は、臨床実践の方法ですが、SFCのカリキュラムは、心理臨床家の養成を目的としていません。よって本研究会では「リベラルアーツとしての精神分析」を目指しています。

所属に向いている学生 Expected Students

人間の「こころ」、特に自らの「こころ」に関心があり、自分自身のフィールドや体験を生かして、人文学系の研究に価値を見いだせる人。

卒プロ Graduation Projects

- 当事者研究
- 精神分析的考察
- 質的研究

研究会の進め方 Seminar Style



各自で自らの研究テーマをもち、それぞれのグループで交流と討論を行います。毎週の研究会では、学生は研究発表とともに精神分析的な議論を深めます。

speciality

歴史社会学  
Historical Sociology

e-mail

oguma@sfc.keio.ac.jp

works

- Oguma, Eiji. (2002) *A genealogy of 'Japanese' self-images*, Trans Pacific Press.
- 小熊英二 (1998) 『<日本人>の境界—沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』新曜社.
- 小熊英二 (2002) 『<民主>と<愛国>—戦後日本のナショナリズムと公共性』新曜社.
- Oguma, Eiji. (2021) "The Other "Post-1968": A Socio-Historical Analysis of the Resurgence of the Conservatives in Japan's Long 1960s," *International Quarterly for Asian Studies* 52 (3-4) 229-252.



小熊 英二

OGUMA EIJI

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

社会科学の理論や方法論を身につけるため、それらを近現代日本の諸現象の分析に適用することで、その思考法を学び取ることを目的とする。理論面では、広義の「構築主義」に分類される社会学理論を中心にその発想を応用する。

The objective of my seminar is to learn the theories and methodologies of the social sciences by applying them to the analysis of various phenomena in modern and contemporary Japan. In terms of theory, we are focusing on sociological theories classified as social constructionism in the broad sense.

研究会の進め方 Seminar Style



卒論や修論にむけた個人研究をプレゼンテーションし、教員コメントを受け、学生が報告者を交えてグループで討議する。学生は、その週のうちに報告者へのコメントを文章にして提出し、主題と方法論の整合性を中心に改善を促す。

Students present individual research for their thesis, receive faculty comments, and engage in group discussion with the student presenter. Students will submit written comments to the presenter during the week to encourage improvement.

所属に向いている学生 Expected Students

社会学について基礎知識と、研究および論文執筆の基本を、担当教員の講義から学んでいること。

Basic knowledge of sociology and the fundamentals of research and academic writing.

卒プロ Graduation Projects

- 地域の就労・教育支援のフィールドワーク  
Fieldwork research of local employment and educational support
- 戦後日本思想における民主主義とアメリカ観  
Democracy and US-Japan relationship in Postwar Japanese Thought
- 階層間格差の計量分析  
Statistic data analysis of class disparities in Japan



加藤 貴昭

KATO TAKAAKI

環境情報学部教授

speciality

人間工学 / スポーツ心理学 / 熟達化  
Ergonomics / Sport Psychology / Expertise

e-mail

tiger@sfc.keio.ac.jp

works

- Kato T. (2020) . Using "Enzan No Metsuke" (Gazing at the Far Mountain) as a Visual Search Strategy in Kendo. *Frontiers in sports and active living*, 2, 40. <https://doi.org/10.3389/fspor.2020.00040>
- 日本スポーツ視覚研究会 編. (2019) .『スポーツパフォーマンスと視覚：競技力と眼の関係を理解する』. ナップ.
- 加藤貴昭, 古谷知之, & 南政樹. (2020) . e スポーツという大いなる可能性. *KEIO SFC JOURNAL*, 20 (1) , 184-207.
- 日本野球科学研究会シンポジウム. (2023) . 心を科学する～野球心理学への招待、最高のパフォーマンス発揮への探究～. 『Baseball Clinic』 2023年5月号.

研究会 Seminars

研究会 A

人間工学の分野では、印象評価や生体反応を元に人間と環境との調和を実現するための実践的な応用を目指します。

スポーツ心理学の分野では、エキスパートが発揮する高いパフォーマンスを支える視覚特性や心理的特性といった非言語的・包括的な知について考察します。

In the field of ergonomics, we aim for practical applications to achieve harmony between humans and the environment based on impression evaluation and biological responses.

In the field of sports psychology, we examine non-verbal and comprehensive knowledge such as visual and psychological characteristics that support the high performance exhibited by experts.

研究会の進め方 Seminar Style



個人研究は各自のテーマで研究に取り組み、卒業論文を目指します。グループ研究は外部との共同研究をはじめ、特定のテーマについてチームとして研究を進めます。

Individual research is conducted on a theme of one's own, with the goal of completing a graduation thesis. Group research is conducted as a team on a specific theme, including joint research with external parties.

所属に向いている学生 Expected Students

研究会を最優先にできる人。責任をもって最後まで研究を進められる人。人を測ることに興味がある人。英語論文を読める人。

The candidate must be able to make research meetings a top priority, be able to take responsibility and carry out research to the end, have an interest in measuring people, and be able to read English papers.

卒プロ Graduation Projects

- 歩きスマホの危険性と予防法提案（二重課題下での段差認識による検証）  
Dangers of Walking Smartphone and Proposed Prevention Methods (Verification by Recognizing Steps under Double Task)
- 眼球運動と知覚 - 認知スキルを元にしたeスポーツ競技者の熟達度予測  
Expertise identification of MOBA genre esports players based on eye movements and perceptual-cognitive skills
- ラリードライバーの注視行動と運転操作  
Gazing behavior and driving maneuvers of rally drivers

speciality

コミュニケーション論 / メディア論 / 定性的調査法  
Communication and media studies / Qualitative research methods

e-mail

fk@sfc.keio.ac.jp

works

- 加藤文俊 (2018) 『ワークショップをとらえなおす』ひつじ書房.
- 加藤文俊 (2016) 『会議のマネジメント：周到な準備、即興的な判断』中央公論新社.
- 加藤文俊 (2015) 『おべんととう日本人』草思社.
- 加藤文俊ほか (2014, 共著) 『つながるカラー：コミュニケーションを「味わう」場所をつくる』フィルムアート社.



加藤 文俊

KATO FUMITOSHI

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

人と人との〈コミュニケーション〉は、いつか、どこかで、誰かとおこなわれます。つまり〈コミュニケーション〉は、時間・空間をどのように調整するかという課題と直結していることとなります。フィールドワークやインタビューに代表される質的な方法をとおして、共にいること、場をつくることについて実践的に考えます。

Human "communication" will occur at some time, somewhere, and with someone. In other words, "communication" is directly related to the issue of how to understand and organize time and space. Through qualitative methods such as fieldwork and interviews, we explore being together and creating places.

研究会の進め方 Seminar Style



毎学期、指定されたテーマでグループワークをすすめ、成果をまとめた冊子を編纂します。年度末には展覧会を開いて、成果を広く「世に問う」場所をつくります。

Each semester, group work is conducted on a designated theme and the results are compiled into a booklet. At the end of the school year, an exhibition will be held to present the results to the public.

所属に向いている学生 Expected Students

本を読む、文章を書く、人と話す、まちを歩くなど、日常生活のなかで五感を駆使しながら主観的な感情や表現について理解を深めようとする人。

An individual who seeks to deepen one's understanding of subjective feelings and expressions by using all five senses in daily life, such as reading books, writing, talking with people, walking around town, etc.

卒プロ Graduation Projects

- コミュニケーション過程の観察・記述に関する調査研究  
Research on observation and description of human communication processes
- 人びとの生活史・生活誌に関する調査研究  
Research people's life histories and life documents
- 場のデザイン、ファシリテーションに関する調査研究  
Research on place design (place making) and facilitation





金井 昭夫

KANAI AKIO

政策・メディア研究科教授

speciality

分子生物学 / 分子進化学  
Molecular Biology / Molecular Evolution

e-mail

akio@sfc.keio.ac.jp

works

- Tsurumaki, M., Saito, M., Tomita, M. and Kanai, A. (2022) Features of smaller ribosomes in Candidate Phyla Radiation (CPR) bacteria revealed with a molecular evolutionary analysis. *RNA* 28 (8) : 1041-1057.
- Saito, M., Sato, A., Nagata, S., Tamaki, S., Tomita, M., Suzuki, H., and Kanai, A. (2019) Large-scale Molecular Evolutionary Analysis Uncovers a Variety of Polynucleotide Kinase Clp1 Family Proteins in the Three Domains of Life. *Genome Biology and Evolution* 11 (10) : 2713-2726.
- Kanai, A. (2013) Molecular evolution of disrupted transfer RNA genes and their introns in archaea. in *Evolutionary Biology: Exobiology and Evolutionary Mechanism* Springer-Verlag Berlin Heidelberg, Germany. pp. 181-193.

研究会 Seminars

研究会 B

本プロジェクトでは、遺伝子制御に関わる機能性RNAやRNA関連酵素に焦点をあて、RNAレベルで制御される新しいメカニズムの解明を目的とします。またこの研究を通して、生命の起源、分子の進化、遺伝子制御の基盤について考察していきます。

In this project, we will focus on functional RNAs and RNA-related enzymes involved in gene regulations, and aim to elucidate new mechanisms controlled at the RNA level. Through this research, we will also consider the origin of life, molecular evolutions, and the basis of gene regulations.

研究会の進め方 Seminar Style

個

基本的に1人の学生が1つの研究テーマで研究を進めます。

Basically, one student carries out research on his/her own research theme.

所属に向いている学生 Expected Students

鶴岡の先端生命科学研究所に滞在できること。Being able to stay at the Institute for Advanced Biosciences in Tsuruoka.

卒プロ Graduation Projects

- 分断されたtRNA遺伝子の解析  
Analysis of the disrupted tRNA genes
- 普遍遺伝暗号表に従わないtRNAの解析  
Unexpected tRNAs that do not consistently obey the universal genetic code
- 超好熱性アーキア(古細菌)も暑がる  
Heat shock responses of hyperthermophilic archaea

speciality

数学(代数学、幾何学、数理物理学)  
Mathematics (Algebra, Geometry, Mathematical Physics)

works

- 金沢篤, 「数学と総合政策学」 「総合政策学の方法論的展開」, 慶應義塾大学出版会, 2023



金沢 篤

KANAZAWA ATSUSHI

総合政策学部准教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

本研究会は広い意味での「数学」をテーマとしています。数学はあらゆる学問の基礎となる汎用性が高い「古くて新しい」学問です。実際、純粋な学問として長い歴史を持つ一方で、物理学、工学、経済学、計算機科学といった現代情報社会の基礎分野にも深い影響を与えてきました。

The theme of the research seminar is "mathematics" in a broad sense. Mathematics has a long history of study and is essential in many fields such as physics, engineering, economics and computer science. In fact, the importance of mathematics has been increasing in the modern information society.

研究会の進め方 Seminar Style

個グ

学期初めに研究テーマを決めて、グループごとに関係する文献や論文の輪読を行います。個人で学習を進めることも可能です。基礎から応用まで柔軟に対応します。担当教員が講義を行うこともあります。これまで扱った話題: 代数系(群環体, 圏), 微分幾何, 微分方程式, 深層学習, 数理論理学, 流体力学, グラフ理論, 複素関数論, 構成的型理論, GANの数理, 金融工学, 量子力学, 表現論。

We choose a few topics (depending on students' background and interests) and run

reading seminars where every student reads, writes and contributes to the discussion. We greatly appreciate diversity of research topics. The instructor may give a series of lectures. The topics that we discussed include: algebraic structure (groups, rings, fields, category), differential geometry, differential equations, deep learning, mathematical logic, fluid dynamics, graph theory, complex functions, constructive type theory, GAN, financial engineering, quantum mechanics, representation theory.

所属に向いている学生 Expected Students

線形代数, 微分積分, 確率を習得していることは必須。高い向上心と自主性があり, 数学に真摯に取り組めること。

Familiarity with linear algebra, multivariable calculus and probability. High desire to improve, independence, self-discipline for diligently studying mathematics.

卒プロ Graduation Projects

- Schur多項式からみる表現論と幾何学  
Representation theory and geometry via Schur polynomials
- Curry-Howard同型対応 - 古典論理の計算体系-  
Curry-Howard correspondence: computational system of classical logic
- 安定マッチングの数理と応用  
Stable matching and applications



蟹江 憲史

KANIE NORICHIKA

政策・メディア研究科教授

speciality

国際関係論 / 地球システムガバナンス  
International Relations / Earth System Governance

works

- 「SDGs (持続可能な開発目標)」, 中公新書, 2020年
- Kanie, N., and Biermann, F. (eds.), (2017) *Governing through Goals: Sustainable Development Goals as Governance Innovation*, MIT Press
- 27. Griggs, David, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockström, Marcus C. Öhman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie, and Ian Noble. (2013) Sustainable development goals for people and planet, *Nature*, 495: 305-307. (21 March 2013)
- 蟹江憲史・山本祐監修、おおたとしまさ編著「中学入試超良問で学ぶニッポンの課題」中公新書ラクレ, 2022年

研究会 Seminars

研究会 A

SDGsの理解を深め、実践をすることで世界を先導する。

Leading the world by understanding and taking actions on the SDGs.

研究会の進め方 Seminar Style



課題ごとにプロジェクトチームを形成して進めています。

A few project teams are formulated.

所属に向いている学生 Expected Students

積極的でまじめにSDGを考えている学生さん。  
Active and positive students who take the SDGs seriously.

卒プロ Graduation Projects

- オリンピック・パラリンピック大会のSDGsの観点からの影響評価  
Olympics and Paralympics Impact Study in terms of the SDGs
- 體育會SDGs部の活動について  
On the SDG actions in the Athletic Association
- SDGによる企業評価  
Measuring business actions in terms of the SDGs

speciality

現代中国政治外交 / 比較政治 / 東アジア国際関係  
Chinese Politics and Foreign Policy / Comparative Politics / International Relations (East Asia)

works

- 加茂具樹 (2023) 『中国は「力」をどう使うのか 支配と発展の持続と増大するパワー』一藝社。
- 吳国光, 加茂具樹監訳 (2023) 『権力の劇場 中国共産党大会の制度と運用』中央公論新社。
- Kai Kajitani and Tomoki Kamo (2022), *Political Economy of Reform in China*, Springer.
- 慶應義塾大学 総合政策学部 現代中国政治外交研究ゼミ生 (加茂具樹研究会学生) 外ノ池愛, 趙劉興, 酒井智啓, 楊徳明, 最上空, 李安琪 「外交青書を通じた研究活動『外交青書』を通じて、日本外交に関する理解を共有する」、外務省『令和5年版 外交青書』, 351頁 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100523089.pdf>



加茂 具樹

KAMO TOMOKI

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

中国とどの様に向き合うのか。国際秩序の流動を牽引する主要なアクターである中国は、もはや恣意的なイメージをもてあそんでいることの許されない巨大な対象です。研究会は、地域研究と比較政治学のディシプリンを踏まえて、日本の現在と未来に決定的な影響をあたえる中国への理解を深めます。

How should we deal with China? As a major power in the changing international order, China is a huge subject that can no longer be allowed to play with arbitrary images. Drawing on the disciplines of area studies and comparative politics, our research project will deepen our understanding of China as a decisive influence on the present and future of Japan.

研究会の進め方 Seminar Style



①2-3冊の本を輪読し討論する。②3-4人のゲストによる講演を聞き討論する。③他大学(外国を含む)の中国研究をしている研究会と交流する。④個人研究論文を執筆する。

(1) Read 2-3 books on China and international politics. (2) Invite 3-4 guests on Chinese politics and foreign affairs to give lectures. (3) Interact with ゼミ at other universities (including overseas). (4) Write an individual research paper and give a report at the meeting held at the end of the semester.

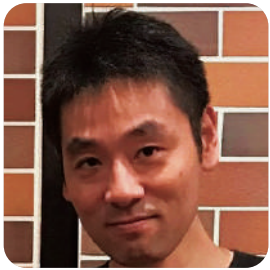
所属に向いている学生 Expected Students

中国の政治外交や国際政治に興味のある学生。論文を書く忍耐力のある学生。

Students interested in Chinese political diplomacy and international politics. Students who have the perseverance to write papers.

卒プロ Graduation Projects

- 中国共産党一党体制の強靱性 - 一九七〇年代以降の政治参加の維持とその範囲の拡大に着目して  
The Resilience of the One-Party System of the Communist Party of China: Focusing on the Maintenance and Expansion of the Scope of Political Participation since the 1970s
- 国家建設と新疆生産建設兵団の復活 - 効果的なガバナンスを実現するための補助的ツール  
The revival of Xinjiang Production and Construction Corps under the perspective of state building: An auxiliary tool to achieve effective governance
- インターネットは中国の政治体制の変化を導くのか - 市民社会・ネット空間・管理政策 -  
Will the Internet make a change to the Chinese political system: Civil society, cyberspace, Chinese management policy



川島 英之

KAWASHIMA HIDEYUKI

環境情報学部准教授

specialty

コンピュータサイエンス / データベース / トランザクション  
Computer science / database / transaction

works

- Takayuki Tanabe, Takashi Hoshino, Hideyuki Kawashima, and Osamu Tatebe. 2020. An analysis of concurrency control protocols for in-memory databases with CCBench. Proc. *VLDB Endow.* 13, 13 (September 2020), pp.3531-3544. <https://doi.org/10.14778/3424573.3424575>
- Y. Ogiwara, A. Yorozu, A. Ohya and H. Kawashima, "Transactional Transform Library for ROS," *2022 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS)*, Kyoto, Japan, 2022, pp. 9722-9727, doi: 10.1109/IROS47612.2022.9981089.
- M. Tanaka, O. Tatebe and H. Kawashima, "Applying Pwrake Workflow System and Gfarm File System to Telescope Data Processing," *2018 IEEE International Conference on Cluster Computing (CLUSTER)*, Belfast, UK, 2018, pp. 124-133, doi: 10.1109/CLUSTER.2018.00024.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

本研究会の第一の目標は最先端情報技術による便利で安全な世界の創出です。その鍵はシステムソフトウェアにあります。これは精妙巧緻な芸術であり、この探求を通じて超絶技巧を習得することが第二の目標です。多数の企業ならびに研究機関と共同研究を実施中です。

The primary goal of this research group is to create a convenient and safe world through state-of-the-art information technology. The key to this lies in system software. This is an exquisite and sophisticated art, and our second goal is to master superb techniques through this pursuit. We are currently conducting joint research with a number of companies and research institutes.

研究会の進め方 Seminar Style

個

授業研究会では教科書輪読をします。研究希望者は川島が個別に指導します。研究が進めば国際会議や論文誌で発表を行います。

Textbook readings will be done in kenkyukai class sessions. Those who wish to conduct research will be individually guided by Kawashima. If the research progresses, submissions will be made at international conferences and academic journals.

所属に向いている学生 Expected Students

誠実で明るい人。

Honest and cheerful person.

卒プロ Graduation Projects

- Transactional Transform Library for ROS
- Fast Concurrency Control with Thread Activity Management beyond Backoff
- Fast Accurate Discovery of Tuple Inclusion Dependencies

specialty

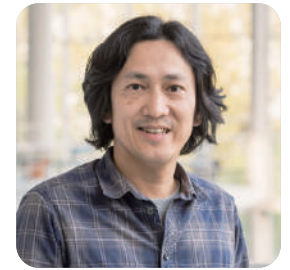
フランス文学 / フランス語教育  
French literature / French language education

e-mail

kunieda@sfc.keio.ac.jp

works

- 「ことばは現実をどのように「すくいとるか」——体験・共感・言葉の所有」(宮代康丈・山本薫編「シリーズ総合政策学をひらく 言語文化とコミュニケーション」第1部第3章 慶應義塾大学出版会 2023)
- 「外国語学習における相互文化教育を通じたリフレクションと批判精神の育成について」(*KEIO SFC JOURNAL*, Vol.19, No.2 2019)
- 「高畑勲のジャック・プレヴェール翻訳「ことばたち」(ユリイカ7月臨時増刊号「高畑勲の世界」、2018)
- 「大学で多言語を学ぶ意義」(平高史也・木村護郎クリストフ編「多言語主義に向けて」第3章 くらしお出版 2017)



國枝 孝弘

KUNIEDA TAKAHIRO

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

ひとつの研究会では、言語理論・物語理論を中心に、芸術作品を分析しながら、その作品と私たちの時代の関係を考察しています。もうひとつの研究会では臨床をキーワードに、学習者を主体においた教育の研究をしています。

One seminar focuses on language and narrative theory, analyzing works of art and examining their relationship to our times. The other focuses on education by paying attention to the actions of learners with the clinic as a key word.

研究会の進め方 Seminar Style

個

学生が個人でリサーチを進めます。定期的に他の学生、教員からのフィードバックをもらいます。

Students will work individually on their research and will receive regular feedback from other students and faculty members.

所属に向いている学生 Expected Students

ことばを大切にしている学生。

Students who value language.

卒プロ Graduation Projects

- タンDEM学習活動の実践・分析・考察  
Tandem Learning Activities; Practice, Analysis, and Discussion
- ポストメディア時代の身体  
The Body in the Postmedia Age
- ところを「すくう」機能としての文学  
literature or the savior of the heart





國枝 美佳

KUNIEDA MIKA

総合政策学部専任講師 (有期)

speciality

グローバルヘルス / ウェルビーイング・未病 / 開発コミュニケーション  
global health / wellbeing/me-byo / communication for development

works

- ・國枝美佳 (2022) 「第9章 ニジェールのコミュニティとともに ～ヒューマンサービスの協働の実践から」 宮垣元・秋山美紀共編『ヒューマン・サービスとコミュニティ』勁草書房 pp. 196-217.
- ・國枝美佳 (2023) 「第7章 アフリカとグローバルヘルス」 神保謙・廣瀬陽子共編『流動する世界秩序とグローバルガバナンス』慶應義塾大学出版会 pp. 121-139.
- ・Kondo Kunieda, Mika., Manzo, ML., Shibamura, A., Jimba, M. "Rapidly modifiable factors associated with full vaccination status among children in Niamey, Niger: A cross-sectional, random cluster household survey" *PLoS ONE* 16 (3) : e0249026. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0249026> (査読論文、英文)
- ・Carandang RR., Sakamoto JL., Kunieda MK., Shibamura A., Yarotskaya E. et al. "Effects of the maternal and child health handbook and other home-based records on mothers' non-health outcomes: a systematic review" *BMJ Open* 2022;12:e058155. <https://doi:10.1136/bmjopen-2021-058155> (査読論文、英文)

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

SFC アフリカ研究会は、アフリカの人々がどのように環境と共生し、レジリエンスを高めているかについて、個人研究やグループワークを通じて理解を深め、その集成的な理解を日本社会に還元することを目的とする研究会です。例えば、「もったいない」という考え方や、自然と共存するための伝統的な知恵など、アフリカの人々が培ってきた環境との共生に関する知見を共有することで、感染症対策、環境問題の解決、災害対策に貢献することを目指しています。

Solution Design for Policies and Environments (SDPE) is a GIGA English-speaking seminar. This cross-disciplinary seminar aims to achieve equality and equity in health and education in a fair manner. The processes of turning ideas into actions and continuing them are analyzed. In addition, designs that appeal to people to actually take action is researched to enable more ideas into action. By analyzing and designing solutions from a behavioral science perspective and by using visually appealing designs we think we can get more people to take action or change behaviors.

研究会の進め方 Seminar Style



アフリカ研究会ではアフリカニュースを紹介します。両研究会では毎週1-2名の研究に関するプレゼンテーションがあり、それについてディスカッションしたり、情報提供をして

います。その結果、コラボや新しいチームが生まれることがあります。

The SFC Africa lab starts with a review of the week in Africa. Both Africa seminar and SDPE lab have weekly presentations by 1-2 members, followed by discussions and information sharing. This leads to collaborations and/or new teams being formed.

所属に向いている学生 Expected Students

何か活動したい、あるいは活動がはつきりしている学生。

Those who want to do something (that has a social impact) or already know what they want to do.

卒プロ Graduation Projects

- ・無人航空機UAVを利用したケニアにおけるHuman-Wildlife conflict (獣害) 対策 ～北海道浦臼町での予備実験～  
Preliminary Experiment in Urausu Town, Hokkaido for Human-Wildlife Conflict Prevention in Kenya Using Unmanned Aerial Vehicles (UAVs)
- ・インドネシアにおけるデータ駆動型公共政策のためのトレーニングモジュール  
A training module for data-driven Public Policy in Indonesia
- ・プロジェクトドキュメント 女川町における食材流通改善プロジェクト ～インド料理の移動販売を軸に～  
Project Document: Increasing Vegetable Availability in Onagawa Town, Miyagi Prefecture: An Indian Food Truck Project

speciality

発生生物学  
Developmental Biology

e-mail

hkuroda@sfc.keio.ac.jp

works

- ・黒田裕樹 (2023) 『希望の分子生物学～私たちの「生命観」を書き換える』NHK出版新書.
- ・黒田裕樹 (2020) 『休み時間の分子生物学』講談社.
- ・De Robertis, M., Kuroda, H. (2004) Dorsal-Ventral Patterning and Neural Induction in Xenopus Embryos. *Ann. Rev. Cell Dev. Biol.* Vol. 20, pp. 285-308.
- ・Kuroda, H., Inui, M., Sugimoto, K., Hayata, T., Asashima, M. (2002) Axial protocadherin is a mediator of prenotochord cell sorting in Xenopus. *Dev. Biol.* Vol. 244, pp. 267-277.



黒田 裕樹

KURODA HIROKI

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

まだ明らかにされていない生命現象を細胞分子生物学的な明確な証拠をもって報告すること、ならびに分子生物学的手法の応用価値のある未開拓分野への応用を目指しています。

Our grand goals are, for example, to report as yet unknown biological phenomena with clear evidence from cellular and molecular biology and/or to apply molecular biological methods to fields where they are of value.

研究会の進め方 Seminar Style



基本的に1人1テーマで研究を行います。全体で20人ぐらいの集団ですが、特にテーマが似ている人などについて4-5組のチームもつくっています。

Basically, each person has a single theme. We basically have a group of about 20 people in total but also form teams of 4-5 people who are working on similar themes.

所属に向いている学生 Expected Students

「基礎分子生物学1/2」の授業を受けた学生、もしくは細胞生物学の基礎的な内容を把握している学生。

Students who have taken "basic molecular biology 1/2" class or have a basic grasp of Cell Biology.

卒プロ Graduation Projects

- ・アニサキスが保有するトランスポゾンの宿主寄生体間で生じる水平伝播の検討  
Horizontal gene transfer between hosts and parasites of transposable elements in Anisakis simplex
- ・脊椎動物の原腸胚において背腹帯域特異的に発現する小分子の同定  
Comparative Metabolomics of Small Molecules Specifically Expressed in the Dorsal or Ventral Marginal Zones in Vertebrate Gastrula
- ・コイ核およびミトコンドリア環境DNAの短時間変動解析  
Analyzing the short-term temporal variation of Cyprinus carpio nuclear and mitochondrial eDNA



嚴 網 林

YAN WANGLIN

環境情報学部教授

speciality

地理情報科学 / 都市・地域環境 / 気候変動  
Geographic Information Science / Urban and Regional Environment / Climate Change

e-mail

w\_yan@keio.jp

works

- Yan, W., & Roggema, R. (2019) . Developing a Design-Led Approach for the Food-Energy-Water Nexus in Cities. *Urban Planning*, 4 (1) , 123-138. <https://doi.org/DOI: 10.17645/up.v4i1.1739>
- 嚴網林, 『GISの原理と応用』, 日科技連, 2001.
- 嚴網林, 2022, 持続可能な都市化のためのネクサスアプローチ, *JR EAST Technical Review* No.68, pp.1-9, 2022.
- Yan, W., & Nakayama, S. (2021) . Redesigning the Urban Food Life Through the Participatory Living Lab Platform: Practices in Suburban Areas of the Tokyo Metropolitan Region. In *TransFEWmation: Towards Design-led Food-Energy-Water Systems for Future Urbanization* (pp. 209-234) . Springer, Cham.

研究会 Seminars

研究会 A

本研究会はデータを利用した分析的な手法を使って問題の発見, 解決, 実行を研究しています。具体的には, 地理データを用いて分析や地図化を行う地理情報システム (GIS) を活用し, 都市・地域環境と開発の問題発見, 問題の原因とそこに暮らす人々との関わり方の解明, 超スマート社会に向けての解決手段の提案, 政策支援を行っています。

This kenkyukai studies the environmental and development problems using geospatial analytical tools. Specifically, we use geographic information systems (GIS) to investigate problems, to elucidate the causes of problems and their relationship to the people who live there, to propose policy, business, and lifestyle solutions for a smart society.

研究会の進め方 Seminar Style



一年計画で運営しています。春学期はGISやプログラミングのスキルの習得, 秋学期は個人または2-3人からなるチームでプロジェクトの推進を進めています。

The kenkyukai is operated annually. The spring semester is focused on GIS and programming skill while the fall semester is project-centered individually or by team with 3-4 persons.

所属に向いている学生 Expected Students

環境や都市開発に興味があること, 空間データ処理にアレルギーがないこと, ゼミ時間とは別に共同研究室に来て活動できる人。

Any students who are 1) interested in environment and urban development, 2) motivated to learn GIS and data science, 3) able to frequently visit the research lab before-after the seminars.

卒プロ Graduation Projects

- 郊外地域における食の地産地消アクターネットワークの視覚化  
Mapping the actor network in suburb areas for local production and consumption
- コロナによるオフィスビルエネルギーマネジメントへの影響  
The impacts of COVID-19 on building energy management
- コロナによるライフスタイルの変化と公共交通への影響  
The new lifesytle in the pandemic and the influence on public transportation

speciality

韓国語学 (統語論、語用論) / 言語人類学  
Korean linguistics (syntax, pragmatics) / linguistic anthropology

works

What I am researching and what I teach here are quite different. So my papers about Korean Linguistics are not very helpful or may not serve as a good reference.



高 在 弼

KO JAEPIIL

総合政策学部訪問講師 (招聘)

おすすめ授業 Recommended Courses

現代文化探究 (朝鮮語圏) / 朝鮮語コンテンツ

韓国の少数者 (女性、障害者、LGBTQ+、移住民、高齢者など) の現実とその社会運動に関する最新の情報を得ることができます。そして、日本の学生たちからは日本の現実についていろいろな情報を聞くことができるから興味深いと思います。

It might be interesting because we can get up-to-date information on the realities of South Korea's minority (women, disabled people, LGBTQ+, immigrants, seniors, etc.) and their social movements. And I think it will be interesting to hear various information / opinions about the counterparts of Japan (or other countries) from the students.

授業の進め方 Class Style



アップロードされたドキュメンタリーを鑑賞して、毎週感想文を提出します。決められた順番でドキュメンタリーで見られた社会問題に対する発表および討論で構成されています。First, It is required to submit a short memo after watching the uploaded documentaries every week. The classes consist of presentations and discussions on social issues seen in documentaries.

受講に向いている学生 Expected Students

韓国ドキュメンタリーを字幕なしで理解できる能力が必要です。

It is required to understand Korean documentaries without subtitles.



河野 暢明

KONO NOBUAKI

政策・メディア研究科准教授

speciality

合成生物学 / パイオインフォマティクス / ゲノム科学  
Synthetic Biology / Bioinformatics / Genomics

works

- Kono N, Nakamura H, Mori M, Yoshida Y, Ohtoshi R, Malay AD, Pedrazzoli-Moran AD, Tomita M, Numata K, Arakawa K (2021) Multicomponent nature underlies the extraordinary mechanical properties of spider dragline silk. *Proc Natl Acad Sci U S A*, 118 (31) :e2107065118.
- Kono N, Tomita M, Arakawa K (2018) Accelerated laboratory evolution reveals the influence of replication on the GC skew in *Escherichia coli*. *Genome Biology and Evolution*, 10 (11) :3110-3117.
- Kono N (2023) A Guide to Sequencing for Long Repetitive Regions. *Methods in Molecular Biology*, 2632: 131-146.
- Kono N, Arakawa K, Sato M, Yoshikawa H, Tomita M, Itaya M (2014) Undesigned selection for replication termination of bacterial chromosomes. *Journal of Molecular Biology*, 426 (16) , 2918-2927.

### 研究会 Seminars

### 研究会 B

合成生物学プロジェクトでは生物のデザイン性の構造的な理解を目指しており、対象生物に縛られることなく、現象ベースで研究を展開していきます。そのためバクテリアやラットといった主要なモデル生物はもちろん、非モデル生物と称され、これまであまり研究対象にされてこなかった生き物たち（変形菌、アリ、クモ）も対象に研究しています。面白い現象を伴った新たな対象生物の提案も歓迎しています。

This Synthetic Biology Project aims to understand the design of living organisms constitutively, and is not restricted to any particular organism, but rather conducts research on a phenomenon-based basis. For this reason, we study not only major model organisms such as bacteria and rats, but also organisms that have not been studied very much in the past, such as slime molds, ants, and spiders. We welcome proposals for new target organisms with interesting phenomena.

### 研究会の進め方 Seminar Style



研究自体は学生それぞれが論文筆頭著者になる研究テーマを持ち、責任を持って一人で遂行してもらいます。一方でアドバイザー制度を導入しており、細かいアドバイスや相談相

手となる先輩学生を必ず一人以上付け、伴走できる体制をとっています。

Each student has a research theme for which they will be the first author, and is responsible for carrying out the research alone. On the other hand, we have introduced an advisor system, in which at least one senior student is always assigned to give detailed advice and counsel to the students.

### 所属に向いている学生 Expected Students

失敗に挫けず、コツコツ地道な努力を重ねられる人。自らの意思で道を切り開く気概のある人。

People who are not discouraged by failure and are able to make steady and persistent efforts.

### 卒プロ Graduation Projects

- マルチオミクス解析によるクモ節板糸の用途理解  
Understanding Applications of Spider Cribellate Silk Using Multi-Omics Approaches
- 行動試験及び分子生物学的アプローチによる一時的社会寄生種トゲアリ (Polyrhachis lamellidens) における宿主識別機構の解明  
Elucidation of mechanisms of host recognition by bioassay and molecular biology in a temporary social parasitic spiny ant *Polyrhachis lamellidens*

speciality

経営情報システム  
Management Information System

e-mail

sec@jkokuryo.com

works

- 國領二郎. (2022). 『サイバー文明論 - 持ち寄り経済圏のガバナンス -』. 日本経済新聞出版社.
- 國領二郎. (1999). オープン・アーキテクチャ戦略. ダイヤモンド.
- Kokuryo, J. An Asian perspective on the governance of cyber civilization. *Electronic Markets* 32, 475-485 (2022). <https://doi.org/10.1007/s12525-022-00523-5>
- 國領二郎. (1995). 『オープン・ネットワーク経営—企業戦略の新潮流』. 日本経済新聞社



國領 二郎

KOKURYO JIRO

総合政策学部教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 B (1) / 研究会 B (2)

ITが経営組織や社会の形にどのような影響を与えるかを30年にわたって研究してきた研究会です。歴史的なトレンドを踏まえながら直近の動きを分析します。英語研究会と日本語研究会の二本立てです。基礎的な会計知識の勉強もします。

Have been researching the impact of IT on business and social structures for over 30 years. Learning history to understand the future. English Kenkyukai and Japanese Kenkyukai run in parallel. Basic accounting is also covered.

### 研究会の進め方 Seminar Style



毎回冒頭にアカウントングクイズを実施します。その後、いくつかの研究テーマを設定して、教員立ち合いのもとで学生主導で全体会を実施します。

Starts with accounting quiz, followed by student organized sessions on various topics.

### 所属に向いている学生 Expected Students

ネットワーク産業論を事前に履修しておいていただくとスムーズに参加できると思います (必須ではない)。担当教員が2025年3月末に定年退職予定であることにご留意ください。

Better (not compulsory) to take Network Industries class before hand. Please note the instructor is retiring at the end of March 2025.

### 卒プロ Graduation Projects

- デジタルコンテンツのビジネスモデル  
Business models for digital contents
- ネットワーク上の課金モデルの比較研究  
Comparative analysis of payment systems on the net
- オンライン教育の可能性  
On-line education





specialty

International Business / Strategy / Entrepreneurship

e-mail

kotosaka@sfc.keio.ac.jp

works

- 琴坂将広「経営戦略原論」
- 琴坂将広「領域を超える経営学」
- 琴坂将広「STARTUP」
- 琴坂将広「コーポレートバリュー・アライメント：企業に根源的価値観を実装する方法」

琴坂 将広

KOTOSAKA MASAHIRO

総合政策学部准教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 B (1) / 研究会 B (2)

教員と個性的な学生たちが毎回白熱した議論を繰り広げる、動物園のような多様性を持ち、飽きの来ないエンターテインメント性のある空間です。

It's a venue with diversity like a zoo where teachers and unique students enjoy heated discussions every time. It has an entertaining quality that never gets boring.

#### 研究会の進め方 Seminar Style



個人での研究活動や事業創造活動に取り組みます。同時に、毎週の課題にはグループでも取り組みます。

Prepare for the sessions in group and work on individual projects.

#### 所属に向いている学生 Expected Students

昔、「涼宮ハルヒの憂鬱」というアニメがありました。そこでの名台詞を引用させていくと、「宇宙人、未来人、異世界人、もしくは超能力者」のように個性的で、独自の強みを持つ学生を求めています。

There was an anime called "The Melancholy of Haruhi Suzumiya" in the past, and if I may quote a famous line from it, it would say We are looking for students who are unique and have their own strengths, such as "Aliens, Time travelers, People from other worlds, or People with supernatural powers."

#### 卒プロ Graduation Projects

- スタートアップにおける事業ピボット  
Business pivot for startup companies
- ソーシャルビジネスとしての「水」  
Water as social business

specialty

建築 / 都市地方デザイン / まちづくり  
Architecture / Urban and Rural Design / Machizukuri

e-mail

hiroto@sfc.keio.ac.jp

works

- Mohsen Mostafavi and Kayoko Ota (eds.), *Sharing Tokyo, Artifice and the Social World*, 'Revitalizing the Community of the Cho', Actar Publishers 2022
- *Digital Wood Design, Innovative Techniques of Representation in Architectural Design*, 'Empathic Design using Agile Technology', Springer International Publishing 2019
- *Rethinking Resilience, Adaptation and Transformation in a Time of Change*, 'The veneer house experience: The role of architects in recovering community after disaster', Springer International Publishing 2017
- 「アートと社会」、竹中 平蔵, 南條 史生 (編著) 「共感の時代の建築へ」、東京書籍 2016



小林 博人

KOBAYASHI HIROTO

政策・メディア研究科教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 A

研究会が目指すこと：『自分たちの居場所を、自分たちでつくる』  
不確実な時代の「とりあえずやってみる」方法論の探究。

What we are pursuing: "Making Your Place Where You Feel a Sense of Belonging"  
Pursuing Do-It-Anyway Manner for Unpredictable Future.

小林博人研究会、koblab では、コミュニケーションをベースとした社会や文化そして空間のデザインへの介入を通して、地域社会における場所の豊かさやその根源をなす地域の微文化に根ざしたコミュニティの再生や強化、そして地域の新たな価値の創造を目指しています。

Kobayashi laboratory, koblab, pursues to revitalize and enforce communities and to create new value in the environment involved in communication-based social, cultural, and spatial design stemming from the micro-culture of an area and the traits that compose its rich sense of place in local society.

#### 研究会の進め方 Seminar Style



複数あるプロジェクトに分かれて、それぞれの活動に一人ひとりが積極的にコミットし、グループとしてもまとまって、その実現の方

法を検討・デザインし、実装する。

Making several groups based on the projects running, each student commits to each project and its group manages the project holistically as well. Students will think, design and execute their own project.

#### 所属に向いている学生 Expected Students

頭だけではなく身体をフルに使って、考え、話し合い、デザインし、行動してものをつかっていくことが好きな人。常に楽しみを見つけ、しばらく自分の始めたことに時間をかけて付き合っやり遂げようとする人。

Using not only the brain but the body, students who can think, talk, design, and act to make things. Try to find things fun, spend some longer amount of their own time to try to achieve what they have decided to start.

#### 卒プロ Graduation Projects

- 移動式美術館を構想し、実際にイタリアの被災地で建設デモンストレーションを行なった。  
Conceptualizing a mobile art museum, an actual construction demonstration was executed in a disaster-stricken area in Italy.
- 食のリサイクルの問題に着目し、コンビニにおける食のサステイナブルな循環を検討・実験・展示した。  
Focusing on food recycling, a sustainable cycle of Convenience Store food was proposed, experimented and exhibited.



SAVAGE PATRICK

サベジ パトリック

環境情報学部准教授

speciality

音楽 / 心理学 / 人類学  
Music / Psychology / Anthropology

e-mail

psavage@sfc.keio.ac.jp

works

- Savage, P. E. (Under contract) . *Comparative musicology: The science of the world's music*. Oxford University Press. Preprint: <https://doi.org/10.31234/ost.io/b36fm>
- Savage, P. E., Loui, P., Tarr, B., Schachner, A., Glowacki, L., Mithen, S., & Fitch, W. T. (2021) . Music as a coevolved system for social bonding [one of two target articles accompanied by 60 commentaries]. *Behavioral and Brain Sciences*, 44 (e59) , 1-22. <https://doi.org/10.1017/S0140525X20000333>
- Savage, P. E., Brown, S., Sakai, E., & Currie, T.E. (2015) . Statistical universals reveal the structures and functions of human music. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America*, 112 (29) , 8987\_8992. <http://doi.org/10.1073/pnas.1414495112>

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

すみません、研究会は英語メインで運営しています。

Welcome to the CompMusic Lab for comparative and computational musicology! We study the science of the world's music with the aim of promoting cross-cultural diversity and understanding.

Our work has received awards from organizations including the Society for Music Perception and Cognition; Cultural Evolution Society; International Society for Music Information Retrieval; Association for Psychological Science; Japanese Minister for Education, Culture, Sports, Science and Technology; Royal Society Te Apārangi; and the Japanese Emperor.

For media articles (New York Times, Nautilus, Discover Magazine, etc.) with an accessible introduction to our research and more details about our lab, check out <http://compmusic.info/>

研究会の進め方 Seminar Style



We have weekly group meetings to discuss recent research by our and other labs + 1-on-1 meetings to discuss individual research projects.

所属に向いている学生 Expected Students

Critical thinking and passion, ability to communicate in English (written and oral). Experience in performing music and/or science preferred, but not essential. Experience in statistical programming is helpful (especially in R).

卒プロ Graduation Projects

- Music and evolution
- Music and social bonding
- Music and diversity/inclusion

speciality

建築学 / 都市社会学 / フランス語教育  
Architecture / Urban Sociology / French Studies

e-mail

aqil@sfc.keio.ac.jp

works

- Cheddadi, A. & Rifki, H. (2024) "Moroccan Sociocultural Practices of Space: Coping with Marginalization in Bidonvilles and Social Housing", *International Journal of Islamic Architecture*. 13 (1) .
- El Ghmari, S., Belkadi, M., Khodabakhsh, H., Cheddadi, A., & Choudhury, S. R. (2022) . "The Informals". In R. Rocco & C. Newton (Eds.) , *A Manifesto for the Just City: 2021 edition* Vol. 2, pp. 368-373. Tu Delft OPEN.
- Cheddadi, A., et. al (2021) . "Exploring the Self-Organizing Structure of the Moroccan Medina", *9th ASCAAD Conference Proceedings*, pp. 672-685
- Cheddadi, A. (2021) "Obstacles à La Compétence de Compréhension Écrite : Quelles Stratégies de Lecture Dans Le Contexte Japonais ?". *Revue Japonaise de Didactique du Français*, 日本フランス語教育学会 16, no. 1.



CHEDDADI AQIL

シェッターディ アキル

総合政策学部訪問講師 (招聘)

研究会 Seminars

研究会 B

本セミナーでは今日の都市における公共空間と私的空間の特徴と繰り返される変動について観察する際に、批判的な推論の感覚を養うことを目的としています。理論的な授業よりも実践的なケーススタディが中心になります。This seminar aims to develop a sense of critical reasoning in observing the characteristics and recurring variations of public and private space in today's cities. Priority will be given to practical case studies rather than purely theoretical discourse.

研究会の進め方 Seminar Style



議論や発表を通じて、理論的な概念を応用し、学生自身の空間体験を分析することを奨励する。

Using discussions and presentations, students are encouraged to analyze their spatial experience by applying theoretical and critical concepts.

所属に向いている学生 Expected Students

学生は、様々なツールや視点を使って公共空間を観察し、分析することが期待されています。さらに、多様な文書や画像媒体を使って、公共空間に関する自分の考えを効果的に伝えることを学びます。

Students are expected to observe and analyze public spaces using different tools and perspectives. Additionally, they will have to learn to effectively communicate their ideas about public spaces using various written or graphical mediums.

卒プロ Graduation Projects

本年度から卒業プロジェクトを指導することになりました。主に都市空間の分析、伝統建築、都市の持続可能性に関する研究テーマを指導しています。

I started supervising graduation projects this year. I mainly supervise research topics related to urban space analysis, traditional architecture, and urban sustainability.



篠原 舟吾

SHINOHARA SHUGO

総合政策学部准教授

speciality

地方行政 / 行動行政学 / 公共経営  
Local Governance / Behavioral Public Administration / Public Management

e-mail

sshinoha@sfc.keio.ac.jp

works

- Shugo Shinohara. (2023). "Bad government performance and citizens' perceptions: A quasi-experimental study of local fiscal crisis." *International Review of Administrative Sciences* 89 (3) : 722-740.
- Shugo Shinohara. (2018). "Exit, voice, and loyalty under municipal decline: A difference-in-differences analysis in Japan." *Journal of Public Administration Research and Theory* 28 (1) : 50-66.
- 篠原舟吾, 小林悠太, 白取耕一郎 (2021) 「行政学における方法論の厳密化と多元的共存」『年報行政研究』56: 154-173.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

篠原研究会は、行政研究の最先端を追い求めることを目的としています。学生は、現代行政の課題を1つ選択し、教員とともに研究アプローチを発展させます。研究テーマ及び進捗を踏まえ、行政理論あるいは方法論を学びます。

研究会のもう1つの活動は、現地調査です。毎年公共政策学会主催の政策コンペに参加しています（2023年は長野県上田市開催）。日本人と留学生が日本語と英語を交え、国際的かつ斬新な視点から政策を提案することを目指します。

This seminar aims to pursue the cutting-edge of public administration research. Reading the English literature, students select a vital issue with public administration and then develop a research approach toward the issue. Given the research topic and progress, students will learn public administration theories and research methodologies.

Another activity of this seminar is fieldwork. Specifically, the seminar will attend a policy competition organized by the Japanese Public Policy Studies Association. The competition will be held in Ueda city, Nagano Prefecture, 2023. To win this competition, English and Japanese seminars

will work together to present our policy idea.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は、教員の行政理論や論文執筆法の指導を受けながら、個人で研究課題に取り組みます。一方で、研究会全体で、公共政策学会主催の政策コンペにチームとして参加します。

Given my guidance for administrative theories and academic writing, students develop their own research topics. In addition, the seminar will work together as a team to win the policy competition.

所属に向いている学生 Expected Students

『地方自治論』を受講し行政理論の基礎を身に付け、新たな公共的価値の創造を目指す人。

Students who (i) completed my local governance course, (ii) understand the basic public administration theories, and (iii) pursue the creation of new public values from SFC.

卒プロ Graduation Projects

- コロナ禍の観光政策  
Tourism Policy under the COVID-19 Pandemic
- デジタル時代の市民参加  
Citizen Participation in the Digital-era
- 市民の政府への信頼  
Citizens' Trust in Government

speciality

心理学 / 行動科学 / 産業保健  
Psychology / Behavioral science / Occupational health

works

- 島津明人 (2022). 『新版ワーク・エンゲイジメント：ポジティブ・メンタルヘルスで活力ある毎日』労働調査会
- 島津明人 (編著) (2017). 『産業保健心理学概論』ナカニシヤ出版
- 井上茂・堤明純・島津明人・中尾陸宏・吉内一浩・大塚泰正 (編) (2023). 『行動医学テキスト 第2版』中外医学社
- 島津明人 (編著) (2012). 『災害時の健康支援 行動科学からのアプローチ』誠信書房



島津 明人

SHIMAZU AKIHITO

総合政策学部教授 (有期)

研究会 Seminars

研究会 A

3つのHPである健康増進 (Health Promotion), 生産性の向上 (Human Performance), 幸福 (HaPpiness) を目指し、ワーク・エンゲイジメントをキーワードとしながら、これまでにない斬新な発想をもった研究を行うことを目標としています。

Our laboratory aims to achieve the three HPs (Health Promotion, Human Performance, and HaPpiness). With work-engagement as a key term, we would like to put innovative research topics that have never been challenged before.

研究会の進め方 Seminar Style



個人研究とグループ研究が中心です。グループ研究では、グループごとに共通データを解析してレポートにまとめます。

Personal and group projects. In a group project, each group analyzes common data and summarizes them in a report.

所属に向いている学生 Expected Students

データにもとづく実証研究と科学的根拠にもとづく実践の推進に関心のある学生、研究職を目指している学生を特に歓迎しています。Students who are interested in empirical studies and evidence-based practice and in pursuing research careers are welcome.

卒プロ Graduation Projects

- スマートフォン依存改善のためのコーチングの効果：ランダム化比較試験  
Effectiveness of coaching to reduce smartphone dependence: A randomized proportional comparison study
- ノスタルジアの喚起とWell-Beingとの関連についての文献レビュー  
Relationship between the Evoking of nostalgia and well-being: A literature review
- SNS 利用が大学生に与える心理的ストレス、孤独感について～社会的比較志向性に着目して～  
The effects of social media use on psychological stress and loneliness of Japanese college students: Focusing on social comparison orientation





清水 たくみ

SHIMIZU TAKUMI

総合政策学部准教授 (有期)

speciality

経営 / 組織 / イノベーション  
Management / Organization / Innovation

works

- 清水 (2023) .「テクノロジーを基盤とした新しい働き方・協働・デジタル組織」琴坂・宮垣 (編)『社会イノベーションの方法と実践』第2章, 慶應義塾大学出版会, pp. 29-42.
- Faraj, S. & Shimizu, T. (2018) . Online Communities and Knowledge Collaborations. In R. Aldag (Eds.) , *Oxford Research Encyclopedia of Business and Management* (pp.1-20) . Oxford University Press.
- Shimizu, T. (2018) . Who Becomes a High Performing Leader in Knowledge Sharing Online Communities? *Journal of the Japan Society for Management Information*, 27 (1) , pp.51-66.
- 清水ほか (2020) .「データ流通エコシステムにおけるプラットフォームを媒介とした価値創造」.『情報通信政策研究』4 (1) , pp.103-123.

研究会 Seminars

研究会 A

「未来の組織を探究する」ことを大きなミッションとして掲げ、技術と社会の進化がどのように私たちの働き方や組織や経営のあり方に影響を与えるのか、未来の新しい組織の私たちはどのようなものなのか、について探求しています。企業や自治体と連携した実践的研究プロジェクトも実施しています。

The mission of our laboratory is “In search of Future of Organizations”. We are exploring how the evolution of technology and society will affect the way we work, organizations and management, and what the new forms of organizations will be like. We also conduct practical research projects in collaboration with companies and local governments.

研究会の進め方 Seminar Style



研究会のメインの活動は、学生4-5人でチームを組んだグループ研究です。1年を通して研究成果を創出します。グループ研究に加えて、毎週課題文献を設定して、メンバー全員で輪読を実施しています (2週間に1冊のペース)。

The main activity of our lab is group research, in which teams of 4-5 students work together to produce research results throughout the year. In addition to the

group research, we read books related to management and organizations and discuss them in class every week.

所属に向いている学生 Expected Students

「未来の組織を探究する」というミッションに共感し、グループでの研究活動および研究会というコミュニティ自体を自発的に作っていくことに強い関心と意欲を持っていただける方。

Students who share our mission to “In Search of Future of Organizations” and have a strong interest and passion to voluntarily develop and commit to group-research activities and our laboratory community.

卒プロ Graduation Projects

- 企業文化と経営実践の関係性  
Corporate culture and management practice
- デジタル組織文化についての事例研究  
Case studies on digital organizational culture
- 新しいキャリアと働き方  
Future of work and career

※上記はあくまで過去の例で、卒プロテーマは個人の興味に応じて選択可能

speciality

日本政治外交論 / 日本政治史 / オーラル・ヒストリー  
Japanese Politics / Modern Japanese History / Oral History

e-mail

yuichiro@sfc.keio.ac.jp

works

- 桑原武夫、清水唯一朗編 (2023)『総合政策学の方法論的展開』慶應義塾大学出版会.
- 清水唯一朗、村井良太、瀧井一博 (2020)『日本政治史—現代日本を形作るもの』有斐閣.
- Shimizu, Y., (2019) *The Origins of Japanese Bureaucracy*, Bloomsbury.
- 清水唯一朗 (2019)『日本研究のマルチ・ヒストリオグラフィ—自立から協働の時代へ』『問題と研究』48 (4) , pp. 1-31.



清水 唯一朗

SHIMIZU YUICHIRO

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会B1「日本政治外交研究」では、日本政治外交の現在と未来を、歴史的な経緯と理論を踏まえることで、より明示的かつ実践的に描き出しています。

In Seminar B1, titled “Japanese Politics and Diplomacy,” the vivid portrayal of Japan’s politics and diplomacy, both present and future, emerges with a captivating blend of historical context and theoretical insights.

研究会B2「オーラルヒストリー」では、「聴く」ことを通じて未知を拓き、メンバーそれぞれの研究プロジェクトを進めています。

Meanwhile, in Seminar B2 called “Oral History,” every participant embarks on an individual research journey, courageously delving into the uncharted territories of the past by embracing the transformative power of “listening”.

研究会の進め方 Seminar Style



春学期は文献ディスカッションを通じて基礎力を付けます。夏合宿、秋学期には個人研究発表を進め、学期末にそれぞれの形にまとめます。

During the spring semester, members will cultivate their foundational skills through engaging literature discussions. As the summer camp and fall semester unfold,

members will proudly showcase their unique research projects, culminating in a captivating synthesis at the semester’s culmination.

所属に向いている学生 Expected Students

よく読む人、よく聴く人、よく寝る人。  
Students who read a lot, listen a lot, and sleep a lot.

卒プロ Graduation Projects

どれも印象に残っているので、ひとつを選ぶことはできません。下記のウェブページに全タイトルが掲載されているので参照してみてください。

Selecting just one is an insurmountable task since each of them has etched a profound imprint within me. To explore the full list of titles that have captivated my senses, I kindly direct you to the following webpage.

- 研究会B1「日本政治外交」  
Seminar B1 “Japanese Politics and Diplomacy”: [http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/wp/?page\\_id=225](http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/wp/?page_id=225)
- 研究会B2「オーラルヒストリー」  
Seminar B2 “Oral History”: [http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/wp/?page\\_id=524](http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/wp/?page_id=524)



SHAW RAJIB

ショウ ラジブ

政策・メディア研究科教授

speciality

防災 / 環境マネジメント  
Environment and Disaster Management

e-mail

shaw@sfc.keio.ac.jp

works

- Shaw R. and Kishore K. (2023) : Disaster risk reduction and G20: A major step forward, in Progress in *Disaster Science*, Volume 17, January 2023, 100274
- Ozaki, Y.; Shaw, R. (2022) : Citizens' Social Participation to Implement Sustainable Development Goals (SDGs) : A Literature Review. *Sustainability* 2022, 14, 14471. <https://doi.org/10.3390/su142114471>
- Shaw R., Sakurai A., and Oikawa Y. (2021) : New realization of disaster risk reduction education in the context of a global pandemic: lessons from Japan, in *International Journal of Disaster Risk Science*, <https://doi.org/10.1007/s13753-021-00337-7>

### 研究会 Seminars

### 研究会 A

環境・防災に焦点をあて、地域力とコミュニティ開発の基本概念、アジア各国での事例を通じてその現状と問題点について学ぶことを目的としており、少人数制で行う。アジアが抱える問題や課題に取り組むためには、人間の安全保障と環境のバランスが必要であり、これには、環境マネジメント、持続可能な開発、災害の軽減、予防計画のより一層の向上が不可欠である。

This seminar focuses on environment and disaster risk reduction, with specific emphasis on examples from community development and community empowerment in Asia. To address the complex issue, it needs to be linked to human security, environmental management and disaster risk reduction. This seminar aims at learning on community empowerment and community development and its relation with environment and disaster risk reduction.

### 研究会の進め方 Seminar Style



学生は個人研究が中心で、グループワークも行うことがあります。

Students mostly do individual research, and sometimes they take group work also.

### 所属に向いている学生 Expected Students

アジアや途上国の開発、気候変動や災害の課題に情熱を持っている方、ぜひご参加ください。

If you are passionate on the development and climate change and disaster challenges in Asia and developing countries, please join.

### 卒プロ Graduation Projects

- 日本の脱炭素化への取り組みとカーボンニュートラルの実現に向けた課題  
Japan's Decarbonization Efforts and Challenges towards Carbon Neutrality
- モンゴルにおける交通ルールの施行：交通安全向上のための様々な施策  
Traffic Rule Enforcement in Mongolia: Various measures to improve Traffic Safety
- 世界の自然災害の影響と、Society 5.0における防災・減災・復旧の最適化のためにIndustrial 4.0技術の普及啓発が重要である理由  
An Overview on the Impact of Natural Disasters around the World & Why Raising Public Awareness on Industrial 4.0 Technologies is Important for Optimizing Disaster Prevention, Response & Recovery in Society 5.0

speciality

国際金融 / マクロ経済 / ESG 投資・経営  
International Finance / Macroeconomy / ESG Investment

e-mail

sshirai@sfc.keio.ac.jp

works

- 「カーボンニュートラルをめぐる世界の潮流：政策・マネー・市民社会」(文真堂、2022年)
- 「SDGs ファイナンス」(日経BP、2022年)
- 英語著作 *Global Climate Challenges and Finance* (2023年7月発行予定、アジア開発銀行研究所)
- 共著英語論文 "History of Bank of Japan's More Than Two Decades of Unconventional Monetary Easing with Special Emphasis on the Frameworks Pursued in the Last 10 Years"



白井 さゆり

SHIRAI SAYURI

総合政策学部教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 B (1) / 研究会 B (2)

様々な国際経済のテーマでディベート、文献発表、レポート発表作成などを通じて、国際経済の理解を深めて自分の考えを発展でき、レポートの執筆ができるようになるよう努めています。

The seminar covers diverse international economic issues and aims at promoting students' understanding of those issues and developing own logical thinking through presentation, debate, and writing.

### 研究会の進め方 Seminar Style



研究会は数名の学生による発表、ディベート、文献発表やレポートの発表と議論で構成  
Seminar consists of presentation, debate, article reading, and writing reports.

### 所属に向いている学生 Expected Students

マクロ経済の基礎知識（とくに担当教員の授業）を学んでいることが望ましい。可能であれば日本語と英語の授業の両方。

It is recommended to have taken Macroeconomics I and other Economics courses (particularly taught by the professor). If possible, take Japanese courses as well.

### 卒プロ Graduation Projects

- 世界のESG関連の規制・開示の動向の分析  
Analyzing global ESG related regulatory and disclosure trends
- 途上国に向けた革新的ファイナンスの分析  
Innovative Finance for Developing Economies and Analysis
- 世界のマクロ経済金融情勢の分析  
Global Macroeconomic and Financial Development and Analysis



白井 裕子

SHIRAI YUKO

政策・メディア研究科准教授

speciality

山林、木材そして木造に至る分野にエンジニアリングでアプローチ  
Engineering approach to forests/timberland, forestry, lumber production and wooden architecture

works

- 白井裕子 (2021) 『森林で日本は蘇る』新潮社。
- Shirai Y. (2017) "A revolutionary technical development to revitalize Japanese forestry", *Synthesiology AIST: National Institute of Advanced Industrial Science and Technology*, Vol.9, No.4, pp.234-251.
- 白井裕子 (2022) 「オーストリアにおける木質バイオマスの再生可能エネルギー以外の意義」『日本エネルギー学会誌』101 巻, 11 号, pp.225-234. \*Indexed in the Web of Science™ Core Collection.
- 白井裕子 (2023) 「多様な森林資源、個性豊かだった林業」『土木学会誌』Vol.108, No.5, pp.24-25.

研究会 Seminars

研究会 A

本研究会が対象とする分野において、学生は各自好きな研究に取り組んでいます。共通する目標の達成例として、海外で開催された国際会議での研究発表や、フルペーパーを学会に投稿、採録、そして学生論文賞の受賞などがあります。

所属に向いている学生 Expected Students

研究を進め、論文執筆するプロセスは自分の考えを求めることで、学会発表でそれを客観的、論理的に記述、表現します。この知的な作業を面白いと研究会の学生は捉えています。

卒プロ Graduation Projects

- 画像解析による人工林の「美しさ」評価手法の提案
- セマンティックコンピューティングを用いたエリアデータの分析と評価指標の開発
- 東京圏における木材小売業者の実態

研究会の進め方 Seminar Style



研究会に参加した最初の半年は、研究に必要な基本を獲得するため、勉強会となります。課題を通じ、自分の研究テーマを探求しながら、研究のベースを身に付けます。

speciality

憲法 / 情報法 / ロボット法  
Constitutional Law / Cyber-Law / Robot-Law

works

- 新保史生 (2023) 「生成AIとAI規制」『三田評論』(2023年6月号) PP.43-49.
- 新保史生 (2023) 「サイバネティック・アバター<sup>1</sup>の認証と制度的課題 - 新次元領域法学の展開構想も踏まえて -」『日本ロボット学会誌』41巻1号, PP.18-22.
- ウゴ・パガロ著、新保史生監訳、松尾剛行、工藤郁子、赤坂亮太訳 (2018) 『ロボット法』勁草書房。
- Woodrow Barfield, Ugo Pagallo (e, SHIMPO Fumio (2018) , *Research Handbook on the Law of Artificial Intelligence*, Edward Elgar Publishing Ltd.



新保 史生

SHIMPO FUMIO

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

ネットワーク、SNS、スマートフォンなど日常生活において利用するものから、AI、ロボットやサイバネティック・アバターなどの新興技術の研究開発など、既存の法制度や法解釈では捉えられない問題も含めて、新たに検討が求められる法的課題について研究しています。

This Kenkyu-Kai investigates new legal issues that need to be considered, including issues which cannot be addressed by existing legal systems and legal interpretations. Specific research topics range from our daily life objects such as networks, social networking services and smartphones, to research and development of emerging technologies such as AI, robots and Cybernetic Avatars.

研究会の進め方 Seminar Style



個別の研究課題の研究報告を行いグループワークによるディスカッションを行います。Giving a presentation regarding individual research topics and discussed through group work.

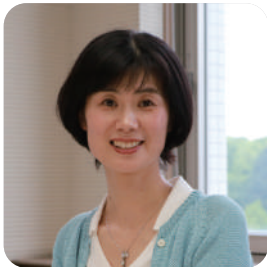
所属に向いている学生 Expected Students

新たな法的課題について関心を有していること。  
Have an interest in emerging legal issues.

卒プロ Graduation Projects

- AIの研究開発と利用に伴い将来的に想定される法的課題に関する研究  
Research on the legal issues envisaged in the future as a result of the research, development and use of AI
- 既存の法制度では対応できない問題について新たな法整備を提唱する研究  
Research advocating new legislation on issues which cannot be addressed by the existing legal system
- ネットワーク社会における犯罪や不正行為への対策に関する研究  
Research on countermeasures against cyber-crime





杉原 由美

SUGIHARA YUMI

総合政策学部准教授

speciality

応用言語学 / 日本語教育 / 多文化・異文化間教育  
Applied Linguistics / Japanese Language Education /  
Multicultural and Intercultural Education

works

- 杉原由美 (2023) 「日本語コミュニティの再想像 多言語多文化共生に向けて」 宮代康丈・山本 薫 (編) 『言語文化とコミュニケーション』 慶應義塾大学出版会.
- 杉原由美 (2010) 「日本語学習のエスノメソッドロジー - 言語的共生化の過程分析」 勁草書房
- 杉原由美, 藤田護 (2020) 「新しい批判的多言語主義と多言語教育への含意 - SFC / 慶應における実践から」 *KEIO SFC JOURNAL* 慶應SFC学会19 (2) , 6 - 19
- 松尾知明, 杉原由美 (2016) 「日本型多文化共生社会に向けた学びのデザイン-カリキュラムマネジメントの視点から」 異文化間教育学会『異文化間教育』 44, 82 - 97

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会 B (2) 「多言語多文化共生社会と日本語」: 日本社会が言語的文化的多様性を受け入れる社会に向かうための、実践と研究を行う研究会です。言語と文化、越境移動する人々と社会的マジョリティをめぐる諸現象について、批判的に検討し、社会を変えて行くための小さな一歩を見出して実行することを重要視しています。

In Seminar B(1) the “Intercultural Communication - A Critical Perspective”, we delve into the complexities surrounding culture, ethnicity/nationality/race, language, gender, class, and identity in intercultural communication. Culture is not a fixed entity, but rather one that is shaped by various groups and their respective power dynamics. This means that our intercultural interactions are often influenced by invisible and taken-for-granted aspects of power. Therefore, it is crucial to gain a critical understanding of these power dynamics to challenge unequal relations and foster positive change.

研究会の進め方 Seminar Style



「多言語多文化共生社会と日本語」研究会: 多くの学生がグループプロジェクトに所属して、研究会内外でプロジェクトを遂行します。

In the “Intercultural Communication - A Critical Perspective” seminar, we delve into

various issues by reading and discussing books, videos, and articles. Also, students conduct individual research projects. Sometimes we work together on projects, like creating workshops or collaborating with U.S. students.

所属に向いている学生 Expected Students

「多言語多文化共生社会と日本語」研究会のテーマに深い興味を持ち、研究会以外の時間に1週間に平均3時間程度、実践活動などを遂行できる人。

For the “Intercultural Communication - A Critical Perspective” seminar, students should have a deep interest in the topic of this seminar and have academic English skills.

卒プロ Graduation Projects

- 外国籍を持つ者の民間賃貸住宅契約の課題: 外国籍者・不動産業者・家主の契約経験のストーリー  
Challenges of Private Rental Housing Contracts for Foreign Nationals: Stories of Contract Experiences of Foreign Nationals, Real Estate Agents, and Landlords
- トランスナショナルな移民第二世代のライフストーリー: 中国から日本に帰化した家族  
Coming from a Transnationally Naturalized Family: A Study on the Second Generation of Naturalized Japanese Originally from China

speciality

医療情報科学  
Medical Data Science

e-mail

msugi@sfc.keio.ac.jp

works

- Yoshizawa, M., Sugimoto, M., Tanaka, M., Sakai, Y., Nishikawa, M. (2022) “Computational simulation of liver fibrosis dynamics” *Sci Rep.* 12, 14112
- Sugimoto, M. (2020) “Salivary metabolomics for cancer detection” *Expert Rev Proteomics*, 17 (9) , 639-648
- Panneerselvam, K., Ishikawa, S., Krishnan, R., Sugimoto, M. (2022) “Salivary Metabolomics for Oral Cancer Detection: A Narrative Review” *Metabolites* 12 (5) , 436
- Sugimoto M. (2023) “Computational Simulation of Tumor-Induced Angiogenesis” *Methods Mol Biol.* 2553, 275-283



杉本 昌弘

SUGIMOTO MASAHIRO

政策・メディア研究科教授

研究会 Seminars

研究会 B

シミュレーションと成分分析技術を用いて、生体のさまざまな仕組みの理解や病態予測などを目標としています。

We aim to use simulation and component analysis techniques to understand various mechanisms of living organisms and predict pathological conditions.

研究会の進め方 Seminar Style



研究の目的や進捗の議論を定期的に行う予定です。

Discussion of the objectives and progress of the study will be held regularly.

所属に向いている学生 Expected Students

自分で研究のペースを設計したい方。

Those who wish to design their own pace of research.

卒プロ Graduation Projects

- 今年度着任しましたので、まだ卒業プロジェクトを担当した経験がありません。



鈴木 治夫

SUZUKI HARUO

環境情報学部准教授

specialty

バイオインフォマティクス / ゲノム微生物学  
Bioinformatics / Genome Microbiology

works

- Danko et al. International MetaSUB Consortium (2021) "A global metagenomic map of urban microbiomes and antimicrobial resistance" *Cell*. 184 (13) :3376-3393.e17. doi: 10.1016/j.cell.2021.05.002.
- Merino et al. (2019) "Comparative genomics of Bacteria commonly identified in the built environment." doi: 10.1186/s12864-018-5389-z.
- Yano et al. (2018) "Reconsidering plasmid maintenance factors for computational plasmid design." doi: 10.1016/j.csbj.2018.12.001.
- Shiwa et al. (2023) "Evaluation of rRNA depletion methods for capturing the RNA virome from environmental surfaces" doi: 10.1186/s13104-023-06417-9.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

微生物の多様性と進化を理解し、その有効活用を目指しています。研究対象には、都市・建築環境のマイクロバイーム（微生物群集とその遺伝子の総体）、薬剤耐性、動く遺伝因子（ウイルス、プラスミド）などが含まれます。国内外の研究者との共同研究を通して、微生物ゲノム配列解析や再現可能なバイオインフォマティクス研究のスキルを身につけることを目標としています。

We aim to understand and utilize the diversity and evolution of microorganisms. Our research focuses on microbiomes of urban and built environments, antimicrobial resistance, and mobile genetic elements (viruses, plasmids). Through collaborations with researchers worldwide, we aim to develop skills in microbial genome sequence data analysis and reproducible bioinformatics research.

研究会の進め方 Seminar Style



先端生命科学合同研究会では、学部生、大学院生、教員が共同で研究を進め、学生は週2回のミーティングに参加します。

In the "Advanced Biosciences" seminars, all members, including faculty members, graduate students, and undergraduate students, collaborate on research projects.

Students participate in meetings twice a week.

所属に向いている学生 Expected Students

微生物の多様性や進化など不確実性を伴う推定に興味を持ち、コンピュータ (Unix シェル、R) を使った作業に快適に取り組むことができる人。

A person who is interested in estimation involving uncertainty, such as microbial diversity and evolution, and can comfortably work with computer tools (Unix shell, R).

卒プロ Graduation Projects

- 国際宇宙ステーションで同定された細菌の特徴  
Characteristics of bacteria identified in the International Space Station
- コリスチン耐性遺伝子を保有するIncP-1プラスミドに関連するプラスミドの比較解析  
Comparative analysis of plasmids related to the IncP-1 plasmid carrying colistin resistance gene
- アンチモン還元細菌 *Geobacter* sp. SbR株のゲノム配列決定と *Geobacter* 属細菌における比較ゲノム解析  
Genome Sequencing of *Geobacter* sp. Strain SbR, an Antimonate-Reducing Bacterium, and Comparative Genomic Analysis of Bacteria in the Genus *Geobacter*

specialty

メタボロミクス / 分析化学 / がん代謝  
Metabolomics / Analytical Chemistry / Cancer metabolism

works

- 曾我朋義、江角浩安編 (2012) 『がん代謝』 実験医学増刊、羊土社
- 曾我朋義編 (2017) 『がん代謝』 実験医学増刊、羊土社
- Soga, T., Ohashi, Y., Ueno, Y., Naraoka, H., Tomita, M., Nishioka, T. (2003) "Quantitative Metabolome Analysis Using Capillary Electrophoresis Mass Spectrometry", *J. Proteome Res.* 2, pp.488-494.
- Satoh, K., Yachida, S., Sugimoto, M., Oshima, M., Nakagawa, T., Akamoto, S., Tabata, S., Saitoh, K., Kato, K., Sato, S., Igarashi, K., Aizawa, Y., Kajino-Sakamoto, R., Kojima, Y., Fujishita, T., Enomoto, A., Hirayama, A., Ishikawa, T., Taketo, M.M., Kushida, Y., Haba, R., Okano, K., Tomita, M., Suzuki, Y., Fukuda, S., Aoki, M., Soga, T. (2017) "Global metabolic reprogramming of colorectal cancer occurs at adenoma stage and is induced by MYC" *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 114, pp. E7697-E7706.



曾我 朋義

SOGA TOMOYOSHI

政策・メディア研究科教授

研究会 Seminars

研究会 B

細胞や生体試料に数千種類存在する代謝物質（メタボローム）の測定技術の開発とそれを用いた微生物、植物、哺乳動物、ヒトの代謝および生命現象の解明、診断技術の開発、がんの代謝解明、抗がん剤の開発などを行っています。

We develop measurement technologies for thousands of metabolites (metabolome) present in cells and biological samples, and use these technologies to elucidate metabolism and life phenomena in microorganisms, plants, mammals, and humans; develop diagnostic techniques; elucidate cancer metabolism; and develop anti-cancer drugs.

研究会の進め方 Seminar Style



個人で好きな研究テーマ（測定技術の開発、代謝研究、がん研究など）を決めて、メンターの指導の下に研究を行います。

Individuals decide on a research theme of their choice (development of measurement techniques, metabolic research, cancer research, etc.) and conduct research under the guidance of a mentor.

所属に向いている学生 Expected Students

生物学、化学の基礎学力があり、熱心に研究ができる人。

Students who have basic academic skills in biology and chemistry, and a passion for research.

卒プロ Graduation Projects

- がんメタボローム-培養細胞および臨床検体を用いた前処理法の確立とメタボローム解析  
Cancer Metabolome - Development of Pretreatment Methods and Metabolome Analysis Using Cultured Cells and Clinical Specimens
- COMT 遺伝子発現による卵巣がん浸潤・転移抑制機構の解明  
COMT Gene Expression Suppresses Ovarian Cancer Inhibitory Mechanism of Invasion and Metastasis
- がん細胞の酸化ストレス耐性を支える代謝経路および代謝物質の探索  
Metabolomic Screening of Antioxidants in Oxidative Stress-resistant Cancer Cells



高木 丈也

TAKAGI TAKEYA

総合政策学部専任講師

speciality

朝鮮語学 / 方言学 / 談話分析  
Korean Language Study / Dialectology / Discourse Analysis

works

- 高木丈也 (2023) 「朝鮮民族と言語、そして政策」 宮代康丈、山本薫編『シリーズ 総合政策学をひらく 言語文化とコミュニケーション』.
- 高木丈也 (2022) 「ウズベキスタン、カザフスタンにおける韓国語教育」『慶應義塾 外国語教育研究』18, pp.91-101.
- 李舜炯、高木丈也 (2021) 「韓国語・朝鮮語における日本語借用語—二次借用語の使用を中心に—」 今村圭介・ロング、ダニエル編『アジア・太平洋における日本語の過去と現在』, pp.353-383.
- 高木丈也 (2019) 「中国朝鮮族の言語使用と意識」 くらしお出版.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

「朝鮮の文化・社会」と「言語研究のインターフェース」という2つの研究会を開講しています。

朝鮮の文化・社会：

フィールドワークや朝鮮語による一次資料の精読を通して、同時代の朝鮮語圏について、独自の視点から探究する。

言語研究のインターフェース：

ことばと、ことばにまつわる諸現象を(広義の)社会の中で位置づけ、普遍性や特殊性を解明する。

研究会の進め方 Seminar Style



基本的には個人発表が中心ですが、4年生になると、卒プロの輪読も行っています。

所属に向いている学生 Expected Students

朝鮮語インテンシブ2までを履修している。ソウル大学における海外研修に参加している。ことばに興味がある。複数の言語を学んだことがある。

卒プロ Graduation Projects

- 朝鮮語学習用アクティビティの開発 – “遊び”の要素とアウトプットを意識した授業内活動–
- 韓国はなぜ日本よりもアーチェリーの競技レベルが高いのか
- 地下アイドルとファンのコミュニケーション

speciality

クラウドネットワークロボティクス / ソーシャルロボティクス  
Cloud Network Robotics / Social Robotics

e-mail

srobot-info@sfc.keio.ac.jp

works

- 高汐一紀, “ロボティクスとXRによるNew Experienceの創造”, 『ネイチャーインタフェイス』, 第88号, 2023年9月.
- 板生清監修・人間情報学会編, 高汐一紀・他, 『人間情報学』, 近代科学社, 2021年.
- 谷中健太郎・高汐一紀, “v-IoT: ARによる仮想的IoT環境の構築と連想概念による適切な情報提示オブジェクト選択手法”, 『電子情報通信学会論文誌』(D), 104.1 (2021), pp.21-29, 2021年.



高汐 一紀

TAKASHIO KAZUNORI

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

IoRT (Internet of Robotic Things) サービスのアクタとして人々と共存し、人の身体拡張をも支援する「協働・共発達型ロボット」。その実現方法をインタラクティブフレームワーク実装、共発達モデルの検討とアーキテクチャ構築、社会実装の各フェーズにおいて、横断的に議論します。

A “cooperative and co-developmental robot” which coexists with people as an actor of IoRT (Internet of Robotic Things) services and also supports human body augmentation. We will discuss how to realize such a robot cross-disciplinary in each phase of interaction framework implementation, study of co-development model and architecture construction, and social implementation.

研究会の進め方 Seminar Style



大学院 AP (アカデミックプロジェクト) とも連携し、キャンパスや共同研究先での実装・検証実験の経験を積むことで、実証的な議論の姿勢と、システム開発に必要な様々なスキルを学んでもらいます。

While also collaborating with the Graduate School AP (Academic Project), students will gain experience in implementation and verification experiments on campus and at

joint research sites, and learn an attitude of empirical discussion and various skills necessary for system development.

所属に向いている学生 Expected Students

ラボのメンバには、自分の得意分野を伸ばすだけでなく、メンバ同士がその得意分野をレクチャし合うことでお互いのスキルアップを目指してほしいと考えています。

We hope that lab members will not only develop their own areas of expertise, but also aim to improve each other's skills by lecturing each other on their areas of expertise.

卒プロ Graduation Projects

- アルゴリズムック・ロボットデザイン手法の開発と適用モデルの構築  
Development of Algorithmic Robot Design Method and Application Model
- テレプレゼンスロボットにおける遠隔ユーザの存在感向上手法の提案と評価  
Evaluation of Telepresence Robots Enhancing Presence of Remote Users
- Ex-Amp Robot: Expressive Robotic Avatar for Enhancing the Communication of Tetraplegic Users





specialty

労働法 / 労働政策 / 仕事と家庭のジェンダー  
Labor law / Labour policies / Gender in work and family

e-mail

taka84@sfc.keio.ac.jp

高橋 裕子

TAKAHASHI YUKO

総合政策学部准教授 (有期)

### おすすめ授業 Recommended Courses

### 働くこととジェンダー

ジェンダーにまつわる様々な問題を、労働法、労働政策の立場から考察します。社会には様々な差別的取扱いがありますが、労働の分野では、性別に基づく差別の解消に早くから取り組み、法制度を充実・発展させてきた実績があります。労働分野の取組みを知るとは、他の分野での差別的取扱いや現在進行形の課題に対する処方箋を見つける鍵になると考えています。

In the course, students approach gender issues from the viewpoints of the labour policies as they have a long history of facing gender discrimination in work. To learn the experience in work surely helps us to solve gender issues in other areas.

#### 授業の進め方 Class Style



働くこととジェンダーに関する問題について、テーマごとに講義で掘り下げるとともに、いくつかのトピックスについて、グループで見聞交換をします。

The lecturer explains gender issues in work and students address some topics in groups.

#### 受講に向いている学生 Expected Students

働くこととジェンダーに関する問題や社会の不平等に興味のある人。社会の問題に気づき、主体的に議論に参加し、自分の頭で考えることができる人。

Students who can identify in gender issues in work and other discriminative treatments in the society, and can make efforts to find out answers.

#### 卒プロ Graduation Projects

今年度着任しましたので、まだ卒業プロジェクトを担当した経験がありません。

specialty

中国地域研究 / 中国市民社会論 / 公共宗教論  
The Study on China / Especially on Chinese Civil Society / Public Religions

works

- 田島英一、山本純一編著 (2009) 『協働主義 中間組織が開くオルタナティブ』慶應義塾大学出版会。
- 殿網林、田島英一編著 (2013) 『アジアの持続可能な発展に向けて』慶應義塾大学出版会。
- 田島英一 (2007) 『弄ばれたナショナリズム』朝日新聞社。
- 田島英一 (2001) 『「中国人」という生き方』集英社。



田島 英一

TAJIMA EIICHI

総合政策学部教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 A

中国共産党による統治体制を含む権威主義体制は、制度世界が生活世界を併呑する形で生まれます。いかに制度世界と生活世界を分かち壁を修復し、生活世界の自律的秩序を回復し、そこから制度世界への影響力、つまり公共性を回復するかが課題です。これは、無論中国に限定される課題ではありません。

Authoritarian regimes, including the system by China Communist Party, are formed through the system dominating the life world. The challenge is how to repair the wall between the system and the life world, how to restore the autonomous order of the life world, and how to restore the influence from the life world to the system, i.e. publicness. This is, of course, not a challenge limited to China.

#### 研究会の進め方 Seminar Style



学期前期と後期は個人発表、中盤は輪読が中心となります。

The first quarter and the last quarter: individual presentations. The 2nd and 3rd quarters: reading articles related to members' studies.

#### 所属に向いている学生 Expected Students

特に制限はありません。  
Without any restriction.

#### 卒プロ Graduation Projects

- 長崎県生月島の「カクレキリシタン」と村落秩序  
Kakure Kirishitan (indigenized hidden Christians) and Village Order in Ikitsuki Island, Nagasaki
- 中国業主委員会の台頭と都市ガバナンス  
The Rise of Owners' Committees and Urban Governance in China
- 日本における外国人研修、技能研修事業の仕組みとその問題点  
Foreign worker training, skill training business and their problems in Japan



田中 浩一郎

TANAKA KOICHIRO

政策・メディア研究科教授

speciality

イランを中心とする西アジア（中東）地域の国際関係とエネルギー安全保障 / 平和構築と予防外交  
International relations in West Asia (Middle East) region, with a strong focus on Iran and Afghanistan / Energy security / Peace building and preventive diplomacy

e-mail

tanak016@sfc.keio.ac.jp

研究会 Seminars

研究会 A

現代の中東地域を対象とする外交・安全保障・エネルギー問題に関して議論し、シナリオプランニング手法などを通じ、実践的な感覚を養うことを目指しています。

This Lab aims to discuss variety of issues that are related to today's Middle East from the viewpoint of area studies, security, and energy. Then, by utilizing the method of scenario planning, students will explore their practical senses of international relations.

研究会の進め方 Seminar Style



所属する学生の希望や傾向を見ながら、共通テキストの輪読、個別テーマの追求、実践的なシナリオプランニングなどを行います。時間的な余裕があるときには、在京の大使館を訪れ、大使と懇談することもあります。ビデオを鑑賞し、どのような歴史的事象をモチーフとしているのか、「逆引き」を行うことも時々、実施しています。

Based on the students' knowledge and interest, this Lab will either conduct research based on text review, furthering of each student's themes of interest, and/or scenario planning studies. In the past, students have visited foreign embassies in Tokyo and have been received by respective ambassadors. Analyzing video films that are based on true

stories is another method that this Lab uses.

所属に向いている学生 Expected Students

自分で追求したい中東およびエネルギーに関する問題意識を有している学生を歓迎します。そのほか、明白な議題は未定でも、中東やエネルギーについて全般的な関心を持っている人にも向いていると思います。

For those students who hold specific interest on the Middle East or energy issues are highly welcomed. In general, all students that are attracted by the region and energy could find a place in this Lab.

卒プロ Graduation Projects

- 欧州の非イスラーム教の家庭に生まれた若者がイスラーム国に参加する要因、及び、日本出身のイスラーム国戦闘員が発生する余地の考察  
A Study on Why non-Muslim Youth Born in European States Join "Islamic State" and the Possibility of the Occurrence of "Islamic State" Militants with Japanese Origin
- シナリオプランニングによる2030年におけるサウジアラビアの分析  
An Analysis of Saudi Arabia in Year 2030 Based on a Scenario Planning
- イラン-アメリカ関係の未来予想図  
Forecast of the US - Iran Relations

speciality

デザイン工学 / 3D・4D プリンティング / 循環型都市  
Design Engineering / 3D 4D Printing / Circular Economy

e-mail

htanaka@sfc.keio.ac.jp

works

- 東京オリンピック・パラリンピック表彰台の設計統括
- 日本におけるファブラボの先導
- 日本におけるリサイクリーションラボの先導



田中 浩也

TANAKA HIROYA

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

3D/4Dプリンティングの技術を活かして、新種の「都市エレメント」を設計することを主眼としています。

研究会の進め方 Seminar Style



多くの学生がプロジェクトチームに所属します。学生は、頻繁に大人を交えたミーティングに参加します。

所属に向いている学生 Expected Students

研究室に週の半分以上の時間を捧げられる学生です。

卒プロ Graduation Projects

研究室ウェブサイト (<https://fab.sfc.keio.ac.jp/>) を参照下さい。

Please see our website (<https://fab.sfc.keio.ac.jp/>)



玉村 雅敏

TAMAMURA MASATOSHI

総合政策学部教授

specialty

公共経営 / ソーシャルマーケティング / 評価システム設計  
Public Management / Social Marketing

e-mail

tama@sfc.keio.ac.jp

works

- 玉村雅敏・編著 (2016) 『ソーシャルパワーの時代—「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創 (CSV) 戦略』産学社
- 玉村雅敏・編著 (2014) 『ソーシャルインパクト—価値共創 (CSV) が企業・ビジネス・働き方を変える』産学社
- 玉村雅敏・編著 (2013) 『地域を変えるミュージアム—未来を育む場のデザイン』英治出版
- 玉村雅敏・編著 (2016) 『東川スタイル—人口8000人のまちが共創する未来の価値基準 (まちづくりトラベルガイド)』産学社

研究会 Seminars

研究会 A

最先端の「ソーシャルマーケティング」のあり方を探求することと、求められている理論や概念、手法を整理することを行いながら、各種の実践事例 (モノやコト、サービス、場など) を調べ抜いた上で、チームでの「ソーシャルマーケティング・プロダクト」づくりや、個人での「研究プロジェクト (調査・研究活動)」にとり組んでいます。

While exploring the “social marketing” and organizing the theories, concepts, and methods required for it, we are working on creating “social marketing products” in teams and individual “research projects (surveys and research activities)”.

研究会の進め方 Seminar Style



春学期は3-6人のチームで「ソーシャルマーケティングプロダクト」づくり、秋学期は個人で成果を出す「研究プロジェクト (調査・研究活動)」にとり組みます。毎週1冊以上の書籍をチームで輪読します。

In the spring semester, teams of 3-6 students will work together to create “social marketing products” and in the fall semester, teams will work on individual research projects (surveys and research activities) to produce results. Teams read one or more books each week.

所属に向いている学生 Expected Students

この研究会は、お互いに教えあいながら、協働でよりよい研究会づくりを率先して推進するメンバーで活動しています。

This research group is made up of members who teach each other and take the initiative to promote the creation of better study groups through collaboration.

卒プロ Graduation Projects

- 米づくりから取り組む日本酒造り—製造業による集落営農の法人化実践  
Sake Brewing from Rice - Practical use of village farmers by manufacturing companies as legal farmers
- 地域資源の再発見を通じて生まれる市民の誇りと主体性—富士吉田市における食のブランディング実践 (富士山じかんプロジェクト)  
Citizens' Pride and Initiative Created through Rediscovery of Local Resources: Food Branding Practice in Fujiyoshida City (Fujiyama Jikan Project)
- 「慶應の水」開発プロジェクト  
Keio Water Development Project

specialty

環境政策  
Environmental policy

e-mail

tukahara@keio.jp

works

- 塚原沙智子 (2023) 「資源循環政策の現場から—国際資源循環の適正化をめざして」新保史生・和田龍磨編『総合政策学をひらく 公共政策をめぐる法制度』慶應義塾大学出版会, pp.133-152.
- 塚原沙智子 (2022) 「プラスチックごみ問題と資源循環対策の動向」慶應義塾大学SFC研究所 xSDGs・ラボ編『SDGs白書2022』インプレスR&D, pp164-169
- 塚原沙智子 (2021) 「廃棄物・リサイクル分野のインフラ輸出」国際環境経済研究所 <https://ieei.or.jp/2021/10/expl211015/> (2023年6月12日最終アクセス)



塚原 沙智子

TUKAHARA SACHIKO

環境情報学部准教授 (有期)

研究会 Seminars

研究会 A

環境問題への対策は、総論賛成・各論反対に陥ることが多々あります。研究会では、各々が着目するテーマの背景を深く掘り下げ、ステークホルダー間の利害が複雑に絡み合った、事象間にトレードオフが起きていたりといった問題の構造を紐解くことで、課題の本質を見極め、具体的な解決策を探求することを目標としています。

Measures to tackle with environmental problems often agreed in principle but disagreed on the details. The aim of the seminar is to identify the essence of the issues and search for concrete solutions by exploring in depth the background of the topics each student focuses on and clarifying the structure of the problems, such as the complex interaction of interests among stakeholders and the trade-offs that occur between events.

研究会の進め方 Seminar Style



全ての学生が2~5人から編成するプロジェクトチームに所属します。多くはSFCをフィールドとしたプロジェクトで、学期を通じて取り組み、研究会では全体に対して進捗報告や相談を行います。

All students belong to project teams of two to five members. Most of the projects are SFC-based and are worked on throughout

the semester, with progress reports and consultations given to the whole group at the seminars.

所属に向いている学生 Expected Students

実際に起きているリアルな問題を解決するため、探求心を持って、調査や関係者との調整に取り組める人。困難な状況に対しても、具体的なソリューションを提案して乗り越えようとする忍耐力のある人。

Students who are able to think through real problems with an inquisitive mind in order to solve them, and have the patience to overcome difficulties in coordinating with stakeholders through concrete suggestions.

卒プロ Graduation Projects

- 日本で持続可能なパーム油を普及させる方法  
How to promote sustainable palm oil in Japan
- 藤沢市の飲食店が地産地消の取り組みに見出す価値と取り組みを妨げる障壁について  
The value and barriers for restaurants in Fujisawa city to make a commitment to local production for local consumption
- ナチュラル・オーガニック化粧品普及状況の調査及び日本における普及促進のための提案—日本と欧米の比較より—  
Research into the diffusion of natural and organic cosmetics and suggestions for promoting them in Japan: a comparison of Japan and the Western countries





鶴岡 路人

TSURUOKA MICHITO

総合政策学部准教授

speciality

国際安全保障 / 欧州政治 / EU  
International security / European politics / European integration

e-mail

tsuruoka@sfc.keio.ac.jp

works

- 鶴岡路人「欧州戦争としてのウクライナ侵攻」(新潮選書、2023年)
- 鶴岡路人「EU離脱——英国とヨーロッパの地殻変動」(ちくま新書、2020年)
- 鶴岡路人「欧州は目覚めたのか」池内恵他「ウクライナ戦争と世界のゆくえ」(東京大学出版会、2022年)
- Michito Tsuruoka, "Competing Visions of Japan's International Engagement: Japan First vs Global Japan," *The International Spectator*, Vol. 55, No. 1 (2020)

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

欧州の視点で国際安全保障を考え、国際安全保障の視点で欧州を考えることを目標としています。欧州を正面に据え、日本やインド太平洋のみからみえるものとはまた異なる世界が広がりますし、核抑止論などの安全保障上の重要な考え方も欧州正面で発展してきました。SFC 研究所発行の“S-face,” No. 35も参照。

Thinking about international security through the prism of Europe and approaching Europe from a viewpoint of Europe. (See “S-face,” No. 35 for more details.)

研究会の進め方 Seminar Style



研究の手法・方法論を議論したうえで、欧州政治や国際安全保障に関する文献を講読し、同時に個人研究を進めます。参加人数によって、全体会合と少人数会合、個人指導などを組み合わせます。

Starting with research methodologies, read books and articles together on European politics and international security and conduct individual research.

所属に向いている学生 Expected Students

物事をじっくり考え、背景や構造を含めて理解したい人。同時に、日々動く日本や世界の情勢に関心を持ち、自ら情報を集め、分析したい人。分析力を身に付けることが重要です。Those who want to understand - systematically and critically - what takes place in Japan, Europe and the world. Improving one's analytical skills is of prime importance.

卒プロ Graduation Projects

- サイバー規範と国際レジーム  
Cyber norms and international regimes
- ヨーロッパのインド太平洋関与  
Europe's engagement in the Indo-Pacific region
- なぜ人権はEU・中国関係の阻害要因になったか  
Why human rights concerns have hindered the development of EU-China relations

speciality

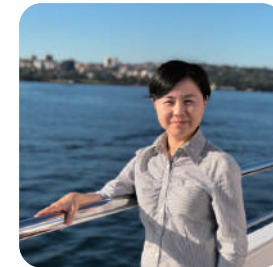
中国近現代史 / 中国地域研究  
Modern and Contemporary History of China / Chinese Area Studies

e-mail

zheng@sfc.keio.ac.jp

works

- 鄭浩瀾「中国農村社会と革命」慶應義塾大学出版会、2009年
- 鄭浩瀾・中兼和津次編著「毛沢東時代の政治運動と民衆の日常」慶應義塾大学出版会、2021年
- 共著論文、"Childhood, Education and Everyday Militarism in China: Before and After 1949" in J. Marshall Beier and Jana Tabak (eds.), *Peace and Conflicts*, London: Palgrave Macmillan, 2021
- 鄭浩瀾「中国の政策執行における政治動員：農村の基層ガバナンスの課題」神保謙・廣瀬陽子編「流動する世界秩序とグローバルガバナンス」慶應義塾大学出版会、2023年



鄭 浩瀾

ZHENG HAOLAN

総合政策学部准教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

歴史と社会の視点から中国のことを多面的に学びます。普通の人々の生活に視点をおき、20世紀における中国社会の変容を考察する。Understanding China from historical and societal perspectives. Examining the history of Chinese society's transformation by focusing on ordinary people's daily lives.

研究会の進め方 Seminar Style



専門文献の輪読と個人発表・討論を中心に行います。

Reading academic reference, presentations of individual research, discussion.

所属に向いている学生 Expected Students

中国に関心がある学生。  
Students who are interested in China studies.

卒プロ Graduation Projects

- 日中戦争期の児童絵本  
Children's Picture Books in the Sino-Japanese War
- 横浜中華街における中華料理老舗店の変容  
The Transformation of Long-established Restaurants in Yokohama Chinatown
- 中国にルーツを持つニューカマー子女  
The Identity of Chinese Newcomers' Children in Japan

※学生は個人の興味に応じて研究テーマを選択している。

Students decide their own research topics according to their research interests.



手塚 悟

TEZUKA SATORU

環境情報学部教授

speciality

サイバーセキュリティ / 情報セキュリティ / 電子認証  
Cybersecurity / Information Security / Electronic Authentication

e-mail

d-trust-admin@sfc.wide.ad.jp

works

- 手塚悟, 嶋田充宏, 新妻継良. 『日本を強くする企業コード もう一つのマイナンバー「法人番号」とは』, 日経BP, 2013.
- 手塚悟, 向賢一 ほか. 『マイナンバーで広がる電子署名・認証サービス』, 日経BP, 2015.
- 武本敏, 手塚悟. 『Q&A マイナンバーのセキュリティ対策 (IT を活用した安全管理のすべて)』, 清文社, 2015.
- Korry Luke, Takao Kondo, Satoshi Kai, Keith Mayes, Satoru Tezuka. "Using secret sharing to improve FIDO attack resistance for multi-device credentials", *In Proc. of ICINT '23*, 2023.

研究会 Seminars

研究会 A

手塚研究室はサイバーセキュリティとデジタルトラストの研究会です。安心・安全な社会の実現のため、公開鍵暗号技術や鍵配送機構等を中心とする技術面と国際相互認証に基づいた信頼性のあるデータ流通を実現する政策立案などの社会面の両面から、研究課題の解決に挑戦しています。

Tezuka Laboratory is a research group exploring cyber security and digital trust issues. In order to realize a safe and secure society, we challenge ourselves to solve research problems from both technical aspects, such as public key cryptography and key management mechanisms, and social aspects, such as policy-making for reliable data exchange based on international mutual recognition.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は基本的に一人ずつ個別の研究テーマを取り組み、毎週の研究会では教員と研究内容を議論します。関係する研究テーマを取り組む学生同士で議論することもあります。

Students basically work on individual research topics and discuss their research with faculty members at the weekly research meeting. Students working on related research topics may also discuss their research with each other.

所属に向いている学生 Expected Students

秋学期に開講する「データセキュリティ」の履修を推奨します。また、基本的なインターネット工学分野の知識を持ち合わせることを望ましいです。

It is recommended that students take the course of Data Security, which will be offered in the fall semester. It is also recommended that students have a basic knowledge of the field of Internet engineering.

卒プロ Graduation Projects

- マルチドメインな IoT 環境におけるエンド・ツー・エンドでデータの真正性を検証するメカニズム  
A Mechanism of Verifying End-to-End Data Authenticity in a Multi-Domain IoT Environment
- 官民連携に基づく本人性管理のマルチラテラルな保証環境の実現  
FIDO-based Authentication Mechanism that enables Multilateral Identities derived from Public and Private Authorities
- 安全な Web サービスの実現にむけた複数プロバイダに跨る関係性の相互宣言機構  
Mutual Declaration Mechanism of Multi-provider Relationship for Trusted Web Services

speciality

ライフスキルプログラム / コーチング  
Life skill program coaching

works

- 東海林祐子, 金子郁容 (2014) 「コーチングのジレンマとその解決モデルの提案 — 高校運動部の実践事例から導かれた仮説に基づく考察」『日本コーチング学研究』28 (1), pp.15-28.
- 東海林祐子 (2013) 『コーチングのジレンマ』ブックハウス・エイチディ.
- 東海林祐子 (2022) 「トップアスリートとコミュニティ」秋山美紀, 宮垣元 (編) 『ヒューマンサービスとコミュニティ: 支え合う社会の構想』勁草書房, pp. 120-139.
- 東海林祐子 (2015) 「選手とコーチの間のコミュニケーションに関する一考察 スポーツ現場におけるコーチングのジレンマをめぐって」澤田治美編 『ひつじ意味論講座 第7巻』ひつじ書房, pp.199-219.



東海林 祐子

TOKAIRIN YUKO

政策・メディア研究科准教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

パフォーマンスの向上を目指す過程で発生する「コーチングのジレンマ」を紐解き、スポーツを通じて、ヒトとの関係性を高め、社会に還元することを目指しています。ここでいうパフォーマンスとは、スポーツ場面だけに特化せず、ヒトとの関係性が求められる企業や家族などを含めた組織のあらゆるケースについて検討をしています。

We have been seeking to unravel 'the coaching dilemma occurring on the aiming process for the better performance', and to contribute to society with enforcing the good human relationships through sports activities.

The performance referred to here is the one which is required in the various situations with the community members such as companies, 'families' and so forth, not to apply only to be in the sports events. We will try to examine every case from all angles.

研究会の進め方 Seminar Style



多くの学生が4~6人から成るプロジェクトチームに所属します。学生は、それぞれのフィールドで検証し、それを全体で協議します。

Most students will be in project teams of 4-6 people. Each student will have their own field to test/verify and discuss what they

have learned with their whole group.

所属に向いている学生 Expected Students

スポーツ (見る・する・ささえる・つくる) に興味がある人、コミュニティやチーム環境における人材育成について興味を持つ人を対象としています。

This course needs the students who have the interests in developing human resources and/or sports (by watching, doing, and supporting).

卒プロ Graduation Projects

- WE LEAGUEの理念推進活動が選手のキャリア形成に与える影響 - 日本女子プロサッカーリーグの選手・クラブへの実態調査を通して -  
The impact of WE LEAGUE Philosophy Promotion Activities on Player's Career Development: Through a survey of players and clubs in the Japan Women's Empowerment Professional Football League
- 高校野球指導者における投手起用の判断基準の検討  
Effect of Community Formation by High School Baseball Coaches on Athletes' Injury Cognition
- 陸上競技における記録向上に有効なスキル指導の検討  
A Study of Effective Skills Instruction for Improving Records in Track and Field Athletics



TRACE JONATHAN

トレース ジョナサン

環境情報学部専任講師

specialty

応用言語学 / 言語試験 / カリキュラム設計  
Applied linguistics / language assessment / curriculum development

works

- Trace, J., Hudson, T., & Brown, J. D. (Eds.) (2015) . *Developing courses in languages for specific purposes*. Honolulu: University of Hawaii, National Foreign Language Resource Center. Available at <http://hdl.handle.net/10125/14573>
- Brown, J. D., & Trace, J. (2017) . Fifteen ways to improve classroom assessment. In E. Hinkel (Ed.) , *Handbook of research in second language teaching and learning* (3rd ed.) . (pp. 490-505) . New York: Routledge.
- Trace, J., Meier, V., & Janssen, G. (2016) . "I can see that": Developing shared rubric category interpretations through score negotiation. *Assessing Writing*, 30, 32-43. doi:10.1016/j.asw.2016.08.001
- Trace, J. (2020) . Clozing the gap: How far do cloze items measure?. *Language Testing*, 37 (2) , 235-253.

研究会 Seminars

研究会 A

Explore aspects of second language acquisition and pedagogy, primarily through the use of tasks, games, and values-realizing approaches to applied linguistics. This seminar incorporates approaches from a variety of disciplines, including assessment, curriculum design, socio-cultural theory, and both quantitative and qualitative methods with rotating topics each semester to explore different pedagogical and research themes.

研究会の進め方 Seminar Style



Students typically develop projects on their own, though the class itself involves regular group-work and hands-on practice to engage in the material. As students in this seminar represent a variety of needs, both teaching-focused and otherwise, projects tend to remain driven by individual values and goals.

所属に向いている学生 Expected Students

This seminar is for students interested in teaching, language, and education. Knowledge of academic English is required, and while teaching experience is recommended it is not required.

卒プロ Graduation Projects

- Personality and Motivation in Foreign Language Learning
- Perceptions of Communication Strategies Relative to Learning Contexts
- Language attrition of conversational English in Hong Kong from environment and culture

specialty

理論生物学  
Theoretical Biology

e-mail

ynaito@sfc.keio.ac.jp

works

- 内藤泰宏「生命を象る力の探索」 <https://scrapbox.io/ynaito/%E7%94%9F%E5%91%BD%E3%82%92%E8%B1%A1%E3%82%8B%E5%8A%9B%E3%81%AE%E6%8E%A2%E7%B4%A2> (2023年4月1日アクセス)
- 内藤泰宏 (2013) 「生命を計算して理解する」 *KEIO SFC JOURNAL*13 (2) , pp.49-60
- Naito, Y. (2017) "Asymmetric cell-cell adhesion can trigger mitochondriogenesis: A hypothesis", *PeerJ Preprints*, 5:e2802v1
- Ohno, H., Naito, Y., Nakajima, H., Tomita, M. (2008) "Construction of a biological tissue model based on a single-cell model: A computer simulation of metabolic heterogeneity in the liver lobule", *Artificial Life*. 14 (1) , pp. 3-28



内藤 泰宏

NAITO YASUHIRO

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

生物のデザインもつとの尤もらしさ (plausibility) —他のデザインではなくこのデザインが選ばれた理由—を知りたいです。生物は人間がつくりだしたものではありませんが、そこに人は合目的なデザインを見いだすことができます。人ならざるものが用いる「創作」や「設計」の過程を探ってみたいのです。

I want to unveil the plausibility of the design of the organism and the reason why this design was selected rather than other designs. Although organisms are not created by humans, we can find a purposeful design in them. I want to explore the process of "creation" and "design" used by non-human processes.

研究会の進め方 Seminar Style



学生の関心に基づいてテーマを決めます。私も一緒に勉強し、私の手に負えない時は他の研究会を勧めます。成功の見込みよりも、ひたすら考えることを重視します。

We decide on a topic based on the student's interest. I will study with them, and if I cannot help, I will recommend other seminars. I emphasize thinking over the possibility of success.

所属に向いている学生 Expected Students

生命現象が好きで、ものごとを論理的に考えることが好きな人。ひたすら好奇心に従って研究しているので、世の中の役に立つ成果を出したい人にはオススメしません。

Students who like life phenomena and like to think logically about things. We are doing research based on curiosity, so we do not recommend this seminar to students who want to produce useful results.

卒プロ Graduation Projects

- 葉緑体の光合成タンパク質複合体の空間配置の合理性  
Rationality of spatial configuration of photosynthetic protein complexes in chloroplasts
- 心房細動における電气的リモデリングの分類  
Classification of electrical remodeling in atrial fibrillation
- 肝臓の代謝酵素欠損が高アンモニア血症を引き起こすしくみの解明  
Elucidation of how liver metabolic enzyme defects cause hyperammonemia





中川 エリカ

NAKAGAWA ERIKA

政策・メディア研究科専任講師

speciality

建築設計及び建築に関連したデザイン全般 / まちづくり  
Architectural design and design related to architecture in general / neighborhood design

e-mail

erikanakagawa.keio@keio.jp

works

- 『中川エリカ 建築スタディ集』2007~2020
- 『新建築住宅特集』2023年7月号
- 『新建築住宅特集』2017年8月号
- 『新建築』2010年2月号

研究会 Seminars

研究会 A

未知かつ未来の建築を、模型という立体を通じて探求しています。大きくて詳細な模型により、身体の実感を持った研究が可能になると考えています。

I am exploring unknown and future architecture through physical models. We believe that a large and detailed model will make it possible to create a design that gives a sense of the physical body.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は10人以内のグループで実際に実現することを目標としたプロジェクトチームに所属します。チームのメンバーは1週間に一度、私とエスキスを行います。

Students belong to a project team with a goal of actual realization in a group of 10 people or less. Team members have an Esquisse with me once a week.

所属に向いている学生 Expected Students

模型を作るのが好きな人。まだ知らない物事にチャレンジするスピリットを持った人。

A person who likes to make models. A person who have the spirit to challenge things we don't know yet.

卒プロ Graduation Projects

今年度着任しましたので、まだ卒業プロジェクトを担当した経験はありません。

speciality

分散システム / ミドルウェア / ユビキタスコンピューティング  
Distributed Systems / Middleware / Ubiquitous Computing

e-mail

jin@sfc.keio.ac.jp

works

- 中澤仁, et al. ユニバーサルセンサネットワークと清掃車を活用した藤沢市のスマート化. 『デジタルプラクティス』, 2017, 8.3: 244-252.
- NAKAZAWA, Jin, et al. A bridging framework for universal interoperability in pervasive systems. In: 26th IEEE International Conference on Distributed Computing Systems (ICDCS'06). IEEE, 2006. pp. 3-13.



中澤 仁

NAKAZAWA JIN

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

中澤研究会では、情報の力で人を幸せにすることを目標として、そうした情報を収集、生成、流通させる情報通信技術を研究開発します。

With the goal of making people happy through the power of information, the Nakazawa Research Group will research and develop information and communication technologies to collect, generate, and distribute such information.

研究会の進め方 Seminar Style



学生は各自で研究テーマを設定します。テーマごとの研究グループに所属し、1週間に一度、グループミーティングに参加します。

Each student sets his/her own research theme. Students belong to a research group for each theme and attend group meetings once a week.

所属に向いている学生 Expected Students

研究活動を最優先にできる人。プログラムを書けなくても、書けるようになろうと強く思える人。「もの」を作るのが好きな人。

A person who can make research activities a top priority. People who can strongly believe that even if they can't write programs, they can learn to write them. People who like to create "things".

卒プロ Graduation Projects

- ShadowLB: 透過的に高速化するロードバランサ

ShadowLB: A Transparently Accelerated Load Balancer

- 物体検出とセマンティックセグメンテーションによる車道に限定した未知物体検出手法の提案

Proposal of a Method for Detecting Unknown Objects Limited to Roadways Using Object Detection and Semantic Segmentation

- FaST コンパイラ: 明示的目印Refと値の静的評価によるWebフロントエンドデータバインディングの高速化

FaST Compiler: Accelerating Web Frontend Data Binding with Explicit Marker Ref and Static Evaluation of Values



仲谷 正史

NAKATANI MASASHI

環境情報学部准教授

speciality

触覚 / 計測工学  
Haptics / Sensor engineering

e-mail

mn2598@sfc.keio.ac.jp

works

- 仲谷正史、寛康明、三原聡一郎、南澤孝太 (2016)『触覚入門』朝日出版社。
- 仲谷正史 (文)、いしだななこ (絵) (2021)『さわる たんけんたい』福音館書店。
- 仲谷正史、山田真司、近藤洋史 (2023)『脳がゾクゾクする不思議: ASMRを科学する』岩波書店。
- Maksimovic, S., Nakatani, M., Baba, Y., Patapoutian, A., Lumpkin, EA., et al. (2014) "Epidermal Merkel cells are mechanosensory cells that tune mammalian touch receptors", *Nature*. 509 (7502) , pp. 617-21.

### 研究会 Seminars

### 研究会B (1) / 研究会B (2)

SFC TOUCH LABは、触れることの基礎科学と、その知見を応用して「触れることの価値」を提案する研究に取り組んでいます。心理評価・神経科学・工学を組み合わせる知覚現象を解析し、そのメカニズム解明研究に取り組んでいます。得られた知見を用いて、触覚デバイス (触覚ディスプレイ/センサ) の開発にも役立っています。

The SFC TOUCH LAB is addressing the basic science of haptics and the application of our findings to propose "the value of touch". We combine psychological evaluation, neuroscience, and engineering to study the phenomenon of haptic perception and to elucidate its underlying mechanisms. The knowledge we have obtained is also utilized for the development of haptic devices (haptic displays/sensors).

### 研究会の進め方 Seminar Style



仲谷研究会は神経科学・皮膚科学・触覚科学の基礎知見に深奥質感や3Dファブ、感性評価技術を組み合わせた先端研究を実施します。毎学期末にOpenLabで発表することが必須です。

The Nakatani Research Group conducts cutting-edge studies combining basic knowledge from neuroscience, dermatology,

and haptics with deep SHITSUKAN, digital fabrication, and sensory evaluation techniques. Students are required to present their results at OpenLab at the end of each semester.

### 所属に向いている学生 Expected Students

日常生活の中で生じた疑問に対して、あたりまえを疑いながらその疑問の本質に対して考え続けられる気力と体力を鍛えたい学生が望ましい。

Students who wish to strengthen physical and mental capacity to keep challenging questions that arise in their daily life activity and to consider the nature of all these questions while simultaneously raising doubts about the common sense.

### 卒プロ Graduation Projects

- 写真家アーヴィング・ペンの見る深奥質感の研究  
The Mechanisms of DEEP SHITSUKAN in Irving Penn's Still Life Photography
- 料理の環境情報学：料理の魅せ方が主菜の感性印象に与える影響の検討  
With a Hint of Sudachi: Food Plating Can Facilitate the Fondness of Food
- ふれなくても触れる：言葉がもたらす感覚イメージの研究  
Touching without touching: a study of sensory images elicited by linguistic expressions

speciality

UI/UX / HCI / HRI

works

- 中西泰人 (2010)「メディアの地平を拓く旅」『映像情報メディア学会学会誌』, Vol.64, No.4, pp. 515-519.
- 中西泰人, 本江正茂, 石川初, 豊田正史, 大越匡, 中澤仁 (2021)「スマートシティとポスト人間中心デザイン」『サービソロジー』 Vol.7, No.1, p.29-34.
- 中西泰人, 岩崎博論, 佐藤益大 (2011)『アイデアキャンブー創造する時代の働き方』NTT出版。
- ベン・フライ, ケイシー・リース, 中西泰人 (監訳), 安藤幸央 (訳), 澤村正樹 (訳), 杉本達應 (訳), (2015)『Processing:ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門』BNN新社。



中西 泰人

NAKANISHI YASUTO

環境情報学部教授

### 研究会 Seminars

### 研究会A

研究会の目標は、新たなテクノロジーを用いて新たな経験をデザインすることです。これまで主に空間的な情報システムを作ってきました。ここ数年はロボットやXRを使った新たなシステムを開発しています。

We aim to design new experiences using emerging technologies. We have mainly created spatial computing systems, and in the last few years, have been developing new systems using robots and XR.

### 研究会の進め方 Seminar Style



学生は研究会の大きなテーマに即したかたちで個人のプロジェクトを進めます。学生は1週間に1度のミーティングと輪読に参加します。Students work on individual projects in line with the major themes of the group. Students participate in weekly meetings and readings.

### 所属に向いている学生 Expected Students

プログラミングの基礎的なスキルはあり、何かを作るのが好きで、教員に言われなくても自分でハードウェアやソフトウェアを作るために時間を割いてしまう人。

People who have basic programming skills, like to make things, and take the time to make their own hardware or software

without being told to do so by the faculty are suited for this group.

### 卒プロ Graduation Projects

- Projectoroid：車輪ロボットを用いた移動可能な空間型拡張現実感の提示方法とその応用  
Projectoroid: Method and application of presenting mobile spatial augmented reality using a wheeled robot
- 触覚提示の有無を時空間的に切り替えるVRゲーム体験の開発と評価  
Evaluation of VR Game Experiences with Switching the Presence of Haptic Feedback
- Chicken Heart Maker：バイノーラル録音による立体音響とEMSを融合した拡張型お化け屋敷  
Chicken Heart Maker: Enhanced haunted house combining stereophonic sound using binaural recording and EMS



中浜 優子

NAKAHAMA YUKO

環境情報学部教授

specialty

応用言語学 (第二言語習得・第二言語語用論)  
Applied Linguistics (Second language acquisition, applied pragmatics)

works

- Nakahama, Y. (2011) . *Referent markings in L2 narratives: Effects of task complexity, learners' L1 and proficiency level*. Hituzi Syobo Publishing.
- Nakahama, Y., Tyler, A., & van Lier, L. (2001) . Negotiation of meaning in conversational and information gap activities: A comparative discourse analysis. *TESOL Quarterly* 35 (3) . pp. 377-405.
- 中浜優子 (2017) 「日本語教育と質的研究」中浜優子・花城可武 (共編) 坂本正・川崎直子・石沢徹 (監修) 『日本語教育への道しるべ 第4巻 ことばのみかたを知る』 (pp. 153-176) . 凡人社
- 中浜優子 (2016) 機能主義アプローチに基づく第二言語習得研究—最新の研究動向と教育的示唆 誌上講座『第二言語としての日本語習得研究』第19号 pp. 61-81.

研究会 Seminars

研究会 A

本研究会では、学習者による第二言語（外国語）のコミュニケーション能力、すなわち言語運用能力の習得プロセスについて学びます。言語運用能力習得研究について、理論的、方法論的な理解を深めるとともに、その知見を現場に還元できるよう、言語教育への示唆について考えてもらうことを大きな目標とします。

This seminar examines the process of second/foreign language learners' acquisition of communicative abilities. The goal of the seminar involves developing students' understanding of language acquisition theories and methodologies as well as application of their acquired knowledge to foreign language pedagogy.

研究会の進め方 Seminar Style



個人研究を遂行する人が大半ですが、研究テーマが近い人がいる場合は、ディスカッションなどをすることはあります。学会発表などを学生がグループで行うこともあります。

The majority of students have their individual research topics identified for undergraduate theses. However, if their research topics are similar to each other's, they work in groups. Some students have presented their joint work at linguistics conferences.

所属に向いている学生 Expected Students

基礎的知識があった方が研究遂行がスムーズに行くので、研究会履修前に「第二言語習得論」を履修してもらっています。未履修者でどうしてもすぐに研究会履修を始めた人は、研究会と上記講義科目を同時履修してもらいます。

In order to conduct research efficiently, I require students to take my lecture classes prior to taking the seminar, i.e.: Second Language Acquisition (for Japanese students) or Introduction to Second Language Learning and teaching (for GIGA students).

卒プロ Graduation Projects

- L2英語学習者の現在完了形の習得・使用：転移適切性処理理論・アスペクト仮説からの考察  
Acquisition of present perfect forms of L2 English within the framework of Transfer Appropriate Processing and Aspect Hypothesis
- 日英語間音韻的差異に起因する英語学習者の習得が困難なフォニックスルール—日本人英語学習者に効果的なフォニックス指導法の策定を目指して—  
Investigation of phonics rules that are difficult for Japanese learners of English due to phonological differences between the languages: Some pedagogical implications of effective teaching of sound
- アメリカ人の“Sarcasm”と日本人の“皮肉”の違い  
The differences between American sarcasm and Japanese ‘hiniku’

specialty

建築 / プロダクトデザイン / グラフィックデザイン  
Architecture / Product Design / Graphic Design

e-mail

narukawa@keio.jp

works

- 鳴川肇 (2022) 「オーサグラフ図法の数式化と歪み評価」『日本地図学会 地図』 (Vol 60 No. 1) . pp. 1-16
- 鳴川肇 (2017) 「正多面体を用いた歪みの少ない長方形世界地図図法の提案」*KEIO SFC JOURNAL* (Vol 17, No. 1) . pp. 208-232
- Narukawa, H (2016) "Method of Mapping Image Information from One Face onto Another Continuous Face of Deferent Geometry" United States Patent
- 野野 茂, 李 弘宰, 知久 健, 鳴川 肇, 本間 万理 (2017) 「テント」特開2019-015119



鳴川 肇

NARUKAWA HAJIME

環境情報学部准教授

研究会 Seminars

研究会 A

「工学的な問いを幾何学的に解く。」を掲げ、デザインを技術、芸術の両面から向上する設計手法を探求します。このとき幾何学、私たちの科学をその道具にして価値あるデザインを生み出します。同時に「新しい新しさ」もさることながら、「美しい」をより大事にしています。デザインの理論もさることながら出来栄をより大事にします。

Narukawa lab has dedicated itself in solving engineering questions with geometric techniques. We explore design methods that improve designs from both its technical and artistic aspects. In this exploration, we utilize geometry, that is the science of form, as a design tool to create superior design products. At the same time, we value aesthetics over “new newness”. And we value workmanship over intellectual design theory.

研究会の進め方 Seminar Style



4~5人のプロジェクトチームが7つあり、企業と共同開発を実践したり、美術作品を制作します。森アトリエ, DFF, βスタジオで制作しています。

Narukawa laboratory has seven project teams of four to five members, which practice joint design development with

companies and create art works. We work at Mori Atelier, DFF, and β Studio.

所属に向いている学生 Expected Students

デザインスタジオや、デジタルデザイン基礎などデザイン授業を楽しめた人。模型作り、Illustrator, ライノセラス, Photoshopの作業が好きな人。

Narukawa Laboratory welcomes students who have enjoyed Design Studios, Digital Design Basics, and other design courses. We as well welcome students who like to work with model making, Illustrator, Rhinoceros, and Photoshop.

卒プロ Graduation Projects

- 「花暦 植物の時間」関連美術分野：ボタニカルアート+グラフィックデザイン+プロダクトデザイン+ビデオ作品+インフォグラフィックス+特殊印刷  
'Bloom Times and Plant Life Cycle' a project in the fields of botanical art + graphic design + product design + video works + info-graphics + print
- 「Urban Weaver」関連美術分野：建築デザイン+構造設計+都市計画  
'Urban Weaver' a project in the fields of architectural design, structural engineering, urban planning
- 「組みかえて学ぶ茶道具図鑑」関連美術分野：グラフィックデザイン+ブックデザイン+特殊印刷  
'Utensil coordination for Japanese Tea Ceremony' a project in the fields of Graphic Design + Book Design + print





西川 葉澄

NISHIKAWA HASUMI

総合政策学部専任講師

speciality

フランス文学 / フランス語教育 / ケベック文学  
French Literature / French as a Foreign Language / Quebec Literature

e-mail

nhasumi@sfc.keio.ac.jp

works

- ・西川葉澄 (2022) 「越境する個人——言語の間に見出すアイデンティティ」 宮代康丈、山本薫編『総合政策学をひらく、言語文化とコミュニケーション』、慶應義塾大学出版会., pp.219-236.
- ・西川葉澄 (2022) 「同期型オンライン会議でブレインストーミングを効果的に行う方法について考える」 *Etudes didactiques du FLE au Japon*. 31. pp. 10-25.
- ・西川葉澄 (2015) 「模倣と進歩—ロートレアモンとガブリエル・タルド」『仏語・仏文学論集』(上智大学フランス文学科) 49. pp.21-38.
- ・Hasumi NISHIKAWA (2008) « De l'emprunt au Développement : l'évolution de l'intertextualité chez Lautréamont. », 『フランス語フランス文学研究』 93. pp.52-67.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

外国語学習のための「学びのコミュニティ」作りと複言語主義：複言語主義に基づく相互文化的理解を目指す言語学習におけるコミュニティの可能性を探求します。

Creating a learning community that promotes Plurilingualism: in this kenkyu-kai, we focus on foreign language education and the process of creating successful learning communities. We conduct analysis and hold discussions on the feasibility of transforming language learning communities into realistic projects.

コピーとオリジナリティ：芸術において現代性の追求と関連する模倣をめぐる諸問題（オマージュ、引用、パロディ、剽窃等）を各々の興味に合わせて考察します。

Imitation and Originality: in this kenkyu-kai, we examine topics related to imitation and originality: homage, citation, parody, plagiarism, etc., and study how these topics relate to pursuit of modernity in the arts.

研究会の進め方 Seminar Style



論点を明確に共有するために文献輪読とディスカッションを行います。参加者は並行して各自で興味のある関連テーマについて個人研究をすすめ、研究発表を行います。

In both kenkyu-kai, I provide students with readings relevant to the topics. Students are

expected to generate discussions for understanding of the readings. During the semester, participants are expected to conduct individual research on topics related to the seminar and their interests. At the end of the term, students present their research.

所属に向いている学生 Expected Students

輪読や先行研究の調査により知識を深め、ディスカッションで得られた知見を自分の研究テーマに結びつけ、古典的文献の理論を現代の事象に照らし合わせて考察できる人。

Students who are motivated to read the assigned materials and make connections with their previous studies. Participants are expected to connect previous knowledge with the discussions and apply that new knowledge to theories from classical literature, contemporary events and their own research projects.

卒プロ Graduation Projects

- ・複言語学習による学習者の意識の変容  
Plurilingualism and transformation of Learner's Attitudes
- ・SFC言語ガイダンスの実態調査と分析  
Survey and Analysis of Language Guidance at SFC
- ・類似する漫画の需要と現代読者の嗜好傾向の変化  
Story predictability and changes in taste among comic readers

speciality

現代東南アジア研究 (特にインドネシア) / 現代社会と宗教 / 女性とイスラーム  
Southeast Asian Studies (esp. Indonesia) / Malay-Indonesian language

e-mail

yon@sfc.keio.ac.jp

works

- ・久志本裕子・野中葉編著 (2013) 『東南アジアのイスラームを知るための64章』 明石書店.
- ・野中葉 (2015) 『インドネシアのムスリムファッション—なぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』 福村出版.
- ・野中葉 (2023) 「ムスリムのヴェールをめぐる議論と実践—インドネシアを事例に」 神保謙・廣瀬陽子編『流動する世界秩序とグローバルガバナンス (シリーズ 総合政策学をひらく)』 193-215. 慶應義塾大学出版会.
- ・野中葉 (2023) 「小説が描く現代インドネシアのムスリム社会—フェビー・インディラニ [処女でないマリア] を題材に」 宮代康丈・山本薫編『言語文化とコミュニケーション (シリーズ 総合政策学をひらく)』 199-217. 慶應義塾大学出版会.



野中 葉

NONAKA YO

総合政策学部准教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

野中研1「現代東南アジア研究」では、主に、現代東南アジア地域の社会や文化について学び、個人研究を進めます。

Nonaka Lab 1 “Contemporary Southeast Asian Studies” focuses on the society and culture of Southeast Asia, and promotes individual research.

野中研2「ムスリム共生プロジェクト」では、日本におけるイスラームに対する理解を深め、急増するイスラーム教徒たちも包含する新しい日本社会のあり方を展望するための様々なプロジェクトを、ムスリムコミュニティと協働しながら実践していきます。

Nonaka Lab 2 “Muslim Friendly Project” aims to deepen the understanding of Islam in Japan, and to implement various projects in cooperation with Muslim communities in various parts of Japan.

研究会の進め方 Seminar Style



【野中研1】各自がテーマを決め、個人研究を進めます。その他、研究会メンバー全員で、複数の論文や文献の輪読も行います。

Nonaka Lab 1: Each individual chooses their own theme and conduct personal research. In addition, all members engage in collaborative reading and analysis of multiple papers and literature.

【野中研2】複数のプロジェクトを同時に進めます。フィールドワークやイベント開催などは、研究会の時間外に実施します。

Nonaka Lab 2: Multiple projects are conducted. Fieldwork, event organization, and other related activities are often carried out outside the regular seminar hours.

所属に向いている学生 Expected Students

【野中研1】東南アジア地域やムスリムの社会や文化、人々の営みに関心を持つ学生。

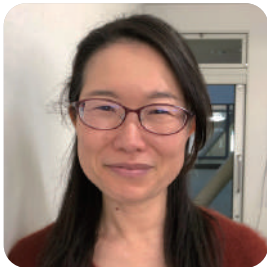
Nonaka Lab 1: Students who are interested in the Southeast Asian region, Muslim societies and cultures, and the lives of people within those communities.

【野中研2】イスラームに関心を持つ学生。マイノリティを包含できる日本社会の未来を考え、協働したい学生。

Nonaka Lab 2: Students who are interested in Islam. Students who want to collaborate and think about the future of Japanese society that can include minorities.

卒プロ Graduation Projects

- ・モスクと大学の協働による社会貢献活動のアクションリサーチ  
Action Research on Collaborative Social Contribution Activities between Mosques and Universities



白頭 宏美

HAKUTO HIROMI

総合政策学部専任講師 (有期)

specialty

日本語教育 / 言語学習 / 多文化共生  
Japanese Language Education / Language Learning /  
Multicultural Coexistence

e-mail

hakuto@sfc.keio.ac.jp

works

- 白頭宏美 (2022) 「多文化共生を考えるためのデジタル・ストーリーテリングの取り組み」『異文化間教育学会第43回大会発表抄録』, pp.104-105
- 白頭宏美 (2023) 「外国につながる子どものためのプレスクールの課題と可能性—F市における実践から—」『異文化間教育学会第18回大会発表抄録』, pp.68-69.

研究会 Seminars

研究会B

多文化共生とは何かについて考えることをテーマとしています。日本への移住者、日本に在住する海外にルーツがある人々、その子どもの教育などの課題について知り、多文化共生社会の実現のために何が必要かについて考えます。また、デジタルストーリーテリングを用いて多文化共生について他者と考えを共有します。

This seminar aims to explore and examine multilingual and multicultural inclusive society. Through this seminar, students will be able to; 1) Gain an understanding of multilingual and multicultural inclusive society and discuss what leads to the coexistence of diverse cultures, 2) Explore the current issues of residents with multicultural backgrounds in the Fujisawa region, 3) Make digital storytelling and deepen understanding of issues concerning cultural diversity, and 4) Discuss the issue related to multicultural inclusive society in the Fujisawa region.

研究会の進め方 Seminar Style



毎週一人が文献を発表し、グループでディスカッションします。デジタルストーリーテリングは個人及びグループで進めます。藤沢市

で参加者と多文化共生について考えます。Literature will be presented by one student each week and group discussions follow. Digital storytelling will be conducted individually and in groups. At the end of the semester, a screening of the work will be held in Fujisawa City to discuss multicultural conviviality with the participants.

所属に向いている学生 Expected Students

多文化なバックグラウンドがある人、地域の多文化共生に興味のある人、多文化共生について語り合うことに興味を持てる人。

Students with multicultural backgrounds, students who are interested in intercultural community, and students who are interested in discussing intercultural issues.

卒プロ Graduation Projects

- 藤沢市外国人市民会議の取り組み - 在日外国人住民の課題解決への挑戦 -  
Insights and In-depth look into the Fujisawa Foreigner's Council: A Case Study on the Organization Tackling the Struggles of Foreign Residents in Japan
- 湯布院から見る現在の日本の観光地に求められる言語景観  
Linguistic landscape required for today's Japanese tourist attractions viewed from Yufuin

specialty

行政法 / 公法学  
Administrative Law / Public Law

works

- 長谷川福造 (2022) 「行政上の義務履行確保の手段」池村正道編『行政法 (第4版)』弘文堂., pp. 183-210.
- 長谷川福造 (2023) 「変革期の行政法」新保史生・和田龍磨編『公共政策と変わる法制度』慶應義塾大学出版会., pp. 235-249.
- 長谷川福造 (2023) 「計画手続の迅速化と市民参加の機能に関する考察—ドイツにおける新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえて—」『日本法学』88巻3号, pp. 95-132.
- 長谷川福造 (2020) 「ドイツにおける計画策定手続の展開に関する考察—我が国の計画策定手続の充美化への応用を見据えて—」『日本法学』86 巻1号, pp. 1-36.



長谷川 福造

HASEGAWA FUKUZO

総合政策学部専任講師

研究会 Seminars

研究会A

この研究会で取り扱う領域は、主に行政法と公法学です。行政に関する法制度は政策論にも関連することから、行政の仕組みや政策立案に関する最新の問題点も対象としています。行政法、法制度及び立法政策に関する受講者の関心に沿って、行政の直面する最新の課題についても解決案を導き出していきます。

The academic fields covered in my seminar are mainly administrative law and public law. Since the legal system in the administrative field is also related to policy theory, it also covers the latest issues related to administrative mechanisms and policy making. Along with the students' interests in administrative law, legal systems, and legislative policies, we will also derive solutions to the latest administrative issues.

研究会の進め方 Seminar Style



学生が自分の研究テーマに関して、順番に報告発表を行います。発表は、進行役の学生と共同で行います。発表に続いてディスカッションを行い、理解を深めていきます。

Each student will make a report presentation on their own research theme in turn. The presentation will be done jointly with the student who is the facilitator. The presentation will be followed by a discussion to deepen understanding.

所属に向いている学生 Expected Students

行政法は範囲が広く政策立案にも関連する分野です。広く「法律」に関心を持っている学生を歓迎します。また、司法試験や公務員試験を考えている学生も歓迎します。

Administrative law is a broad field and is also relevant to policy making. We welcome students who are broadly interested in law. We also welcome students who are considering the bar examination or the national civil service examination.

卒プロ Graduation Projects

- 自動運転に関する行政法的規制のあり方  
Consideration on Administrative Legal Regulations on Autonomous Driving
- 高度情報化社会におけるプライバシー保護  
Privacy Protection in Advanced Information Society
- 香川県ネット・ゲーム依存症対策条例の検証  
Verification of the Kagawa Prefecture Internet and Game Addiction Countermeasures Bylaw



speciality

英語教材 / 教授法 / 遠隔教育  
English Teaching Materials / Teaching Methodology / Distance Learning

e-mail

happ3248@sfc.keio.ac.jp

works

- 長谷部葉子 「いま、ここを真剣に生きていますか」 講談社
- 長谷部葉子 「自分をカタチにする授業」 講談社
- 長谷部葉子 「子どもの心が聞こえますか？」 マガジンハウス
- 長谷部葉子 「いくつになっても「イキイキとした自分」でいられる方法」 マガジンハウス

## 長谷部 葉子

HASEBE YOKO

環境情報学部准教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 A

教育から始めるソーシャルトランスフォーメーションの実現。学校は地域の縮図です。「農のある暮らし」に根差したフィールドワークを徹底し、これからの教育の在り方を明らかにすること、大学と地域協働型のコミュニティモデルの創出と実現を目標としています。

If you are interested in this very unique country, Japan, please do your best to jump into Japanese local communities and brush up your Japanese communication skills to become a member of Japanese communities and to establish your own field of research.

#### 研究会の進め方 Seminar Style



全ての学生がプロジェクトに所属し、農のある暮らしを基盤にフィールドワークを徹底します。1週間に一度のサブゼミ、研究会、フィールドへの出張プログラム、合宿に参加します。

#### 所属に向いている学生 Expected Students

農のある短期・中長期の滞在での協働型フィールドワークを実践し、独自のフィールドノートを作成し、1週間にゼミの時間とは別に最低4-5時間の研究活動に時間を確保できる人。

#### 卒プロ Graduation Projects

- 一つに絞るのが難しいほど、優れた卒業プロジェクトが多くあります。映像制作。近年では、特に大川晴さん、綾さんの卒業制作が印象に残ります。多岐にわたりますが、共通しているのは、どの形式も人間に焦点を絞ったもので、そこからの深い考察がうかがえる哲学的要素の強いものが多いです。
  - 学校現場での大学生の介入による、コミュニケーション環境の変化がもたらす生徒及び先生方の意識変容、態度変容に関する読みやすい研究論文。
  - 地域に大学生が暮らしながら入ることで、その地域に生じる波紋とそれがもたらす成果に関する卒業プロジェクト、冨永真之介さん、吉田一成さん、永由裕太さん、貴船楓さん、など多数。
- ※2024年度末で退職となります。徹底したフィールドワーク経験を希望する人は、是非あと1年半ですが、一緒に地域と取り組みましょう！

speciality

計算機科学  
Computer Science

works

- Takashi Hattori, Programming constraints by demonstration, *Journal of Visual Languages & Computing*, Volume 14, Issue 1, 2003, pp.79-96, ISSN 1045-926X, [https://doi.org/10.1016/S1045-926X\(02\)00058-7](https://doi.org/10.1016/S1045-926X(02)00058-7).
- 服部隆志, 優先度付き制約論理型プログラミング, 『コンピュータソフトウェア』, Vol.9, No.6 (1992), pp.48-57



## 服部 隆志

HATTORI TAKASHI

環境情報学部教授

### 研究会 Seminars

### 研究会 B (1) / 研究会 B (2)

新しいソフトウェアを創り出すことを目標にしています。

Our goal is to create innovative new software.

#### 研究会の進め方 Seminar Style



4限研究会は主に書籍の輪講を行います。5限研究会はグループに分かれ、自分たちでテーマを決めてソフトウェアの制作を行います。

In the 4th period, we mainly hold a book discussion group. In the 5th period, students are divided into several groups and decide themes by themselves to create software.

#### 所属に向いている学生 Expected Students

プログラミングが好きで、自分でいろいろ調べることができる人。

Those who like programming and can explore various sources on their own.

#### 卒プロ Graduation Projects

- 日本の緊急自動車の検出と分類を行うためのYOLOv7を用いた転移学習アルゴリズム  
A Transfer Learning Based Algorithm Using YOLOv7 for Emergency Vehicle Detection and Classification in Japan
- JR運賃分割Webアプリの作成と評価  
Creation and evaluation of JR fare splitting web application
- BERTを用いた上場企業役員の経歴データからの固有表現抽出  
Extraction of unique expressions from biographical data of executives of listed companies using BERT





華 金 玲

HUA JINLING

総合政策学部訪問講師 (招聘)

specialty

情報通信政策 / デジタル社会とメディア利用 / テクノロジーの社会的受容  
Information and Communication Policy / Social Acceptance of Technology /  
Comparative Cultural Media Sociology

e-mail

hana@sfc.keio.ac.jp

works

- 華金玲、白土由佳 (2023) 「日中韓における生成AI [ChatGPT] の社会的関心—ソーシャルメディアとマスメディアのタイムラインから—」, 『情報文化学会誌』第30巻第1号.
- 華金玲 (2023) 「中国5G市場における政府介入と事業者戦略」, 『Nextcom』Vol.54, KDDI総合研究所, 40-49頁.
- 華金玲 (2022) 「新型コロナウイルス感染症対策の『中国方式』と情報技術」, 『日中社会学研究』第29号 (特集 高度情報化と社会統制—中国の場合—), 16-32頁.
- Jinling Hua, Rajib Shaw (2020) "Corona Virus (COVID-19) 'Infodemic' and Emerging Issues through a Data Lens: The Case of China", *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 2020; 17 (7) :2309.

研究会 Seminars

研究会 B

デジタル政策の政策形成とメディア・テクノロジーの活用について幅広く考察しています。

We extensively examine the formulation of digital policies and the usage of media and technology.

研究会の進め方 Seminar Style



多くの学生が2~3人から成るプロジェクトチームを進めつつ、個人研究に取り組んでいます。

Many students are working on individual research while promoting project teams consisting of 2-3 students.

所属に向いている学生 Expected Students

新しい技術やメディアの使い方に関心がある人。

People who are interested in exploring new technologies and media usage.

卒プロ Graduation Projects

- 生成AIの社会実装に関する制度的調査  
Institutional investigation on the societal implementation of generative AI.
- MaaSを代表とするモビリティサービスにおける5Gの活用  
Utilization of 5G in Mobility-as-a-Service (MaaS) and Mobility Services
- ライブコマースが消費者行動に与える影響  
Impact of Live Commerce on Consumer Behavior

specialty

ドイツ地域研究 / ドイツ近現代史  
German Area Studies / Modern German History

e-mail

wbaba@sfc.keio.ac.jp

works

- 馬場わかな (2022) 「少子高齢時代の家族支援とコミュニティ・ソリューション—歴史分析から現代を見る」 秋山美紀・宮垣元編著『ヒューマンサービスとコミュニティ—支え合う社会の構想』 勁草書房, pp. 76-93.
- 馬場わかな (2021) 「近代家族の形成とドイツ社会国家」 晃洋書房。
- 馬場わかな (2023) 「ポスト工業化社会における公助と共助の変容」 琴坂将広・宮垣元編『社会イノベーションの方法と実践 (シリーズ 総合政策学をひらく)』 慶應義塾大学出版会, pp. 187-202.
- 馬場わかな (2020) 「移動する子どもたち」の言語保持—京都ドイツ語補習教室を事例として』 *KEIO SFC JOURNAL* 19 (2) , pp. 44-60.



馬場 わかな

BABA WAKANA

総合政策学部専任講師

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会「近代家族を再考する」: 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業に基づく「近代家族」を取り巻く諸問題について、主に歴史学や社会学の観点から探求します。

Research seminar "Rethinking the Modern Family" explores the issues surrounding the "modern family" based on the gender division of labour mainly from a historical and sociological perspective.

研究会「ドイツ語圏地域研究」: ドイツ語学習経験を活かしながらドイツ語圏の社会や文化、歴史についてより深く学びます。

Research seminar "German Studies" explores the in-depth study of the societies, cultures and histories of German-speaking countries by making use of the experience of learning the German language.

研究会の進め方 Seminar Style



それぞれが関心を持っているテーマについて、毎学期リサーチを進めて掘り下げ、最終的には卒業プロジェクトとしてまとめていきます。Each student conducts research and delves into a topic of interest to them in semester by semester, culminating as graduation project in the final semester.

所属に向いている学生 Expected Students

一つのテーマをじっくり時間をかけて追究していきたい方。

Those who want to take their time to pursue a research topic.

卒プロ Graduation Projects

- 多文化共生社会を目指す日本における地域スポーツのありかたの提案—ドイツスポーツフェラインからの示唆—  
Proposals for the community sports in Japan to realize a multicultural society inspired by the Sportsverein in Germany
- 育児休業取得がもたらす仕事と家庭の両立への影響—夫婦の双方に着目して—  
The impact of taking parental leave on work-life balance: focusing on both spouses
- 子育て世代包括支援センターの若い世代への周知とその課題  
Dissemination of the younger generation of the Comprehensive Support Centres for the child-caring Generation and their challenges



平山 明由

HIRAYAMA AKIYOSHI

政策・メディア研究科准教授

speciality

メタボロミクス / 分析化学 / 質量分析  
Metabolomics / Analytical Chemistry / Mass Spectrometry

e-mail

hirayama@ttck.keio.ac.jp

works

- Hayasaka R, Tabata S, Hasebe M, Ikeda S, Hikita T, Oneyama C, Yoshitake J, Onoshima D, Takahashi K, Shibata T, Uchida K, Baba Y, Soga T, Tomita M, Hirayama A. (2022) "Metabolomics of small extracellular vesicles derived from isocitrate dehydrogenase 1-mutant HCT116 cells collected by semi-automated size exclusion chromatography", *Frontiers in Molecular Biosciences*, 9, 1049402.
- Ozawa H, Hirayama A, Ishikawa T, Kudo R, Maruyama M, Shoji F, Doke T, Ishimoto T, Maruyama S, Soga T, Tomita M. (2020) "Comprehensive dipeptide profiling and quantitation by capillary electrophoresis and liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry" *Analytical Chemistry*, 92, pp.9799-9806.

## 研究会 Seminars

## 研究会 B

生体内に存在する代謝物を網羅的に測定するメタボローム解析技術を使って、疾患の発症機序の解明やバイオマーカーの探索を実施します。

Using metabolome analysis technology that comprehensively measures metabolites present in vivo, we will elucidate the pathogenesis of diseases and conduct biomarker discovery.

### 研究会の進め方 Seminar Style

個

学生は自ら設定したテーマに沿って研究を行います。2週間に一度グループミーティングを行い、教員や他の学生とディスカッションを行います。

Students conduct research according to their own themes. Group meetings are held once every two weeks, and discussions are held with faculty members and other students.

### 所属に向いている学生 Expected Students

生命科学や分析化学に興味があり、医学・薬学の進歩に貢献したいと強く思っている人。

Those who are interested in life sciences and analytical chemistry and have a strong desire to contribute to the advancement of medical and pharmaceutical sciences.

### 卒プロ Graduation Projects

- メタボロミクスによる急性腎障害発症に対する尿中バイオマーカー探索  
Urinary Biomarker Discovery for Acute Kidney Injury Onset by Metabolomics
- メタボローム解析を用いた慢性腎臓病および肝細胞がんのバイオマーカー探索  
Discovery of biomarkers for chronic kidney disease and hepatocellular carcinoma using metabolome analysis
- IgA腎症の尿中バイオマーカー探索  
Discovery of urinary biomarkers for IgA nephropathy

speciality

国際政治 / 紛争・平和研究 / 旧ソ連地域研究 (特にコーカサス)  
International Politics / Comparative Politics / The Transcaucasus Area Studies

e-mail

hiyoko@sfc.keio.ac.jp

works

- 廣瀬陽子「ハイブリッド戦争 ロシアの新しい国家戦略」講談社現代新書 (2021)
- 廣瀬陽子「コーカサス 国際関係の十字路」集英社新書 (2008)
- 廣瀬陽子「未承認国家と覇権なき世界」NHK出版 (2014)
- 廣瀬陽子「ロシアと中国：反米の戦略」ちくま新書 (2018)



廣瀬 陽子

HIROSE YOKO

総合政策学部教授

## 研究会 Seminars

## 研究会 A

本研究会では、地域研究とアカデミック・ディシプリンの対話と融合を模索するために、地域研究をより広いアカデミックな文脈に適用する研究を行っています。たとえば、地域研究の対象が紛争の多い地域であるなら、他の地域の紛争や平和構築などと比較・検討することで、包括的な紛争・平和研究を目指せるでしょう。また、諸地域の政治発展や歴史を比較し、比較政治や比較体制論などにつなげることもできるでしょう。ある地域の内政や外交を国際政治の中に位置づけ、その地域の政治を国際政治の縮図と捉えて、国際政治学に発展させることもできるはずですが、当該地域の範囲で研究を完結せず、それをもっと広いアカデミックな文脈で活かし、他地域の専門家や他のディシプリンの研究者などとの対話を可能にして、学術的な貢献ができるようにしていきたいと考えています。

This seminar will try to apply regional studies to more general academic context seeking dialogue and fusion of regional studies and academic disciplines. To give an example, in the case of that you choose regional conflict as the research theme, it would be needed study whole problems such as history, political problems, economics, religion, ethnic problem,

social problems, geopolitical problems and so on, in the area, because the reasons of conflicts are really complicated. In addition, trying to generalize by comparing with other cases or regions, applying some disciplines, making general theories and so on would be also important. I would like to stress not to complete regional research by regional research alone, but make it available in a wider academic context, enable dialogue with experts from other regions and researchers of other disciplines, and make academic contributions.

### 研究会の進め方 Seminar Style

個他

研究会は輪読と研究発表の二段階で行われます。

Seminar will be consisted by 2 parts: individual research and reading by turns.

### 所属に向いている学生 Expected Students

関心がある地域を持っている学生さんが適していると思います。

Students who are interested in any area will be suitable for this seminar.

### 卒プロ Graduation Projects

- 外交手段としてのロシアの原発政策  
Russian policy for the Nuclear plant in the diplomatic tool
- ロシアの外交、政治、社会問題などの分析  
Analysis on the Russian various issues



藤井 進也

FUJII SHINYA

環境情報学部准教授

speciality

ドラム / 音楽神経科学 / 音楽と脳  
Drums and Rhythm / Neurosciences and Music (NeuroMusic) /  
Music Perception and Cognition

e-mail

fujii.shinya@keio.jp

works

- 藤井進也. Hearing X (2022) 「ドラムと研究の両輪で、音楽と人間の本质に迫る (前編) -奏者からドラマー 研究の開拓者へ-」 [https://hearing-x.ilab.ntt.co.jp/column6\\_1.html](https://hearing-x.ilab.ntt.co.jp/column6_1.html) (2023年9月4日アクセス)
- 藤井進也 × 徳井直生 (2022) 慶應義塾大学SFC 環境情報学イントロダクション [Creating & Knowing the "X" Music] [https://www.youtube.com/watch?v=KWQNtpUP7\\_0](https://www.youtube.com/watch?v=KWQNtpUP7_0) (2023年9月4日アクセス)
- 山口智史 [RADWIMPS] × 藤井進也 [慶應義塾大学 環境情報学部 准教授] (2022) 「ドラマーと研究者が"ミュージシャンズ・ジストニア"について語り合う」 <https://drumsmagazine.jp/special/talksession-musicians-dystonia/> (2023年9月4日アクセス)

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

NeuroMusic 研究会のテーマは、音楽の未知を解き明かし、その本質に科学的に迫ることである。x-Music 研究会テーマは、音楽の真価や可能性を探究し、まだ確固たる名称のない、未知なる次の音楽 (=x-Music) を創造することである。

The NeuroMusicLab's theme is to unravel the "unknown" of music and approach its essence from a scientific perspective. The x-MusicLab's theme is to explore the potential of music and create a novel form of music that has not yet been named.

研究会の進め方 Seminar Style



多くの共同研究を推進しており、プロジェクトに所属しながら研究する学生が比較的多いが、個人研究を精力的に進める学生もおり、個性豊かである。

Our laboratory supports numerous collaborative research projects. While some students participate in these projects, others pursue their own independent research.

所属に向いている学生 Expected Students

自我作古の気概に溢れた学生が向いている。音楽の未知を探究する者は、英字論文のサーベイ、統計学の基礎、時系列解析の基礎等、

データ解析の基礎知識を習得していることが望ましい。未知の音楽を探究する者は、Ableton Live、Max for Live、音響処理言語・フロントエンドプログラミング・電子工作の経験 / 音楽制作経験、音楽ポストプロダクション、インストールの経験などのいずれかがあることが望ましい。

Those who seek to explore the unknown in music should ideally possess basic knowledge in surveying scientific papers, statistics, time-series analysis, data analysis, etc. Those delving into uncharted musical realms ideally have experience in Ableton Live, Max for Live, computer music, audio processing, music production, experience in installations, etc.

卒プロ Graduation Projects

- 統合失調症患者の音楽リズム知覚生成機能に関する研究  
Rhythm Perception and Production in Patients with Schizophrenia
- 都市空間に紐づく音楽制作・再生システムの開発  
Development of a Music Production and Playback System Linked to Urban Spaces
- ハーバードビート評価テストiOSアプリの開発と妥当性検証  
Development of iOS version of Harvard Beat Assessment Test

speciality

ラテンアメリカ研究 (特にアンデス諸国) / 言語人類学 /  
アイヌ語とアイヌ語口承文学  
Latin American Studies (esp. Andean societies) /  
Linguistic Anthropology of the Andes /  
Aynu Language and Aynu Oral Literature

e-mail

mfujita@sfc.keio.ac.jp

works

教員が書いたものに関心をもってもらえるのは嬉しいですし、ぜひ探して読んでもらえればと思いますが、研究会で重視するテーマが教員本人が展開している研究とは必ずしも一致しないことも多いですから、むしろ自分がやりたいことを話したいにきてほしいです。



藤田 護

FUJITA MAMORU

環境情報学部専任講師

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

大学という場で学ばれ、生み出される知を拡げていきたいと思っています。スペイン語圏から提案される考え方の奥深さを知り、スペイン語を学んだ先に広がる研究の可能性を見る (研究会1)。アイヌ語を現代の世界で取り戻し、また口承の物語を通じてアイヌの精神世界を探究することの意義と面白さを実感すること (研究会2)。

My research seminar seeks to open up new fields and new types of knowledge to be studied and researched in the university academic environment.

研究会の進め方 Seminar Style



輪読と個人の研究発表と言語の練習を中心としていますが、長期休暇中の特別研究プロジェクトも実施し、研究室として進める重点プロジェクトと連携して学生が研究を進めることもあります。

The seminar is based on reading seminars, individual research presentations, and language practicing. There are a couple of priority research areas of this research laboratory, and some students collaborate with these areas to advance their research.

所属に向いている学生 Expected Students

言語・人文・社会・技術など幅広い分野に関心をもち、かつスペイン語またはアイヌ語に関心があること。

Have a broad range of topics of interest spanning the language studies, humanities, social sciences and technology, while being interested in Spanish or Aynu.

卒プロ Graduation Projects

3つ選ぶことはできないくらい多くありますので、慶應SFC学会の優秀卒業論文の冊子などを見てみてください。『KEIO SFC JOURNAL』にも学生たちの論文が載ったりしています。

I cannot select only three as there are many. Do look into the publications that come out from the Keio SFC Academic Society.





古谷 知之

FURUTANI TOMOYUKI

総合政策学部教授

speciality

応用統計学 / 国土安全保障・公衆衛生 /  
モビリティ (観光・交通) 分野のデータサイエンス  
Spatial Statistics / Spatial Econometrics / Tourism

works

- 「モビリティと人の未来」編集部 (2019) 『モビリティと人の未来: 自動運転は人を幸せにするか』, 平凡社.
- Mathias Mitteregger, Emilia M. Bruck, Aggelos Soteropoulos, Andrea Stickler, Martin Berger, Jens S. Dangschat, Rudolf Scheuven, Ian Banerjee eds (2021) , AVENUE21. Politische und planerische Aspekte der automatisierten Mobilität, Springer.
- 古谷知之・南正樹 (2019) 「デジタルテクノロジー前提社会を支える空間情報の要素技術」, 『GIS -理論と応用』(GIS学会) 27 (2) pp.55 - 60
- 古谷知之・南正樹 (2019) 「ドローン前提社会」『国際交通安全学会誌』(国際交通安全学会) 44 (2) pp.8 - 15.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

AIとデータサイエンスをベースに、ドローンなどの先端モビリティ、地域の社会課題解決、生成AIを活用した技術開発、先端技術と安全保障等に関する研究テーマに取り組んでいます。

Based on AI and data science, we are working on research themes related to advanced mobility such as drones, solving regional social issues, technological development using generative AI, and advanced technology and security.

研究会の進め方 Seminar Style

個人研究発表と輪読、企業との共同研究プロジェクト。

Individual research presentations and reading rounds, joint research projects with companies.

所属に向いている学生 Expected Students

AIやデータサイエンスとその社会実装に関心のある学生。

Students interested in AI and data science and their social implementation.

卒プロ Graduation Projects

- 空間情報科学に基づく都市解析  
Urban analysis based on spatial information science
- ドローンを活用した人材育成  
Human resource development using drones
- スポーツのデータ解析  
Sports data analytics

speciality

Indonesian as foreign language / Intercultural Communication

e-mail

santoso@keio.jp

works

- Petrus Ari Santoso, Yo Nonaka (2019) "Students' Beliefs about Indonesian Language Learning: BALLI in Japan", *KEIO SFC JOURNAL* 19 (2), pp.154-174



PETRUS ARI SANTOSO

ペトルス アリ サントーン

総合政策学部訪問講師 (招聘)

おすすめ授業 Recommended Courses

マレー・インドネシア語/地域と文化(アジア・大洋州)

Learning a foreign language as your second or third language is a must. In our global society, being able to speak multiple languages can open many doors for you in the future. In addition, learning a language constitutes a good opportunity to explore your identity. While exploring a new language, one can learn more even about one's mother tongue, as we tend to compare the new language to the one that we are so familiar with. In our Malay-Indonesian language courses, students are prepared to be able to communicate efficiently in the target language. Being able to communicate is not only a matter of mastering the language but also understanding oneself better. Moreover, when learning a new language, one needs to equip his/herself with the cultural background of the language. The Region and Culture course aims at that by providing an introduction to contemporary Indonesian issues related to the environment, business and society in general. This knowledge will deepen students' understanding of Indonesia. Hopefully, it is also going to motivate them to learn more and pursue research on their own about Indonesia.

授業の進め方 Class Style

Indonesian language classes require willingness to explore and willingness to challenge oneself while getting exposed to the new language. I believe that learning a language will only acquire real meaning when it is used. It is not

just a matter of memorizing words and understanding the grammar. There are various class activities which aim using the language in a real context like writing a caption in Indonesian on social media. The Region and Culture class, on the other hand, aims at providing an update on contemporary issues in Indonesia. Students are encouraged to explore topics of their own interest while adding an Indonesian background to them.

受講に向いている学生 Expected Students

Everyone who is interested in South-East Asian countries should consider taking our courses. Even students who are currently not familiar with the South-East Asian region but wish to know more about it can benefit from enrolling. Indonesian language classes are available from the beginner to the upper-intermediate level. Students can start learning Indonesian in the beginner-level course without any prior knowledge of the language. By the end of the beginner-level course, they will be able to introduce themselves in Indonesian, talk about family, hobbies and other simple topics. In the Region and Culture course, students are required to write opinion papers on topics covered in the lectures. In addition, students prepare a presentation on a topic of their choice. Topics typically vary and cover a wide range - from economics to environmental issues -, but are all related to Indonesia.



## HOENIGMAN DAVID

ヘニグマン デイビッド

環境情報学部訪問講師 (招聘)

### specialty

Experimental Literature / Creative Writing / Cultural Studies

### works

- Hoenigman David, *Man Sees Demon* (novella) SFC Indie Press (2020)
- Hoenigman David, *Squeal for Joy* (novel) Schism 2 Books (2015)
- Hoenigman David, *Burn Your Belongings* (novel) Jaded Ibis Press (2010)
- Hoenigman David, "Guest Lectures in 'Indie Rock '88 to '98' by Naoko Yamano of Shonen Knife" (article) *KEIO SFC JOURNAL* Vol. 23 No.1 2023.

## おすすめ授業 Recommended Courses

## プロジェクト英語C (Indie Rock)

英語力と文化的認識を向上させる方法として、サブカルチャーの研究に重点を置いています。1988年から1998年までのインディロックを探求する講座です。当時のアルバム購入やコンサート鑑賞の体験を生ので伝えることができます。バンドやソロアーティストについて、文化的・歴史的な背景を踏まえながら議論します。アルバム、歌詞、ミュージックビデオ、ライブの映像などを分析し、これらの資料をもとに、クラス内でディスカッションを行います。

I focus on the study of subcultures as a way to improve students' English abilities and cultural awareness. My Indie Rock '88 to '98 course is a good example of this. The course explores indie rock from 1988 to 1998. It's a firsthand account of album (cassettes/CDs) buying and concert going during that time period. We discuss bands and solo artists within their cultural and historical contexts. We analyze albums, song lyrics, music videos, and footage of live performances. We have classroom discussions based on these materials. My firsthand accounts of discovering the various artists and the profound effects the music had on me begin as a 16-year-old MTV-obsessed high school student, and continue up until I'm a 26-year-old indie rock devotee leaving my native Ohio en route to Japan.

### 授業の進め方 Class Style

講他

クラス内で定期的にディスカッションを行います。中間エッセイテストの実施。各自、最終プレゼンを行います。

We have regular classroom discussions. There is a midterm essay test. Each student does a final presentation.

### 受講に向いている学生 Expected Students

PROJECT ENGLISH C (GIGA/GG/GI)  
特に音楽やサブカルチャーに興味のある学生。  
Especially students who are interested in music and subculture.

### specialty

コーポレートファイナンス / ソーシャルファイナンス / ベンチャービジネス  
Corporate Finance / Social Finance / Venture Business

### e-mail

hoda@sfc.keio.ac.jp

### works

- 保田隆明 (2019) 『コーポレートファイナンス 戦略と実践』日本評論社。
- 桑島浩彰、田中慎一、保田隆明 (2022) 『ESG財務戦略』ダイヤモンド社。
- 保田隆明 (2021) 『地域経済のための「新」ファイナンス-「ふるさと納税」と「クラウドファンディング」のインパクト』中央経済社。
- 崎濱栄治、保田隆明 (2023) 『非財務情報とESGスコアの関係性—トピックモデルによる実証分析』『サステナビリティ経営研究』(日本経営倫理学会) 1, pp1-14



## 保田 隆明

HODA TAKAASI

総合政策学部教授

## 研究会 Seminars

## 研究会B (1) / 研究会B (2)

「コーポレートファイナンスとESG経営」  
企業を経営するには、財務戦略、会計、マーケティング、商品開発、経営組織、人事戦略、経営戦略など様々な領域に横串を刺すような形で経営全般について理解する必要があるが、本研究会では、その中でも特に財務戦略と株価評価について、①書籍や学術論文、②ケーススタディ (事例研究) を通じて学んでいく。

Corporate Finance and ESG  
In order to manage a company, it is necessary to understand overall management in a way that crosses over into various areas such as financial strategy, accounting, marketing, product development, management organization, human resource strategy, management strategy, etc. In this workshop, we will study financial strategy and stock price valuation in particular through (1) books and academic papers and (2) case studies.

### 研究会の進め方 Seminar Style

個別

書籍や論文、ケーススタディは各自に読んできてもらい、研究会当日のグループディスカッション、企業と実施するプロジェクトはグループワークとなります。

Each participant is expected to read books, articles, and case studies respectively. We

have group discussions based on reading assignments. Projects conducted with companies will be group work.

### 所属に向いている学生 Expected Students

「経営分析」「ファイナンス論」を履修済み、または並行履修すること。英語で運営している研究会B (2) と、可能な限り一体運営を行うため、英語に苦手意識がない人。研究会時間以外でのグループワークや自宅学習に相応の時間を割ける人。

Students must have already taken or be concurrently enrolled in Business Analysis and Finance Theory. Students who are not afraid of English, since the seminar will be operated in English as much as possible together with the English-language seminar B (2). Students must be able to devote a reasonable amount of time to group work and home study outside of the seminar hours.

### 卒プロ Graduation Projects

- 日本企業に必要なパーパス・ブランディングの意識  
Purpose Branding Strategy for Japanese Firms
- Why we buy? ~売れるお菓子を行動観察から読み解く~  
Why we buy? Ethnography from Snack Industry
- 価格の小さな株を買う投資行動  
Investor Behaviors of Buying Low Price Stocks



MEYER ANDREAS

マイヤー アンドレアス

総合政策学部訪問講師 (招聘)

speciality

ドイツ文学 / ドイツ語教育 / ヨーロッパ研究  
German Literature / German as a Foreign / Second Language /  
European Studies

e-mail

meyer@sfc.keio.ac.jp

works

- Meyer, A. Zur Individualisierung von digitalen Lernumgebungen: die App Platzwit neu. (In collaboration with Ikumi Waragai and Tatsuya Ohta) In: Feick, D. u. Rymarczyk, J. (Ed.). *Zur Digitalisierung von Lernorten - Fremdsprachenlernen im virtuellen Raum*. Peter Lang, Berlin, pp.75-92, 2022.
- Meyer, A. Wie viel Aufgabenorientierung ist zu viel Aufgabenorientierung? (gemeinsam mit Michael Schart, Hidemi Hamano und Holger Schütterle). In: Altmeyer, C. u.a. (Ed.). *Grenzen überschreiten: sprachlich - fachlich - kulturell. Dokumentation zum 23. Kongress für Fremdsprachendidaktik der DGFF*. Baltmannsweiler: Schneider Verlag, pp. 231-242, 2010

研究会 Seminars

研究会 B

本研究会は英語で開講され、ドイツ語圏もしくは他のヨーロッパ諸国に焦点を当てて過去から現在を含む社会的、文化的、政治的そして経済的な発展について扱います。これらの国々と、他の国々との比較研究も可能です。映画、文学、社会、ジェンダー、言語教育、政治、EUなどが主なテーマとして挙げられますが、現在履修者のテーマとしては、移民問題、架空の映画におけるプロパガンダとジェンダーの役割、高齢化社会についてがあります。

In my research seminar which is held in English, we deal with current or historic social, cultural, political and economic developments with a focus on German-speaking or other European countries, possibly in comparison with third countries. There is particular interest in Film, Literature, Society, Gender, Language Education, Politics, European Union, but other areas are possible. Students' research topics in this semesters include migration, ageing society, football culture, propaganda and gender politics in fiction film.

研究会の進め方 Seminar Style



研究ゼミは比較的少人数なので、和気あいあいとした雰囲気です。学生は定期的に研究の

進捗状況を報告し、仲間や教師からフィードバックやサポートを得ます。学生は全員、授業中に最終プレゼンテーションを行い、セミナーレポートを作成します(英語またはドイツ語)。

The number of students in the research seminar is relatively small, so the atmosphere is friendly and casual. Students regularly report about their research progress and get feedback and support from peers and teacher. All students do a final presentation in class and write a seminar paper (in English or German).

所属に向いている学生 Expected Students

オープンマインドで異文化比較に興味があり、他の人との交流やディスカッションを楽しむ学生。学生は熱心に研究し、その進捗状況を毎週発表する必要があります。

Students who are open minded, interested in intercultural comparisons and enjoy exchange & discussion with others. Students should be diligent and have to present their research progress weekly.

卒プロ Graduation Projects

- コーヒーの歴史 History of Coffee in Japan
- 外国語に対する不安 Foreign Language Anxiety
- プロ野球の地域貢献 Professional Baseball's contribution to local communities

speciality

ユーザインターフェース / ユビキタスコンピューティング  
User Interface / Ubiquitous Computing

e-mail

masui@pitecan.com

works

- 増井俊之 (2015) 『スマホに満足していますか? - ユーザインタフェースの心理学』光文社新書。
- 増井俊之 (2022) 「ユニバーサルなユーザインタフェース」『コンピュータソフトウェア』39 (1) , pp. 72-77
- Toshiyuki Masui (2020) "No-click browsing of large hierarchical data", 2020 *IEEE Symposium on Visual Languages and Human-Centric Computing (VL/HCC)* , August 2020.
- Toshiyuki Masui (1999) "POBox: An Efficient Text Input Method for Handheld and Ubiquitous Computers", *Proceedings of the International Symposium on Handheld and Ubiquitous Computing (HUC'99)* , pp. 289-300



増井 俊之

MASUI TOSHIYUKI

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

誰もがいつでもどこでも計算機やネットワークを有効利用できるようにする技術を研究開発しています。この結果、障害などが有ってもなくてもあらゆる人間が幸福に生活できるようになるでしょう。

We are trying to develop various user interface techniques that can be used by anybody, everywhere, at any time. We should design such systems based on the "universal design" concept and a wide range of ideas and knowledge should be integrated to achieve the goal.

研究会の進め方 Seminar Style



個々の学生の考えた研究テーマに対して教員とメンバ全員が議論を行ない、実装して実験を行ないます。あらゆる情報はScrapboxというシステムで共有します。

We first ask members to find interesting research topics, and discuss them at the meeting. If the members have difficulties, all other members try to help solving the problem.

所属に向いている学生 Expected Students

ユーザインタフェース、ユビキタスコンピューティング技術に興味があり、新しい手法を発明したいと考えている人が向いています。We welcome people who are interested in new user interface technologies, especially on ubiquitous computing and universal design.

卒プロ Graduation Projects

- 机や壁をタップするだけで様々な家電操作を行なうことができるインタフェース  
A novel simple interface technique for controlling home appliances and AV devices with minimal interaction
- スマホを使って実世界GUIを実現するためのフレームワークの構築  
A software framework for "Real-world GUI"
- 安全でシンプルなパスワード管理システム  
A simple and secure password management system





松井 孝治

MATSUI KOJI

総合政策学部教授

specialty

統治機構論  
Government Organizations

e-mail

kmatsui@pp.iij4u.or.jp

works

- 松井孝治『総理の原稿——新しい政治の言葉を模索した266日』2011年 岩波書店
- 松井孝治『公共人材確保法を整備せよ』[Voice] 2023年4月号
- 松井孝治『今の政治に足りぬもの 義理と人情とやせ我慢』[中央公論] 2022年2月号
- 松井孝治『「七人の侍」に学ぶ公務員制度改革論』[中央公論] 2021年1月号

研究会 Seminars

研究会 A

古来の日本人と日本の社会のありようを洞察し、その上で、日本の社会における統治機構のあり方を模索する。その際、中央政府や議会の構造、国と地方の関係、地域社会の構成員とその相互関係、人々と社会のかかわり方などを幅広く考察する。

We gain insight into the characteristics of Japanese people and Japanese society from ancient times to the present day, and then explores the ideal governance structure in our society. In doing so, we will consider a wide range of topics, including the structure of central government and parliaments, the relationship between the national and local governments, the mutual relationship among members of local communities, and the relationship between citizen and society.

研究会の進め方 Seminar Style



全員個人研究です。

Every member is expected to conduct individual research.

所属に向いている学生 Expected Students

人間と社会に深い知的好奇心を有すること。

Deep intellectual curiosity about humans and society is required.

卒プロ Graduation Projects

- 落語における与太郎の役割 – 社会にとっての障害者はお荷物か？

Yotaro idiot's Role in Rakugo: Are people with disabilities baggage or treasure for society?

- 放課後の居場所作りに見る地域における行政と住民の協働

Collaboration between the local government and citizen in the community as seen in creating a place to belong after school

- 日本人のための粋と野暮

What is the essence and boorishness in the traditional Japanese society?

specialty

建築設計 / アルゴリズム・デザイン / 設計プロセス論  
Architectural Design / Algorithmic Design / Design Process Theory

e-mail

sho000@sfc.keio.ac.jp

works

- 松川昌平他 (2011)『設計の設計』LIXIL出版
- 松川 昌平 (2017)『「建築家なしの建築」の建築家になるためのアルゴリズム・デザイン』、KEIO SFC JOURNAL Vol.17 No.1
- 松川 昌平 (2021)『植物を育てるように建築を育てることは可能か?』<https://www.youtube.com/live/Onf-DsE-94o?feature=share>
- 松川 昌平 (2020)『アルゴリズムデザインの枠組み』<https://www.youtube.com/live/8fO7SmqGYXk?feature=share>



松川 昌平

MATSUKAWA SHOHEI

環境情報学部准教授

研究会 Seminars

研究会 A

アルゴリズム・デザイン・ラボ/Algorithmic Design Lab. (以下ADL)は、その名の通り「アルゴリズム・デザイン」という建築の設計プロセスについての研究と実践を行っている研究会です。ADLでは、建築に関連するあらゆる設計プロセスをコンピュータ・アルゴリズムへと書き下すことによって、建築の計算可能性を探究しています。それを徹底することで、人間にしかできないことや設計者がすべきこと、つまり建築・都市の計算「不」可能性が浮かび上がってくるでしょう。

Algorithmic Design Lab. (ADL) is, as the name suggests, a research and practice group dedicated to the architectural design process called “algorithmic design”. The ADL explores the computability of architecture by writing down all design processes related to architecture into computer algorithms. By doing this thoroughly, the “in”computability of architecture will emerge, i.e., what only humans can do and what designers should do.

研究会の進め方 Seminar Style



各自が履修しているデザインスタジオ課題を持ち寄って、毎週全員でエスキスを行います。また毎週の書評ゼミを通して思想を学びます。

Students bring their own design studio assignments to the weekly esquisse with all students. Students also learn about philosophy through weekly book review seminars.

所属に向いている学生 Expected Students

本気で建築デザインを学びたい学生。

Students who seriously want to study architectural design.

卒プロ Graduation Projects

- 少年の森で伐採した天然木を用いて子供のための遊具をデザインする研究  
Research on designing playground equipment for children using natural trees harvested in a boy's forest
- レーザーカッターの端材を組み合わせることで再度一枚の板へと再合成する研究  
Research on combining scraps from the laser cutter and re-synthesizing them into a single board again
- 半自動編み機を開発し網戸に編み物をする研究  
Research on developing a semi-automatic knitting machine to knit on screen doors



三次 仁

MITSUMI JIN

環境情報学部教授

speciality

無線通信 / 無線応用 / 宇宙構造物  
Wireless communications / Space structures / Computational engineering

e-mail

mitsugi@keio.jp

works

- J. Mitsugi, Y. Kawakita, K. Egawa and H. Ichikawa, "Perfectly Synchronized Streaming From Multiple Digitally Modulated Backscatter Sensor Tags," in *IEEE Journal of Radio Frequency Identification*, vol. 3, no. 3, pp. 149-156, Sept. 2019, doi: 10.1109/JRFID.2019.2914246.
- J. Mitsugi, Y. Kawakita and H. Ichikawa, "Full duplex backscatter communication with subcarrier synchronized decimation," *2021 IEEE Wireless Communications and Networking Conference (WCNC)*, 2021, pp. 1-6, doi: 10.1109/WCNC49053.2021.9417289.
- Jin Mitsugi, Kazuhide Ando, Yumi Senbokuya, Akira Meguro, "Deployment analysis of large space antenna using flexible multibody dynamics simulation", *Acta Astronautica* Volume 47, Issue 1, 1 July 2000, pp.19-26.

研究会 Seminars

研究会 A

信号処理や無線通信、数値計算の基礎理論や技術をシミュレーションとハードウェア・ソフトウェア実装を通じて学びます。

In this kenkyu-kai, we learn the basic theory and technology on digital signal processing, wireless communication and numerical analysis through computer simulations and experiments.

研究会の進め方 Seminar Style



基本的には学生個人が一つのテーマに取り組み、定例ミーティングで進捗を発表して議論します。

Every student is assigned a research topic. We jointly discuss the progress and problem of each topic in the periodic meetings.

所属に向いている学生 Expected Students

技術が好きで、将来エンジニアになりたい学生。

Engineer oriented student who likes to learn and implement technology.

卒プロ Graduation Projects

- マルチターゲットFMCWレーダの超分解能方位-距離測定 of 簡易化信号処理  
Low Complexity Multi-Targets Super-Resolution Azimuth-Ranging of FMCW Radar
- シンボルコンステレーションの統計的特徴を用いた高速ブラインド等化器  
Fast blind equalizer exploiting statistical features of symbol constellations
- 加速度センサを用いた熟練度フィードバックデバイスによるリフティングトレーニングの質的改善  
Qualitative Improvement of Soccer Ball Juggling Training with Proficiency Feedback Device using Accelerometer

speciality

社会学 / 経済社会学 / 非営利組織論  
Sociology / Economic Sociology / Civil Society

works

- 宮垣元編 (2020) 『入門ソーシャルセクター：NPO/NGOの新しいデザイン』ミネルヴァ書房。
- 宮垣元 (2020) 『その後のボランティア元年：NPO・25年の検証』晃洋書房。
- 秋山美紀・宮垣元編 (2022) 『ヒューマンサービスとコミュニティ：支え合う社会の構想』勁草書房。
- 琴坂将広・宮垣元編 (2023) 『社会ノバージョンの方法と実践』慶應義塾大学出版会。



宮垣 元

MIYAGAKI GEN

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

医療・福祉や教育、子育て、相談などの諸活動に、まちづくりなどを加えた「ヒューマンサービス」分野を主な対象とし、NPO/NGOやソーシャルビジネス、企業のCSRや行政との協働などの「ソーシャルセクター」が果たす役割、可能性、課題や方法論について理論と実証・実践の双方からアプローチします。

This seminar focuses mainly on "human service" fields such as healthcare, welfare, education, childcare, third place, and community design, and approaches the roles, possibilities, challenges, and methodologies by "social sector" such as NPO/NGO, social business, corporate CSR, and collaboration with government, from the perspective of theoretical and practical approaches.

研究会の進め方 Seminar Style



全員、各学期のテーマに沿ったグループワークと個人研究(卒プロ)の2つを行います。授業内にグループワークと個人研究の発表を行います。

All students conduct two types of work: group work based on the theme of each semester and individual research (graduate project). All students make presentations of

their group work and individual research in the class.

所属に向いている学生 Expected Students

身の回りの切実な社会課題への強い関心、みずからその解決にコミットしようとする姿勢、他者・他セクターと協働して進める意欲。

Strong interest in social problems around us, commitment to solving them, and willingness to collaborate with others and other sectors.

卒プロ Graduation Projects

- 子ども食堂とNPOの協働ネットワーク
- 災害復興支援ボランティアとまちづくり・地域活性
- 環境分野での地域連携・アクティブラーニングの可能性



宮代 康丈

MIYASHIRO YASUTAKE

総合政策学部准教授

speciality

政治哲学 / フランス哲学・思想  
Political philosophy / French philosophical thoughts

works

- Miyashiro, Y. (2015) *Démocratie libérale ou républicaine? Les écrivains politiques français du XIX<sup>e</sup> siècle*. Presses de l'Université Paris-Sorbonne.
- 宮代康丈 (2023) 「政治理念の言葉—フランスの六月蜂起が問いかけるもの」, 宮代康丈・山本薫編『言語文化とコミュニケーション』慶應義塾大学総合政策学部 / 慶應義塾大学出版会, 2023, pp. 167-182.
- Miyashiro, Y. (2023) « Humanismes et décision originelle », Lauvau, G., Sosoe, L. K. (dir.) *Trajectoire de l'humanisme moderne. Mélanges offerts à Alain Renaut*, L'Harmattan, pp. 237-250.
- 宮代康丈 (2021) 「トクヴィルという謎：利益と徳 (4)」, 『思想』1162, pp.118-134.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

私たちはいまデモクラシーを生きています。そのデモクラシーのあるべき姿を特に哲学的な観点（規範や価値）から考察するために、近現代の文献を分析し、討論を重ねることを通して検討します。その過程では、人文学に関わる事柄も取り上げます。

We live in a democracy. To examine its ideal form, particularly from a philosophical perspective concerning norms and values, my laboratory members analyze and discuss modern and contemporary literature. In this process, we also cover some topics related to humanities in general.

研究会の進め方 Seminar Style



学期ごとに指定された文献資料の輪読を通して各種の問題の検討に取り組みます。それと並行して、学年に応じて卒業プロジェクト・個人研究を進めます。

Each semester, the laboratory members examine various issues by reading assigned materials. At the same time, they work on their own graduation projects or individual research depending on their grade.

所属に向いている学生 Expected Students

読書を通して著者との対話ができる。分析的思考ができる。概念的思考と現実の理解との往復ができる。他人の論拠に真摯に耳を傾けられる。

Ability to interact with the author through reading, to think analytically, to go back and forth between conceptual thinking and understanding of reality, and to listen intently to the arguments of others.

卒プロ Graduation Projects

- 人工知能による自然言語理解の哲学的検討  
Philosophical analysis of AI's natural language understanding
- 男女平等と労働  
Gender equality and work
- 教育問題に対するガバナンス型支援  
Governance-driven support for educational issues



宮本 大輔

MIYAMOTO DAISUKE

総合政策学部准教授

speciality

中国語学 / 会話ストラテジー / 中国語教育  
Chinese Linguistics / Communication Strategies / Chinese Education

e-mail

dafumiya@keio.jp

works

- 宮本大輔 (2021) 「依頼場面における中国語の『断り』ストラテジーに関する研究—ト」『東アジア国際言語研究』2, pp.150-160.
- 宮本大輔 (2009) 「中国人の言語評価—北京・天津・上海・杭州の大学生を対象に—」『社会言語科学』11 (2), pp.55-68.
- 宮本大輔・温琳 (2020) 『中国語会話のコツ』金星堂.
- 宮本大輔・温琳 (2021) 『実用シーンで学ぶ入門中国語』朝日出版社.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会 B (1) では、中国語に社会言語学的角度からアプローチします。研究対象は、身近な言語現象から言語変異、多言語使用、言語継承、言語政策、言語サービスなど、多岐にわたります。また、研究会 B (2) では、中国語の教材を作成することにより、中国語の学習環境を構築することを目標としています。

In Research Group B (1), we approach Chinese from a sociolinguistic perspective. The research focuses on a wide range of topics, including language variation, multilingualism, language inheritance, language policy, language services, and other common linguistic phenomena. Additionally, Research Group B (2) aims to create teaching materials for Chinese language learning in order to establish a conducive learning environment.

研究会の進め方 Seminar Style



現在は、学生自身の興味関心に沿って、研究テーマを決め、文献講読やその後のディスカッション等を通して、知識や考えを深めていきます。

The current approach is for students to choose their own research topics based on their own interests, and then deepen their

knowledge and ideas through literature reading and subsequent discussions.

所属に向いている学生 Expected Students

中国語における言語行動、言語使用、中国における言語政策等の社会言語学的テーマ、あるいは、中国語教育に関心がある方。中国語を母語としない場合は、1年以上の中国語学習歴があることが望ましい。

Our research group welcomes those who are interested in sociolinguistic themes such as language behavior, language use, language policies and language education in Chinese. It is desirable to have at least one year of Chinese language learning experience, even if Chinese is not their mother tongue.

卒プロ Graduation Projects

- 中国少数民族に対する言語政策に関する研究  
A study on the language policy towards ethnic minorities in China
- リメイク版ドラマから見る、非言語コミュニケーションの日中対照研究  
A comparative study of non-verbal communication in Japanese and Chinese based on remade dramas





宮本 佳明

MIYAMOTO YOSHIAKI

環境情報学部准教授

speciality

気象学  
Meteorology and Climate Science

e-mail

ymiya@sfc.keio.ac.jp

works

- 宮本佳明「台風についてわかっていることないこと」
- Miyamoto, Y., 2021: Effects of Number Concentration of Cloud Condensation Nuclei on Moist Convection Formation. *J. Atmos. Sci.*, 78, 3401\_3413, <https://doi.org/10.1175/JAS-D-21-0058.1>.
- Miyamoto, Y., D. S. Nolan, and N. Sugimoto, 2018: A Dynamical Mechanism for Secondary Eyewall Formation in Tropical Cyclones. *J. Atmos. Sci.*, 75, 3965\_3986, <https://doi.org/10.1175/JAS-D-18-0042.1>.
- Miyamoto, Y., Bryan, G. H., and Rotunno, R. (2017) , An analytical model of maximum potential intensity for tropical cyclones incorporating the effect of ocean mixing, *Geophys. Res. Lett.*, 44, 5826\_5835, doi:10.1002/2017GL073670.

研究会 Seminars

研究会 A

我々の研究会では、気象・気候学の基礎理解を深めると共に、防災・産業など社会への応用可能性も探究します。地球には様々な気象現象が存在するものの、そのメカニズムの多くは未解明で、特に大雨をもたらす現象は災害にもつながり、科学的のみならず社会的にも重要です。

In our research group, we will deepen the basic understanding of meteorology and climatology, and explore the possibility of applying it to society such as disaster prevention and industry. Although there are various meteorological phenomena on the earth, many of their mechanisms are still unknown. Especially, phenomena that bring heavy rains can lead to disasters and are important not only scientifically but also socially.

研究会の進め方 Seminar Style



研究は各自が主体的に行います。学生さんは研究室に入ると、先輩のテーマを参考にしつつ、教員・先輩と相談しながら、自分自身で研究テーマを模索します。学期に2回教員とミーティングを行うと共に、月に1回程度、似たテーマを行う数名のグループで進捗を報告します。

When students enter the laboratory, they explore their own research themes while

consulting with faculty members and seniors and referring to the themes of their seniors. In addition to having meetings with faculty members twice a semester, students report progress in groups of several people working on similar themes about once a month.

所属に向いている学生 Expected Students

データ解析を行う人が多く、情報基礎2レベルのPythonでプログラムを記述することができますと早くから活躍できます。研究は、主に研究会以外の時間で行うため、研究会とは別に最低2~3時間程度研究活動を行える人。

There are many people who perform data analysis, and if you can write programs in Python at 情報基礎2, you can play an active role early on. Since research is mainly conducted outside of research meetings, people who can devote at least 2 to 3 hours of time to research activities apart from research meetings.

卒プロ Graduation Projects

- 触れる天気予報～視覚的及び触覚的気象観測システム～ Touchable Weather Forecast
- 「良い天気」ってどんな天気？—国・地域による「良い天気」の定義の差異—  
What kind of weather is "good weather"?
- 日本におけるダウンバーストの統計解析  
Statistical analysis of downburst in Japan

speciality

臨床心理学 / 精神分析学  
Clinical Psychology / Psychoanalysis

e-mail

sa194663@sfc.keio.ac.jp

works

- 森さち子 (2022) 『新版 症例でたどる子どもの心理療法—情緒の通いあい求めて』 金剛出版.
- 森さち子 (2010) 『かわり合いの心理臨床—体験すること・言葉にすることの精神分析』 誠信書房.
- 森さち子 (2023) 『中立性神話—臨床から教育現場へ』 桑原武夫／清水唯一朗編『総合政策学の方法論的展開』 慶應義塾大学出版会. , pp.125-143.
- 森さち子 (2022) 『情緒が息づく空間 その温もり』 『精神療法 ところの臨床現場からの発信』 増刊第9号 金剛出版. , pp.179-185.



森 さち子

MORI SACHIKO

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

各メンバーが抱く問題意識を出発点とした心理学的テーマを重視します。個人研究を深める過程で、ディスカッションも継続的に、研究会メンバー相互の交流にも重きを置いています。自身の体験を出発点とするので、自分のところと向かい合うことになります。

Emphasis will be placed on psychological themes, starting from the problem consciousness held by each member. In the process of deepening individual research, discussions will be incorporated on an ongoing basis, and emphasis will be placed on interaction among the members. Since the starting point for research is one's own experience, one is confronted with one's own mind.

研究会の進め方 Seminar Style



個人研究に主眼を置きます。週に1回、ランダム、もしくは固定したグループ (5、6人) に分かれてディスカッションを積み重ね、折に触れて全体に向けて研究報告を行います。

The main focus is on individual research. Once a week, students are divided into random or fixed groups (5 or 6 people) for a series of discussions and, from time to time, to present their research to all members.

所属に向いている学生 Expected Students

問題意識が明確で、主体的に自身の研究に取り組むことができる人、さらには他のメンバーの研究にも強い関心が持てる人。

Students who have a clear problem awareness, who can independently tackle their own research, and who have a strong interest in the research of other members.

卒プロ Graduation Projects

- 大学生における死生観とライフイメージとの関係  
The relationship between life and death perspectives and life image among university students
- プライミング効果を用いた無意識の動機づけによる、好奇心旺盛な行動の促進  
Promoting curious behavior through unconscious motivation using the priming effect
- 笑いの表情で相手の習慣的性格を読み取る—相貌心理学に基づく性格研究—  
Reading a person's habitual personality by his or her facial expressions of laughter: Personality research based on the psychology of facial expressions



森 将輝

MORI MASAKI

環境情報学部専任講師 (有期)

speciality

実験心理学 / 数理心理学 / 臨床心理学  
Experimental Psychology / Mathematical Psychology / Clinical Psychology

e-mail

morima@sfc.keio.ac.jp

works

- 森将輝、渡辺利夫 (2018) 「視線知覚空間の異方性」『基礎心理学研究』37 (1) , pp. 29-40.
- Mori, M., Seno, T. (2018) "Inhibition of vection by grasping an object", *Experimental Brain Research*. 236 (12) , pp. 3215-3221.
- Kondo, S., Mori, M., & Sushida, T. (2022) "A differential equation model for the stage theory of color perception", *Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics*. 39 (1) , pp. 283-318.
- 森将輝 (2022) 「感覚・知覚・認知に対する数理的アプローチ: 実験心理学における数理モデルの見方・考え方・利活用」『基礎心理学研究』41 (1) , pp. 50-58.

研究会 Seminars

研究会 A

研究会の目的は、心および身体に関わる知覚・認知機能を解明することです。様々な知覚・認知現象の発見、モデルの検証、モデルの構成を目指します。これらの研究は、視覚情報処理メカニズムの解明、心理アセスメントの開発、身体運動の評価、バーチャルリアリティの技術開発などに貢献することを見据えています。

The purpose of Kenkyukai is to elucidate perceptual and cognitive functions related to the mind and body. We aim to discover, validate models, and construct models of various perceptual and cognitive phenomena. These studies are intended to contribute to the elucidation of visual information processing mechanisms, the development of psychological assessment, the evaluation of physical exercise, and the development of virtual reality technology.

研究会の進め方 Seminar Style

個

研究会では、各自の進捗発表、先行研究の紹介、基礎的スキルの習得を中心に進めます。研究会以外では、心理実験・調査を実施し、研究ミーティングを定期的に行います。

The Kenkyukai focuses on presenting the students' progress, presenting previous research, and learning basic skills. Outside

of the Kenkyukai, the students conduct psychological experiments and surveys, and research meetings are held.

所属に向いている学生 Expected Students

知覚・認知に関するデータを数理・計量的に解析することによって心理現象を紐解くことに強い関心がある方。研究会に出席するだけでなく、自分の時間を使って心理実験・調査、データ解析の学習に取り組むことができる方。Students who have a strong interest in unraveling psychological phenomena through mathematical and quantitative analysis of perceptual and cognitive data. Students who can attend the meetings and use their time to learn about psychological experiments, investigations, and data analysis.

卒プロ Graduation Projects

- 液晶タブレットを用いた書字動態における個人差の解明  
Individual differences in handwriting dynamics using an LCD Tablet
- ベロア生地画像における感性的質感認知: 光沢感・高級感・細かさの知覚に関わる画像統計量  
Kansei aspect of shitsukan perception in velvet fabric images: image statistics related to the perception of gloss, luxury, and fineness
- 外的環境とのインタラクションから透明人間にフルボディ錯覚は生じるか  
Can interaction with external environment cause full body illusion to invisible avatar?

speciality

現代韓国論 / 東アジア経営史・財閥史  
Modern Korean Studies / Business History (Japan and Korea)

e-mail

iyanagi@sfc.keio.ac.jp

works

- 柳町 功 (2021) 『ロッテ創業者 重光武雄の経営』日本経済新聞出版.
- 柳町 功 (2015) 「韓国財閥の競争力強化と『日本』要素」安倍誠・金都亨編著『日韓関係史 1965-2015 II 経済』東京大学出版会. pp.437-459.
- 柳町 功 (2017) 「韓国: 現代における財閥の存在意義」中川涼司・高久保亨編著『現代アジアの企業経営』ミネルヴァ書房. pp.25-47.
- 柳町 功 (2012) 「サムスン電子における意思決定構造の再編・強化と企業競争力」『現代韓国朝鮮研究』(現代韓国朝鮮学会) 12. pp.6-14.



柳町 功

YANAGIMACHI ISAO

総合政策学部教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

研究会1「現代韓国研究」では、地域としての朝鮮半島(韓国・北朝鮮)を総合的な視点、つまり政治、経済、社会、歴史を中心に考察し朝鮮半島理解を進めます。朝鮮語能力は必須です。  
研究会2「日本・アジアにおける企業経営」では、主に日本企業やアジア企業によるグローバル競争の実態を考察します。

研究会の進め方 Seminar Style

個

自らの関心分野に沿った個人研究発表を毎学期に3回行い、研究会での討論を通じ研究テーマを絞り込み、最終的には卒業論文を執筆します。定期試験後、研究会1・2の合同研究発表会も行います。

所属に向いている学生 Expected Students

研究会1・2ともに研究のための問題意識を持ち、仲間との討論にまじめに取り組むことができること。加えて研究会1では朝鮮語の能力があることが必須。

卒プロ Graduation Projects

- 韓国現代史と大統領制
- K-POPエンターテインメント業界の国際競争力
- P&Gから学ぶエクセレントカンパニーへの道



矢作 尚久

YAHAGI NAOHISA

政策・メディア研究科教授

specialty

System Strategy / System Design / Strategy for value-based healthcare delivery (ヘルスケア社会システム戦略論)

works

- 矢作尚久, 藤井進, 森川和彦, 川本章太, 加藤省吾 (2021) 「競争戦略としての「医療のDX」イノベーション」『研究 技術 計画』36 (1) .
- Matsuki, E., Kawamoto, S., Morikawa, Y., Yahagi, N. (2023) "The Impact of Cold Ambient Temperature in the Pattern of Influenza Virus Infection", *Open Forum Infectious Diseases* (Oxford University Press) . 10 (2) , 1-6.
- Sugiyama, H., Harada, N., Amasawa, E., Hirao, M. and Yahagi, N. (2021) "A Prototype Method for Selecting Interventions for Enhancing Medication Adherence in Medicine Taking Processes", *Journal of Chemical Engineering of Japan*. 54 (4-7) . 152-161.
- 神成淳司, 田中浩也, 脇田玲, 矢作尚久, 他 (2022) 『2050年の入試問題』日本経済新聞出版.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

未来の先導者の必須条件たるアントレプレナーシップに不可欠な善悪美醜を識別する鋭く豊かな感性と、自分と異なる多様な価値観に耳を傾ける寛容性、そしてあらゆる抵抗・反対を乗り越えて行動し、結果を出す行動力を身につけることをこの研究会の目的とする。

The purpose of this study group is to acquire a keen and rich sensitivity to distinguish between right and wrong, beauty and ugliness, which is indispensable for entrepreneurship, a prerequisite for future leaders, tolerance to listen to diverse values different from one's own, and the ability to take action and produce results, overcoming all kinds of resistance and opposition.

研究会の進め方 Seminar Style



好きなことを徹底的に追求します。思考タイプの異なる学生でグループを作り、議論を通じて俯瞰して物事を捉え客観性のある質の高い研究内容に仕立てていきます。

In my study group, each person will thoroughly pursue a project theme of his/her choice. The way we proceed is to form groups of students with different types of thinking, and through discussions, we take a bird's-eye view of things and tailor the content of our research to be objective and of high quality.

所属に向いている学生 Expected Students

自分軸を持ち、日常的にミクロからマクロまで自身の「思考」を往来させ、個別最適化を図りながらの全体最適化とは何かを考えられる人。好きなことに没頭できる人。

A person who has his/her axis, who routinely goes back and forth in his/her own "thinking" from micro to macro, and who can think about the overall optimization while trying to optimize each individual. A person who can immerse himself/herself in what he/she loves.

卒プロ Graduation Projects

- 脳の機能に着目した能力評価に基づいた人事管理指標の提案  
Proposal for a human resource management index based on ability assessment focusing on brain functions
- ホームグロウン・テロの要因と多文化共生政策の研究  
Research on Factors of Homegrown Terrorism and Multicultural Conviviality Policies
- 患者状態の連続性に基づくウイルスの臨床予測モデルの構築  
Development of a Clinical Prediction Model of Virus Based on the Continuity of Patient Status

specialty

アラブ文学 / 中東社会文化論  
Arabic Literature / Middle Eastern Society and Culture Studies

e-mail

abiir@sfc.keio.ac.jp

works

- 宮代康丈, 山本薫編 (2023) 『言語文化とコミュニケーション』慶應義塾大学出版会
- 山本薫 (2020) 「中東のラップをめぐる力学とアイデンティティ形成——DAMの事例を中心に」福田宏, 後藤絵美編 『「みえない関係性」をみせる グローバル関係学5』 pp.133-155
- 山本薫 (2023) 「近代文学 (アラブ)」「地域ごとの音楽 (アラブ)」イスラム文化事典編集委員会編 『イスラム文化事典』
- エミール・ハビビー著・山本薫訳 (2006) 『悲楽観屋サイドの失踪にまつわる奇妙な出来事』作品社



山本 薫

YAMAMOTO KAORU

総合政策学部専任講師

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

私たちの研究会ではアラブ文化の魅力を日本社会に発信したり、それらを実際に体験できる場を企画・実施したりする活動を通じて、アラブ諸国と日本との相互理解を促進し、多様性がプラスの価値を持つ共生社会を構想していきたくと考えています。

Our lab tries to introduce the appeals of Arab culture to Japanese society, and plans workshops where people can actually experience Arab culture. Through these activities, we hope to promote mutual understanding between Arab countries and Japan and envision a symbiotic society where diversity has a positive value.

研究会の進め方 Seminar Style



学期ごとのテーマに沿って関心を共有する学生たちでグループ調査を行い、その成果を学内外のイベントやワークショップなどで発表する。

Group surveys are conducted by students who share an interest based on each semester's theme, and the results are presented at on- and off-campus events, workshops, and so on.

所属に向いている学生 Expected Students

アートやファッション、食文化などに興味があり、中東やイスラームの社会・文化を知ることによって視野を広げたい方。

Students who are interested in art, fashion, food culture, and so on, and want to broaden their perspectives by learning about Middle Eastern and Islamic societies and cultures.

卒プロ Graduation Projects

- イスラームにおけるセクシャルマイノリティー  
Sexual Minorities in Islam
- ハイファッションにおけるオリエンタリズム  
Orientalism in High Fashion
- ヴィーガン対応の中東料理レシピ  
Vegan Middle Eastern cuisine recipes





吉井 弘和

YOSHII HIROKAZU

総合政策学部准教授（有期）

speciality

キャリアデザイン / タレントマネジメント / 行政改革  
Career Design / Talent Management / Administrative Reform

works

- プロトタイプ政策研究所（2023）「ジョブ型雇用推進のためのデジタル基盤に関する提言 Ver1.0」[https://policy-ri.jp/policy\\_advocacy/230519\\_proposal](https://policy-ri.jp/policy_advocacy/230519_proposal)（2023年8月24日アクセス）
- ソトナカプロジェクト（2022）「提言書」<https://note.com/api/v2/attachments/download/192d5fcad83e90ef11d5586699145e3>（2023年5月23日アクセス）
- 厚生労働省改革若手チーム・民間チーム（2021）「2025年までに実現したい厚労省改革の内容とその進め方に関する提案」<https://www.mhlw.go.jp/content/11921000/000852176.pdf>（2023年5月23日アクセス）
- 吉井弘和（2017-2018）「日本化するイギリス政治、イギリス化する日本政治」<https://hiro5657.hatenadiary.org/entries/2017/08/06>（2023年5月23日アクセス）

研究会 Seminars

研究会 A

個人はキャリアデザインに基づき仕事を選び、企業も柔軟な雇用形態を模索し、その中で地域と職域による社会保障には不具合も生じるなど、個人と組織と社会の関係は大きく変化しています。そのような中で、「仕事をめぐる、個人と組織と社会の関係の未来」についての研究を行い、社会に発信し変化を働かします。

The relationship between individuals, organizations, and society is changing dramatically as individuals choose jobs based on their career design, companies seek flexible forms of employment, and social security systems based on regions and workplaces have a glitch. In this context, we will conduct research on “the future of the relationship between individuals, organizations, and society in relation to work,” and communicate this research output to society to encourage change.

研究会の進め方 Seminar Style



輪読については2人程度が担当して研究会全体で行い、プロジェクトワークはグループで行う形になります（発表、論文執筆）。

In addition to the seminar-wide circular reading, in line with the interests of the study group members and the external clients, each group of 3 to 5 members will proceed with research projects.

所属に向いている学生 Expected Students

研究会の活動内容とプロジェクト内容を主体的にデザインすること、そのために研究会の時間とは別に週に1日程度をコミットできる人。

Students who are able to independently design the activities and project content of the study group, and who are able to commit about one day a week apart from the study group’s time for this purpose.

卒プロ Graduation Projects

今年度着任しましたので、まだ卒業プロジェクトを担当した経験はありません。

speciality

ビジュアライゼーション / 幾何モデリング / スマートマテリアル  
Visualization / Geometric Modeling / Smart Material

works

- Diversity (For Alan and Keith) , Realtime Software, 2021, [http://akirawakita.com/#works/keith\\_diversity](http://akirawakita.com/#works/keith_diversity)
- Dismantling Awe, Installation, 2018, <http://akirawakita.com/#works/dismantle>
- Performance at Mutek / RedBull Music Festival, Audio Visual Performance, 2017, <http://akirawakita.com/#works/mutek>
- Ryoanji / Parking, Realtime Software, 2016, <http://akirawakita.com/#works/ryoanji>



脇田 玲

WAKITA AKIRA

環境情報学部教授

研究会 Seminars

研究会 A

目の前にありながらも知覚することができない自然界の情報を可視化/可聴化/物質化することで、世界の見方を新しくするメディアをつくっています。

We are creating a new media that allows us to visualize/sonificate/materialize the information from the natural world that exists right in front of us but cannot be perceived, thereby offering a fresh perspective on the world.

研究会の進め方 Seminar Style



抽象的にしか書きませんが、作ること、感じること、言語化することを大切にしています。入門して、感じてください。

所属に向いている学生 Expected Students

世の中一般で大切と言われていることとは距離を置いて、自分の世界観や価値観を持っていること。プログラミングか基礎造形のいずれかに習熟していること。これから頑張るのではなく、いま頑張っている人。

Have your own world view and values, distancing yourself from what is considered important in the world in general. Be skillful in either programming or basic modeling/drawing. People who are working hard now, rather than working hard in the future.

卒プロ Graduation Projects

- 量子の振る舞いの可視化  
Visualization of quantum behavior
- Material Syncretism
- 自身のアーティスト活動そのものを卒業プロジェクトとして提出した学生がいました。その学生の存在そのものが全てを物語っており、論文や書籍といったメディアでは言い表せない新しいものを生み出しており、とても印象的でした。

There was a student who submitted his own artist activity itself as his graduation project. The student’s very existence spoke for itself, creating something new that cannot be expressed in media such as papers or books, and was very impressive.



和田 龍磨

WADA TATSUMA

総合政策学部教授

speciality

国際マクロ経済学 / 計量経済学  
International Macroeconomics / Econometrics

e-mail

twada@sfc.keio.ac.jp

works

- Perron, Pierre and Wada, Tatsuma (2009) "Let's take a break: Trends and cycles in US real GDP." *Journal of Monetary Economics*, Elsevier, vol. 56 (6) , pp.749-765, September.
- Wada, Tatsuma (2022) "Out-of-sample forecasting of foreign exchange rates: The band spectral regression and LASSO," *Journal of International Money and Finance*, Elsevier, vol. 128 (C)
- Wada, Tatsuma (2014) "The Role Of Transitory And Persistent Shocks In The Consumption Correlation And International Comovement Puzzles," *Macroeconomic Dynamics*, Cambridge University Press, vol. 18 (6) , pp.1234-1270, September.

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

国際経済の動きを理解するために、基礎となるモデルをテキストを使って学び、現実を知るために英字新聞などを読み、数量的な規模を知るためにコンピュータを用います。

We read textbooks to understand basic models for international economics. We also read newspapers to know the real economy. We use computers to grasp the sizes of economic activities and the effects of economic policies in the global economy.

研究会の進め方 Seminar Style



卒業プロジェクトに向けての研究は各個人で行います。全体ではテキストの輪読と演習を行います。

Each student has his/her own research topic for a graduation thesis. In class, we do textbook reading and computer exercises.

所属に向いている学生 Expected Students

コンピュータコーディングを学ぶ意欲がある学生。英語で書かれたテキストを根気よく読むことができる学生。

Students who are willing to learn coding and read textbooks written in English.

卒プロ Graduation Projects

- 中央銀行の金融政策と株価  
Monetary policy and stock prices
- 原油価格と経済活動  
Oil prices and the levels of production
- ESG 投資と株式収益率  
ESG investment and stock returns

speciality

ヘルスサイエンス / アンチエイジング / 代謝疾患  
Health Science / Anti-aging / Metabolic Disease

e-mail

wmitsu@sfc.keio.ac.jp

works

- Watanabe M, Houten SM, Matak C, Christoffolete MA, Kim BW, Sato H, Messaddeq N, Harney JW, Ezaki O, Kodama T, Schoonjans K, Bianco AC, Auwerx J. "Bile acids induce energy expenditure by promoting intracellular thyroid hormone activation.", *Nature* 439 pp. 484 - 489, 2006
- 『あなたの健康寿命はもっとのばせる!: 疲れない、衰えない、老いない生き方: ALAの力で細胞レベルからよみがえる!』 渡辺 光博, 東京: 日本文芸社, 2017年04月
- 『Dr. クロワッサン おなかの凹凸胆汁酸ダイエット』 渡辺光博, 株式会社マガジンハウス, 2021年05月
- 渡辺光博 (2015) 「メタボリックシンドロームに胆汁酸代謝を用いて新規治療アプローチで挑む」 *KEIO SFC JOURNAL* 15 (1) , pp.102-131.



渡辺 光博

WATANABE MITSUHIRO

政策・メディア研究科教授

研究会 Seminars

研究会 B (1) / 研究会 B (2)

健康長寿社会、誰もが幸せに暮らせる社会の実現を目指し、基礎医学研究から街づくりまで分野を融合させ幅広く研究活動を行っている。目的の実現のためには分野、手段を選ばず、何事にも果敢にチャレンジしていく。昨年度は世界初のインクルーシブでの八甲田山におけるバックカントリスキーも成功させNHKで放映された。

研究会の進め方 Seminar Style



研究会は大きく、基礎研究班、街づくり班に分かれており、チームを作って活動している。かなりの時間を合同で行い、皆で知恵を出し合いながら研究を進めている。

所属に向いている学生 Expected Students

どんな研究分野でも同じと思うが、好奇心が強く探求心があり、困難にも負けない粘り強さがあり、他人とも協調してやっていける人。

卒プロ Graduation Projects

- 天然物を活用した抗加齢医学研究
- 昆虫食を活用したアンチエイジングの可能性
- SFCを中心とした和ハーブ(野草)マップと散策道の開拓



## 藁谷 郁美

WARAGAI IKUMI

総合政策学部教授

### speciality

外国語教育 / ドイツ語教育 / ドイツ文学研究  
Language & Teaching Design / Language Learning Technology /  
German literature

### works

- ・藁谷郁美 (2021) 「ドイツにおける三島文学の受容と翻訳 — 表現手段としての宗教言語」 泉水浩隆編集『翻訳と通訳の過去・現在・未来 — 多言語と多文化を結んで』, 三修社, pp.45-60.
- ・藁谷郁美 (2023) 「外国語学習デザインの構築と運用——SFCドイツ語学習環境における実空間とサイバー空間の運動」 宮代康文・山本薫編集『言語文化とコミュニケーション』, 慶應義塾大学出版会., pp.141-160.
- ・藁谷郁美 (2011) 「ビューヒナーへの追憶」「ドキュメント」「子供時代の詩作品」「ギムナージウム時代の落書き」「作文と演説」 日本ゲオルク・ビューヒナー協会有志「ゲオルク・ビューヒナー全集」1・2巻, 鳥影社., pp. 7-28, 220-281.
- ・Ikumi Waragai, Tatsuya Ohta, Marco Raindl, Shuichi Kurabayashi (2013) An Experience-Oriented Language Learning Environment Supporting Informal Learning Abroad, In: *Educational Technology Research* 36, pp. 179-189.

## 研究会 Seminars

## 研究会 A

多言語圏・多文化圏の言語で発信されたメディアコンテンツを比較分析し、自分のものを見方をメタレベルで捉え直し相対化する作業を、グループワークを通しておこなっています。同時に、個人研究では各自が自由にテーマを決めて、論文を執筆します。「好きなもの」を「自分の研究テーマ」にする、それが本研究会の本質です。

As a WG we do media comparison between the different foreign languages. Through the analysis in the discussion you get various aspects. At the same time, the participants have to have their own research topic. It is important how you can consider your own favourite topic as a research topic.

### 研究会の進め方 Seminar Style



学生5-6人から成る研究テーマ中心のリサーチWG、および多言語で発信されるコンテンツを共同でデータ収集・分析するメディア比較WGの両者に参加します。

We have Research WG for research activities, and Media WG for media comparison (5-6 participants per WG) .

### 所属に向いている学生 Expected Students

英語以外の言語も習得、あるいは習得中であること。ことばの習得に高い関心を持っていること。

Foreign language skills (besides English) are preferred. Those interested in learning foreign languages are also welcome.

### 卒プロ Graduation Projects

- ・ドイツにおける「統合コース (Integrationskurs)」から見る移民政策 - ノイケルン (Neukölln) 市民大学での参与観察を通じて  
Immigration policy in the area of “integration courses” (German course): a case study of the course in Neukoelln -
- ・メディアと言語 - 3.11報道をめぐる日独英新聞メディアの比較分析  
Media and Language: A Comparative Study of Newspaper Articles about the 2011 Earthquake, Tsunami and the Nuclear Disaster in Japan in Japanese, German and English
- ・マインドマップ型語彙学習システム「d-Mind」の開発と運用 - ドイツ語学習者を対象とした実験と評価  
Development and application of the “d-Mind” learning system towards the learners of German

### speciality

選択行為の分析 / リスク / ヒューマンセキュリティー  
Choice Analysis / Risk / Human Security

### e-mail

thaochi@sfc.keio.ac.jp

### works

- ・Vu Le Thao Chi (2023), 「自由、選択と人間の不安」、神保謙・広瀬陽子編『流動する世界秩序とグローバルガバナンス』慶應大学出版。
- ・Vu Le Thao Chi (2022), “A Sense of the Public: Japan and Vietnam,” Nobuto Yamamoto, ed., *The COVID-19 Pandemic and Risks in East Asia: Media, Social Reactions, and Theories*, Routledge, pp.85-109.
- ・Vu Le Thao Chi (2020), *Agent Orange and Rural Development in Post-war Vietnam*, Routledge.
- ・Vu Le Thao Chi (2020), “Well-being for Children with Disabilities in a Transitional Vietnam,” *The International Journal of Health, Wellness, and Society*, Volume 10 Issue 4, pp.21-34.



## VU LE THAO CHI

ヴレタオチ

総合政策学部専任講師

## 研究会 Seminars

## 研究会 A

人間が合理的な選択をしようとする時、考慮しなければならないコスト、リスクをどのように把握し、評価するのかというのがこの研究会で検討するパズルです。自然災害との対応、生活環境の保持、健康の維持など日常生活を左右する具体例を日本や東南アジアの各地で調査しながら、このパズルを検討していきます。

The puzzle we tackle is a set of inquiries: how we capture the cost and risks when deciding on which alternative offers an expected result; and how our past - as we construct it - influences that decision-making. We develop these inquiries through fieldwork in parts of East Asia including Japan and Vietnam among others. Our research has taken us into policy issues of environmental deterioration, public health, poverty, and global warming. Decision-making theories with a cognitive psychological inclination and various forms of narrative analysis are the two pillars of our efforts.

### 研究会の進め方 Seminar Style



この研究会は週に2回集まり、1) 分析的・理論的な課題を扱う専門書 (論文) の検討と 2) 政策課題の事例の検討とを2~3名のチームによって進めます。

We meet twice a week. A 2-3-member team is responsible for examining theoretical and analytical works, and the current and the past cases of policy issues. We shuffle the teams' members so that they all interact with, and get to know, each other. Towards the end of the semester, everyone has opportunities to present and defend his/her research interest.

### 所属に向いている学生 Expected Students

好奇心が強く、日常生活から問題を発見できること。他人の意見に耳を傾けることができること。努力すれば英語であっても自分の意見を表現できること。共同作業ができること。

I prefer students with strong curiosity and willingness to uncover policy issues in everyday life. Students willing to listen and digest others' opinions and capable of expressing themselves are welcome. As long as one is willing to use English, with effort, in the interactive style of seminar meetings and field research, s/he is welcome.

### 卒プロ Graduation Projects

- ・慶應を選択した現役生の意思決定分析  
Analysis of Reasons Behind the Decision to Enter Keio Among Current Undergraduate Students
- ・貧困と日常生活における非常事態：インドネシア、バンドン地区の事例研究  
Poverty and Contingencies in Life: A case study from Bandung Regency, Indonesia



看護医療学部  
健康マネジメント研究科

AKATSUKA EIKI  
ARAI YASUMICHI  
ISHIKAWA SHIMA  
OSAKA WAKAKO  
OSAWA YUSUKE  
OGUMA YUKO  
KANAZAWA YUKI  
KOIKE TOMOKO  
SANO TAKEHIKO  
SUGIMOTO NAOMI  
SUGIYAMA DAISUKE  
SUZUKI MIHO  
TAGUCHI ATSUKO  
TAKEDA YUKO  
HASHIMOTO TAKESHI  
BATTY AARON  
HIRANO YUKO  
FUKAHORI HIROKI  
FUJII CHIEKO  
FUJISHIMA ASAMI  
FUJIYA RIKI  
HOSOSAKA YASUKO  
HORIGUCHI TAKASHI  
MASUDA SHINYA  
MATSUZAKI AI  
MIYAGAWA SHOKO  
YAGASAKI KAORI  
YAMAUCHI KEITA



赤塚 永貴

AKATSUKA EIKI

看護医療学部助教

specialty

地域看護学 / 公衆衛生看護学  
Community Health Nursing / Public Health Nursing

works

- Akatsuka E, Tada E. (2021) "Development of a resilience scale for oldest-old age (RSO)". *BMC Geriatrics*. 21: (1) 174. doi: 10.1186/s12877-021-02036-w.
- 赤塚永貴、有本祥、田高悦子、臺有佳、伊藤絵梨子、白谷佳恵、大河内彩子。(2016)『都市部地域高齢者の主観的健康感に関連する要因の性差に関する比較』、『日本地域看護学会誌』19巻2号、12-21

おすすめ授業 Recommended Courses

公衆衛生看護学に関連する科目

大学卒業後は自治体にて保健師として勤務した経験から、現在は保健師養成教育に関する科目を担当しています。保健師の実践に関わる理論や研究を交えながら、私自身の現場での経験もお伝えしたいと考えています。

授業の進め方 Class Style



講義・グループワーク・フィールドワーク（演習・実習）により実施しています。

受講に向いている学生 Expected Students

保健師や地域保健に関心がある方。

specialty

老年医学 / 健康長寿 / 百寿者研究  
Geriatrics and gerontology / healthy longevity / centenarians

e-mail

yasuarai@sfc.keio.ac.jp

works

- Hirata T, Arai Y, Yuasa S, Abe Y, Takayama M, Sasaki T, Kunitomi A, Inagaki H, Endo M, Morinaga J, Yoshimura K, Adachi T, Oike Y, Takebayashi T, Okano H, Hirose N. Associations of cardiovascular biomarkers and plasma albumin with exceptional survival to the highest ages. *Nat Commun*. 2020 Jul 30;11 (1) :3820.
- Ando T, Nishimoto Y, Hirata T, Abe Y, Takayama M, Maeno T, Fujishima S, Takebayashi T, Arai Y. Association between multimorbidity, self-rated health and life satisfaction among independent, community-dwelling very old persons in Japan: longitudinal cohort analysis from the Kawasaki Ageing and Well-being Project. *BMJ Open*. 2022 Feb 24;12 (2) :e049262.



新井 康通

ARAI YASUMICHI

看護医療学部教授

おすすめ授業 Recommended Courses

百寿者(百歳以上の高齢者) 研究全般

高齢者、特に85歳以上の超高齢者の健康を維持するためには、糖尿病や心筋梗塞などの病気にならないことも重要ですが、フレイル、サルコペニアなどの加齢に伴う機能低下を予防することが重要であり、そのためには適切な栄養摂取や身体活動とともに社会参加、地域との関わりを保つことが重要です。私は、超高齢者、百寿者の研究を通して、生物学的要因のみならず、心理社会的要因も健康長寿に大きく影響することを学び、これらを授業で伝えたいと思います。

In order to maintain the health of the elderly, especially the very elderly over 85 years of age, it is important to prevent diseases such as diabetes and myocardial infarction, but it is also important to prevent age-related functional decline such as frailty and sarcopenia. To this end, it is important to maintain social participation and community involvement, as well as proper nutrition and physical activity. Through my research on the very elderly and centenarians, I have learned that not only biological factors but also psychosocial factors have a significant impact on healthy longevity, and I would like to convey these findings from interdisciplinary studies of healthy aging in my classes.

授業の進め方 Class Style



プロジェクトでは、地域の元気高齢者のフィールド調査に参加し、高齢者の健康評価を体験するとともに、データ解析を指導しています。

In the project, students are encouraged to participate in a field study of healthy elderly people in the community, experiencing health assessment of the elderly and learn statistical analysis of data .

受講に向いている学生 Expected Students

高齢者と話をするのが好きな人。  
People who like to talk to the elderly.



石川 志麻

ISHIKAWA SHIMA

看護医療学部専任講師

speciality

地域看護学

works

- 石川志麻、宮崎美砂子、石丸美奈（2013）「市町村の介護予防事業における業務委託の現状と課題-A 県の業務委託実態調査からの示唆」『千葉看護学会会誌』19（1），pp.45-53.
- 細谷紀子、佐藤紀子、雨宮有子、石川志麻（2020）「要配慮者を支える自主防災組織の活動実態と課題」『日本地域看護学会誌』23（3）pp.39-46.
- 石川志麻、宮崎美砂子、石丸美奈（2012）「市町村保健師の委託事業を利用したマネジメント行為の特徴」『千葉看護学会会誌』18（1）pp.77-85.
- 石川志麻（2023）「家庭訪問による支援の実践：発達に不安のある子どもへの支援」『標準保健師講座2公衆衛生看護技術』医学書院.. pp.171-177.

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

主に保健師活動を基軸とした研究課題のうち、各学生の関心に合わせ、行政看護・学校保健・産業保健など幅広い研究課題に対応しています。自分が関心を持ったことを研究として突き詰める醍醐味を感じてほしいです。私が現在取り組んでいる研究は、大規模団地における多世代対応型の社会的孤立予防です。学際的研究チームで他機関と連携して実施します。研究フィールドは学生大歓迎です。ぜひ学生にも参加してほしいと思います！

Among the research topics mainly based on public health nursing activities, a wide range of research topics such as administrative nursing, school health, and occupational health will be addressed according to the interests of each student. I hope that students will experience the real joy of pursuing their own research interests. My own current research project is a multi-generational prevention of social isolation in a large apartment complex. To address social isolation arising from diverse lifestyles, an interdisciplinary research team will conduct research in collaboration with other institutions. Students are welcome in the research field. I would like to encourage students to participate in this research!

プロジェクトの進め方 Project Style

教科書の輪読や論文クリティーク、各自の研究課題についてディスカッションを行います。また各学生の関心に合わせ、専門家や実践者、当事者へのインタビューを行います。Students will read the textbooks in rotation, critique articles, and discuss their own research topics. In addition, interviews with experts, practitioners, and other people involved in the field will be conducted according to the interests of each student.

所属に向いている学生 Expected Students

人々の生活に関心を持ち、粘り強く取り組む意欲のある学生。Students who are interested in people's lives and willing to tackle things with persistence.

speciality

がん看護学 / 成人看護学（慢性期看護 / 緩和ケア）

works

- 中山和弘、大坂和可子（2017）「意思決定支援ツール（ディジションエイド）の作成・活用」中山健夫編著『これから始める！シェアード・ディジションメイキング：新しい医療のコミュニケーション』日本医事新報社、pp.69-91.
- Osaka W., Nakayama K. (2017) "Effect of a decision aid with patient narratives in reducing decisional conflict in choice for surgery among early-stage breast cancer patients: A three-arm randomized controlled trial", *Patient Education and Counseling*. 100 (3), pp.550-562.
- 大坂和可子（2020）"【医療の場におけるチームで取り組む意思決定支援】治療の選択に関する意思決定支援 ディジションエイドを活用した支援",『保健の科学』, 62 (5), pp.315-320.
- 大坂和可子, 中山和弘 (2021改訂)「自分らしく決めるガイド 乳がん手術方法」[https://www.healthliteracy.jp/decisionaid/DA\\_Breast\\_Cancer\\_surgery\\_2021.pdf](https://www.healthliteracy.jp/decisionaid/DA_Breast_Cancer_surgery_2021.pdf) (2023年8月25日アクセス) .



大坂 和可子

OSAKA WAKAKO

看護医療学部准教授

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

学生さんの疑問や関心をテーマにして、自分で探求する力や、自分の言葉で他者に伝える力がつくよう学びを支援しています。学生さんには自分の学びの積み重ねを実感してもらえよう、ポートフォリオの作成も推奨しています。

プロジェクトの進め方 Project Style

主に学生さんの関心テーマに沿って、ゼミ形式中心で進めます。

所属に向いている学生 Expected Students

慢性期看護学や終末期看護学、意思決定支援に関連したテーマを探求したいと考えている方。





大澤 祐介

OSAWA YUSUKE

健康マネジメント研究科准教授 (有期)

specialty

スポーツ科学 / 老化疫学 / 運動疫学

works

- Osawa Y, Tanaka T, Semba RD, Fantoni G, Moaddel R, Candia J, Simonsick EM, Bandinelli S, Ferrucci L. Proteins in the pathway from high red blood cell width distribution to all-cause mortality. *EBioMedicine* 2022;19:76:103816. doi: 10.1016/j.ebiom.2022.103816.
- Osawa Y, Abe Y, Takayama M, Oguma Y, Arai Y. Physical Activity and All-cause Mortality and Mediators of the Association in the Very Old. *Experimental Gerontology* 2021 Jul 15;150:111374. doi: 10.1016/j.exger.2021.111374. Epub 2021 Apr 25.
- Osawa Y, Semba RD, Fantoni G, Candia J, Biancotto A, Tanaka T, Bandinelli S, Ferrucci L. Plasma proteomic signature of the risk of developing mobility disability: a 9-year follow-up. *Aging Cell* (DOI) 10.1111/ace.13132.

おすすめ授業 Recommended Courses

Principles of health management

ヘルスケア・ヘルスサービス分野においては専門的知識の習得が重要視されがちだが、限定的な視点や知識だけでは十分とはいえない。オムニバス形式で専門分野を軸に学際的な研究プロジェクトを紹介することを通じて、本研究科という学際的な環境を最大限に活かすアイデアのヒントになる講義を展開する。In the healthcare and health services field, the acquisition of specialized knowledge is often emphasized, but limited perspectives and knowledge alone are not sufficient. Through an omnibus style that introduces interdisciplinary research projects, the lectures will provide some hints to make the most of the interdisciplinary environment of this graduate school.

授業の進め方 Class Style

講

本研究科の教員および他研究科で健康をテーマに学際的な研究を行う教員によるオムニバス形式の講義。

Omnibus lectures by faculty members of the Graduate School and faculty members conducting interdisciplinary research on health themes in other graduate schools.

受講に向いている学生 Expected Students

健康をテーマに学際的な研究に関わりたいと考える学生。

Students who want to be involved in interdisciplinary research on health.

specialty

スポーツ医学 / 内分泌代謝内科 / 運動疫学  
Sports Medicine / Physical Activity Epidemiology / Preventive Medicine

works

- WHO, 小熊祐子ら訳 (2020) 『身体活動に関する世界行動計画2018-2030』 <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/news/2020/02/who2018-2030.html>
- 共著 (2022) 『健康スポーツ医学実践ガイド』 日本医師会 編、文光堂
- Saito, Y., Tanaka, A., Tajima, T., Ito, T., Aihara, Y., Nakano, K., Kamada, M., Inoue, S., Miyachi, M., Lee, IM., Oguma, Y. (2021) "A community-wide intervention to promote physical activity: A five-year quasi-experimental study." *Prev Med* Sep;150:106708
- 小熊祐子, 富田真紀, 今村晴彦 (2014) 『サクセスフル・エイジング: 予防医学・健康科学・コミュニティから考えるQOLの向上』 慶應義塾大学出版会



小熊 祐子

OGUMA YUKO

健康マネジメント研究科准教授

おすすめ授業 Recommended Courses

Health promotion

ヘルスプロモーションの基本を学ぶとともに、藤沢市と協働で進めてきた市民の身体活動促進の取り組みを基軸に、関連する市の組織や市民の方にも参入いただき、インタラクティブな授業となっています。関連組織の見学や講義、実際のデータの解析などから課題を見出し、最終的に市にプログラムの提案を行っています。

In addition to learning the basics of health promotion, this interactive class is based on an initiative to promote physical activity among citizens that has been promoted in collaboration with Fujisawa City, and involves the participation of related city organizations and citizens. The class identifies issues through visits to related organizations, lectures, and analysis of actual data, and ultimately submits program proposals to the city.

授業の進め方 Class Style

講 他

講義、データ解析のグループワーク、関連施設の見学など。

Lectures, group work on data analysis, and tours of related facilities.

受講に向いている学生 Expected Students

ヘルスプロモーションの現場に興味があり、基本的な統計解析はできる人。

Those who are interested in the field of health promotion and can perform basic statistical analysis.



金澤 悠喜

KANAZAWA YUKI

看護医療学部専任講師

speciality

助産学 / 母性看護学  
Midwifery / Women's health nursing

e-mail

ykanazawa@keio.jp

works

- 金澤悠喜、加納尚美 (2019) 「第1子誕生1年後の夫からみた夫婦関係」『母性衛生』60 (4), pp.560-568.
- 金澤悠喜、加納尚美 (2018) 「第1子誕生後に伴う夫からみた夫婦関係の変化の過程」『日本助産学会』32 (2), pp.202-214.
- 慶應義塾公認・クラウドファンディング達成し活動中「あなたのライフを作品にする～人文社会学研究によるエンパワー」 (<https://readyfor.jp/projects/keioabr>)
- Kanazawa, Y., Ioyama, A. (2022) "Opinions of midwives regarding the introduction of breast ultrasound in mothers' breast care", *Journal of Midwifery* 7 (1), pp. 35-44.

おすすめ授業 Recommended Courses

プロジェクトI・II

4年春学期・秋学期に自ら取り組みたいプロジェクトを選択して履修できる科目です。大学最終学年の集大成として、探求するのにおすすめします。私のプロジェクトでは、ウィメンズヘルス看護学、助産学、周産期領域を中心とした看護理工学などについて関心のある学生と共に、学びを深めて行きたいと思っています。医療現場では多職種連携と言われますが、研究でも医療系だけに特化せずに、工学・文学などの力をお借りして多職種共同で行う学びを実感して頂きたいと思っています。

授業の進め方

講 7 他

多様な考え方を知る機会になればと思いますので、グループワークやフィールドワーク、他分野の方との交流を行いながら授業を展開していきます。

受講に向いている学生 Expected Students

男性でも、女性でも、ウィメンズヘルス看護学、助産学、周産期領域を中心とした看護理工学などについて関心のある学生さんにおすすめです。

speciality

看護管理 / 看護政策  
Nursing Administration / Health Care Policies

e-mail

koiketom@sfc.keio.ac.jp

works

- 小池智子、松浦正子、中西睦子編 (2018) 『看護サービス管理 第5版』、医学書院。
- 小池智子 (2022) 「内服投与事故のプロセスと解決するためのナッジ」『実践 医療現場の行動経済学』pp. 229-242.
- 小池智子 (2023) 「ナッジ理論を感染対策に活用するために」、『インフェクションコントロール』32 (2) pp. 182-187.
- Tomoyuki Takura, Tomoko Koike, Yoko Matsuo, Asuko Sekimoto, Masami Mutou (2022), "Proxy responses regarding quality of life of patients with terminal lung cancer: preliminary results from a prospective observational study", *BMJ Open* 2022;12:e048232.



小池 智子

KOIKE TOMOKO

看護医療学部准教授

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II (看護医療学部科目)

フローレンス・ナイチンゲールは、現代看護の基礎を築いた傑出した実践者および教育者であるだけでなく、並外れた改革者でもありました。彼女は現場の問題を統計的に可視化し、さまざまなネットワークを活用して解決策を模索する先見の明のある改革者でした。この授業では、「21世紀のナイチンゲール」となった場合、看護と政策をどのように「創造」し「実行」すべきかを考え、人々の幸福に貢献する看護システムを探求します。Florence Nightingale was not merely a proficient practitioner and educator who established the bedrock of modern nursing, but also an extraordinary reformer. Through the application of statistical analysis, she adeptly resolved issues in the field and employed diverse networks to discern visionary solutions. In this class, we shall deliberate upon the manner in which we ought to "create" and "implement" nursing practices and policies, should we aspire to embody the essence of a "21st-century Nightingale." Furthermore, we shall delve into the exploration of nursing systems that inherently contribute to the well-being of individuals and society.

プロジェクトの進め方 Project Style

講 7

講義ではwell-beingに関連した看護管理や政策の研究や事例を検討します。その後、学生は自身の研究計画を作り、フィールド・ワークやインタビューを行います。

In the lecture, we will delve into the research and case studies of nursing management and policies related to well-being. Following that, students will develop their own research plans and engage in fieldwork and interviews to gather data in support of their studies.

所属に向いている学生 Expected Students

人や社会のwell-beingに関心をもっている学生は誰でも大歓迎です。現場の「課題」とともに「強み」を発見して、これを活かしたアプローチを考えるのはワクワクしますよ！

We extend a warm welcome to any student who shares a sincere concern for the well-being of individuals and society. It is exciting to discover the "strengths" as well as the "challenges" in the field and to think about approaches that make the most of these strengths!



佐野 毅彦

SANO TAKEHIKO

健康マネジメント研究科准教授

speciality

スポーツ経営学  
Sport Management

e-mail

sano.takehiko@keio.jp

works

- 佐野毅彦、町田光 (2006) 『Jリーグの挑戦とNFLの軌跡：スポーツ文化の創造とブランド・マネジメント』ベースボール・マガジン社。
- 佐野毅彦、梅津志門 (2020) 『公共トレーニング場利用者の利用料金に対する支払意思額』『スポーツ産業学研究』30 (2) , pp.163-174.
- 原田昇、佐野毅彦 (2016) 『定期的にショートテニスを実施する中高齢者の日常の身体活動と座位行動の活動パターンに関する研究：潜在クラス分析によるアプローチ』『スポーツ産業学研究』26 (2) , pp.279-290.
- 神田れいみ、佐野毅彦 (2021) 『新型コロナウイルス感染症感染拡大に起因するリーグ戦休止・中止がプロバスケットボール選手に与えた影響に関する研究』『スポーツ産業学研究』31 (3) , pp.307-316.

おすすめ授業 Recommended Courses

Sport Management and Health

スポーツを経験商品と捉え、その商品特性と価値創造の機序を考えてもらうことを意図して設計された授業です。

This course is designed for students to perceive sports as “experience” product and to consider its product characteristics of and mechanisms of value creation.

授業の進め方 Class Style

講他

座学と演習。

Lecture and practice.

受講に向いている学生 Expected Students

無形商品の価値創造に関心を持つ学生。

Students who are interested in creating value for intangible products.

speciality

コミュニケーション学 (医療コミュニケーション学 / コミュニケーション教育学 / 異文化コミュニケーション学)

works

- 杉本なおみ (2013) 『改訂 医療者のためのコミュニケーション入門』精神看護出版。
- 杉本なおみ・小井川悦子 (2008) 『看護管理に活かすグループ・コミュニケーションの考え方』日本看護協会出版会。
- 瀬尾宏美、椎橋実智男、浅田義和、臼井いづみ、大西弘高、下正宗、菅沼太陽、杉本なおみ、鶴田潤、中村真理子、丹羽雅之、Raoul Breugelmans、守屋利佳、編 (2022) 『医学教育白書 2022年版 (‘19~’22)』篠原出版社。
- 杉本なおみ (2019) 『「隠れたカリキュラムとIPE」医療職間連携 (教育) に影響を及ぼす「隠れた」・「非公式」カリキュラムを読み解く』『保健医療福祉連携』12: 88-95.



杉本 なおみ

SUGIMOTO NAOMI

看護医療学部教授

おすすめ授業 Recommended Courses

Communication: Theory and Practice

コミュニケーション学の学位を有する教員からコミュニケーションについて学べるSFC唯一の科目として、「楽しく学ぶ」ことを大切に、コミュニケーションに関する諸概念の正確な理解やそれに基づく実践力の向上を目指します。

As the only SFC faculty member with a Ph.D. in the field of communication, I firmly believe in the value of “studying communication with fun” and run this course so that students acquire an accurate understanding of theoretical concepts and improve their competence in communication through active learning.

プロジェクトの進め方 Project Style

講他

米国の大学で多用される反転授業です。教科書を事前に読んでから授業に参加し、その内容を体験参加型グループアクティビティを通じて検証します。

This course uses a flipped-classroom design as used extensively in U.S. universities. Students complete reading assignments prior to class and engage in experiential learning activities to enhance their understanding of various theories and concepts in the field of communication.

受講に向いている学生 Expected Students

好奇心の強い方を歓迎します。医療現場のコミュニケーションだけを取り上げる科目ではなく一般的な入門科目ですので、看護医療学部以外に所属する塾生も履修可能です。

This is a general introductory communication course, not a course exclusively focused on health communication, so curious minds from all Keio faculties are welcome.





杉山 大典

SUGIYAMA DAISUKE

看護医療学部教授

speciality

公衆衛生学 / 疫学 / 生物統計学  
Public Health / Epidemiology / Biostatistics

e-mail

dsugiyama@keio.jp

works

- Sugiyama D. (2022) "The Association between Indoor Temperature and Hypercholesterolemia", *J Atheroscler Thromb.* 29 (12) , pp.1704-1705.
- Harada-Shiba M, Ohtake A, Sugiyama D, Tada H, Dobashi K, Matsuki K, et al (2023) "Guidelines for the Diagnosis and Treatment of Pediatric Familial Hypercholesterolemia 2023", *J Atheroscler Thromb.* 30 (5) , pp.531-557.
- Ohata S, Takenaka K, Sugiyama D, Sugimoto T. (2022) "Bone Marrow Infiltration Is a Distinctive Risk Factor for Rituximab Infusion-Related Reactions in CD20-Positive B-Cell Non-Hodgkin Lymphoma", *Adv Hematol*.doi: 10.1155/2022/3688727.

おすすめ授業 Recommended Courses

看護のための薬理学

地域コホート研究の成果が実際の医学・医療にどのように活用されているかについて、興味のあるテーマ（例：高血圧と気温）を設定し、関連する文献の収集・考察を行う。この他、興味に応じてオプションとして担当教員が担当する大学院講義への聴講や関連研究班会議、担当教員が関係しているフィールド研究への参加も可能（ただし、フィールド研究への参加は新型コロナウイルスの流行状況などにより困難な場合あり）。

授業の進め方 Class Style

他

興味のあるテーマに沿った文献レビューを通して、実際の研究における研究デザインや統計解析手法についての理解を深める事を目指す。

受講に向いている学生 Expected Students

疫学・生物統計学の基礎が既習済みで一定の医学知識がある方。

speciality

基礎看護学  
Fundamentals of Nursing

works

- Suzuki, M. et al. (2022) "Facilitators and barriers in implementing the nurse practitioner role in Japan: A cross-sectional descriptive study", *International Nursing Review.* <https://doi.org/10.1111/inr.12790>
- 鈴木美穂, 山花令子編著 (2020) 『フィジカルアセスメントポケットBOOK』 照林社.
- 鈴木美穂, 濱敏弘編著 (2016) 『がん化学療法看護 はじめの一步』 照林社.
- Suzuki, M. (2012) "Quality of Life, Uncertainty, and Perceived Involvement in Decision Making in Patients With Head and Neck Cancer", *Oncology Nursing Forum.* 39 (6) , pp.541-548



鈴木 美穂

SUZUKI MIHO

看護医療学部教授

プロジェクト Projects

プロジェクトⅠ・Ⅱ

学生の関心を最大限実施可能な研究の形に落とし込み、結果を社会的文脈で考察し、示唆を得ることを支援します。とくに、フィジカルアセスメントや基礎看護技術の臨床看護実践における意味を追究することを通して、みなで幸せになる看護とは何か、高度実践看護とは何かを概念化し、一緒に人々に看護の面白さを伝えていくことを目指しています。

I support students in translating their interests into the most feasible form of research and discussing the results in a social context and developing implications. In particular, through pursuing the meaning of physical assessment and basic nursing skills in clinical nursing practice, I aim to conceptualize what is nursing and what is advanced practice nursing that makes everyone happy, and to share the fascination of nursing to society and community.

プロジェクトの進め方 Project Style

他

関心領域や方法論の文献検討を通して、研究方法を学び、研究計画を立案します。研究の実施は関連するフィールドで実施することになります。

Students will learn research methods and develop a research proposal through a literature review of the area of interest and methodology. Research will be conducted in the relevant field.

所属に向いている学生 Expected Students

臨床看護に関心のある学生。  
Students interested in clinical nursing.



田口 敦子

TAGUCHI ATSUKO

看護医療学部教授

speciality

公衆衛生看護学 / 地域看護学

works

- Taguchi A, Murayama H, Ono K. Association between Japanese community health workers' willingness to continue service and two categories of motives: altruistic and self-orient. *PLoS ONE*, 2021 doi:10.1371/journal.pone.0220277
- 田口敦子, 村山洋史, 竹田香織, 伊藤海, 藤内修二. 地域保健に関わる住民組織の特徴と課題: 全国市町村への調査. 『日本公衆衛生雑誌』, 66 (11) : 712-722, 2019.
- 永田智子, 田口敦子編. 『外来で始める在宅療養支援』. 東京: 日本看護協会出版会, 2021.
- Murayama H, Taguchi A, Spencer MS, Yamaguchi T. Efficacy of a community health worker-based intervention in improving dietary habits among community-dwelling older people: A controlled, cross-over trial in Japan. *Health Education & Behavior*.2020;47 (1) :47-56. doi: 10.1177/1090198119891975.

プロジェクト Projects

プロジェクト I・II

プロジェクト I・II では、学生はリサーチクエストンを解決するために主体的に研究に取り組む経験をします。その経験を通して、研究の楽しさや挑戦であることを知ることができます。また、住民や専門職と関わりを持ち、実践でどのように研究が役立つかを学ぶことができます。

In Project I/II, students will experience working independently to solve research questions. Through that experience, you can know that research is fun and challenging. In addition, students will be able to interact with community members and professionals and learn how research can be useful in practice.

プロジェクトの進め方 Project Style

プロジェクト I・II はゼミ形式で実施します。研究論文や著書をもとにディスカッションします。また、フィールドワークでは地域住民や専門職と関わります。

Project I/II are conducted in seminars. Students discuss research papers and books. In fieldwork, students also interact with community members and professionals.

所属に向いている学生 Expected Students

地域住民の健康増進に関心があり、フィールドワークを好む学生。

Students who are interested in improving the health of local residents and who prefer fieldwork.

speciality

臨床看護学 (急性期看護 がん看護 遺伝看護)  
Nursing (Medical-Surgical, Adult Nursing, Cancer Nursing, GeneticNursing)

e-mail

takeday@sfc.keio.ac.jp

works

- 武田 祐子 (2021) 「ヒトの遺伝」リテラシー向上への社会実装の現状と課題 非遺伝専門医療職の「ヒトの遺伝」リテラシー 卒後の人材育成の立場から『日本遺伝カウンセリング学会誌』42巻1号 pp.51-55
- 武田 祐子 (2019) 『ゲノム医療とがん看護』がんゲノム医療の現状と課題『看護』71巻10号 pp.68-70
- Fukuzaki N., et al.,Takeda Y. (2023) "A Cross-sectional Study of Regret in Cancer Patients After Sharing Test Results for Pathogenic Germline Variants of Hereditary Cancers With Relatives", *Cancer Nursing*, DOI: 10.1097/NCC.0000000000001224
- 武田祐子 (2019) ゲノム医療の発展と遺伝看護, *KEIO SFC JOURNAL* Vol.18 No.2pp.76-84



武田 祐子

TAKEDA YUKO

看護医療学部教授

おすすめ授業 Recommended Courses

CLINICAL GENETICS IN NURSING SENIOR PROJECT I / II

遺伝と医療では、近年急速に発展している臨床における臨床での遺伝・ゲノム情報の活用とそれに関連する様々な課題を取り上げ、ディスカッションすることで、学生自身の学びを深めることを大切にしている。

In CLINICAL GENETICS IN NURSING, it is important for students to deepen their own learning by taking up and discussing the use of genetic and genomic information in clinical practice, which has been rapidly developing in recent years, and various related issues.

プロジェクト I・II は、遺伝看護を含め成人看護領域の学生の関心に焦点を当てて課題を追究している。

SENIOR PROJECT I/II pursue issues that focus on the interests of students in the area of adult nursing, including genetic nursing.

授業の進め方 Class Style

講義とDVD視聴後のディスカッション、参加観察やインタビュー等のフィールドワークを含む研究的手法による課題の追究。

Discussion after lecture and watching DVD. Pursue issues using research methods including fieldwork such as participation observation and interviews.

受講に向いている学生 Expected Students

自己の関心を深く追究することを楽しむことができる学生であれば誰でも。

Any students who enjoys pursuing their interests deeply.



橋本 健史

HASHIMOTO TAKESHI

健康マネジメント研究科教授

speciality

整形外科 (足の外科) / スポーツ医学 / バイオメカニクス  
Foot and ankle surgery / Sports medicine / Biomechanics

works

- Hashimoto T., Inokuchi S.: The kinematic study of the ankle joint instability during gait due to the rupture of lateral ligaments. *Foot & Ankle International* 18:729-734, 1997.
- Hashimoto T., Inokuchi S., Kokubo T.: Clinical study of chronic lateral ankle instability: injured ligaments compared with stress X-ray examination *Journal of Orthop Science* 14:699-703, 2009.
- Hashimoto T., Kokubo T.: Anatomical tenodesis reconstruction using free split peroneal brevis tendon for severe chronic lateral ankle instability. *The Keio Journal of Medicine*. 71 (2) : 44-49, 2022.
- 橋本健史 (2023) 「高齢者の歩行の特徴—下肢障害の要因としての歩行動態とその予防法への試み—」『日本整形外科学会雑誌』 97, 425-436.

おすすめ授業 Recommended Courses

バイオメカニクス・動作解析

バイオメカニクス (生体力学) とは、生体の運動と運動に関係する構造を、主として力学的な視点に立って研究する学問です。本科目では、バイオメカニクスと動作解析の基礎を講義で学び、さらに動作解析の実際について、現場の見学と動作解析を体験する時間も設ける予定です。健康マネジメント研究科の履修生は文系出身者が多い事をふまえて、出来るだけ基礎的な解説を中心としています。初心者向けの入門編とお考え下さい。

Biomechanics is the study of the movement of humans and the mechanism of the locomotive organs. We have lectures on biomechanics and motion analysis. We also have a course where you measure human gait by use of a 3D motion analysis system. The lectures on biomechanics and motion analysis are designed for beginners.

授業の進め方 Class Style



5時間の講義とそれをもとにした2時間の動作解析実習を行います。実習では、最新の3次元動作解析装置を用いた、歩行解析の実習を行います。

5 times of lecture and a motion analysis practice based on it. In practical training, we practice gait analysis using the latest 3D motion analysis system.

受講に向いている学生 Expected Students

スポーツの動作解析に興味をもっている学生に向いています。基礎的内容ですので、文系学生でも大丈夫です。

The lectures on biomechanics and motion analysis are designed for beginners.

speciality

応用言語学 / 英語教育 / 言語試験  
Applied linguistics / English education / language testing

e-mail

abatty@keio.jp

works

- Batty, A. O. (2021) "An eye-tracking study of attention to visual cues in L2 listening tests". *Language Testing*. 38 (4) , pp. 511-535. <https://doi.org/10.1177/0265532220951504>
- Batty, A. O. (2018) "Investigating the impact of nonverbal communication cues on listening item types", In G. J. Ockey & E. Wagner (Eds.) , *Assessing L2 listening: Moving towards authenticity* (pp. 161-175) . John Benjamins. <https://doi.org/10.1075/allt.50.11bat>
- Batty, A. O., Haug, T., Ebling, S., Tissí, K., & Sidler-Miserez, S. (2022) "Challenges in rating signed production: A mixed-methods study of a Swiss German Sign Language form-recall vocabulary test" *Language Testing*. 40 (2) , pp. 352-374. <https://doi.org/10.1177/02655322221122774>



AARON OLAF BATTY

バティ アーロン

看護医療学部教授

プロジェクト Projects

プロジェクトⅠ・Ⅱ

この授業では、各学生が興味のあるテーマに沿ってより高度な研究を行うためのスキル習得を支援します。課題設定、文献検討、研究デザイン、データ収集、データ分析、学術論文形式での結果報告の流れに沿って指導します。

My project allows me to help students gain the skills necessary for more advanced study of topics in which they are interested. I step students through the process of developing research questions, conducting a literature review, designing a study, collecting data, analyzing data, and reporting results in an academic research paper format.

プロジェクトの進め方 Project Style



学生自身で質的または量的データの収集を行います。

Students collect their own qualitative or quantitative data.

所属に向いている学生 Expected Students

進学・就職後、自ら研究を実施しその成果を発表できるようになりたいと考えるすべての学生にお勧めです。

Any student who is interested in conducting and reporting on research in his/her academic or occupational career is encouraged to take this course.





平野 優子

HIRANO YUKO

看護医療学部助教

speciality

地域看護 / 公衆衛生看護  
Community health nursing / Public health nursing

e-mail

hiranoyu@sfc.keio.ac.jp

works

- 平野優子, 山崎喜比古 (2013) : 侵襲的人工呼吸器を装着した筋萎縮性側索硬化症患者の病い経験 - ライフ・ライン・メソッドを用いた心理的状態のたどる過程と関連要因, 『日本看護科学学会誌』, 33 (2) , 29-39.
- 平野優子 (2017) : 侵襲的人工呼吸器装着後の筋萎縮性側索硬化症患者の病い経験 : ライフ・ライン・メソッドを用いた心理的状態の変化と関連要因についての縦断的研究, 『日本健康学会誌』, 83 (2) , 55-69
- Yuko Mandai Hirano, Yoshihiko Yamazaki, Junichi Shimizu, Taisuke Togari, Thomas James Bryce (2006) : Ventilator dependence and expressions of need: A study of patients with amyotrophic lateral sclerosis in Japan, *Social Science & Medicine*, 62 (6) , 1403-1413.

おすすめ授業 Recommended Courses

Public Health Nursing for Special Needs

保健師の地域全体への支援展開方法である地区活動、地区診断の方法を取り扱い、演習を通して地域の人々の生活と健康を多角的にアセスメントし、顕在的、潜在的な健康ニーズを見出すスキルを養うことができます。

This course deals with methods of community activity and assessment, which are skills performed by public health nurses when supporting the community. Practical exercises will enhance students' skills to assess the lives and health of community residents from various viewpoints, and identify actual and potential health needs.

授業の進め方 Class Style



講義、演習、フィールドワークを行いながら地域アセスメントを展開。

We can conduct regional assessment through lectures, group work, and fieldwork.

受講に向いている学生 Expected Students

地域の健康課題に興味、関心がある皆さま。  
Anyone interested in community health issues.

speciality

老年看護学 / 家族看護学  
Gerontological nursing / family nursing

e-mail

fukahori@sfc.keio.ac.jp

works

- 三重野英子・會田信子・深堀浩樹 編集 (2023) . 『最新 老年看護学 第4版 2023年版』. 日本適言協会出版会.
- Shorey S, Ang E, Baridwan NS, Bonito SR, Dones LBP, Flores JLA, Freedman-Doan R, Fukahori H, Hirooka K, Koy V, Lee WL, Lin CC, Luk TT, Nantsupawat A, Nguyen ATH, Nurumal MS, Phanpaseuth S, Setiawan A, Shibuki T, Sumaiyah Jamaluddin TS, Tq H, Tun S, Wati NDNK, Xu X, Kunaviktikul W. Salutogenesis and COVID-19 pandemic impacting nursing education across SEANERN affiliated universities: A multi-national study. *Nurse Educ Today*. 2022 Mar;110:105277. doi: 10.1016/j.nedt.2022.105277. Epub 2022 Jan 24. PMID: 35101809; PMCID: PMC8785336.



深堀 浩樹

FUKAHORI HIROKI

看護医療学部教授

プロジェクト Projects

プロジェクトⅠ・Ⅱ

高齢者ケアについての質の高い研究を実施し、その成果をケアや看護の実践現場や社会に広め、高齢者やその家族への質の高いケア・看護を実現できる人材の育成を目指しています。

I aim to develop researchers and practitioners who are able to conduct high-quality research on care for older people, to disseminate the accomplishment of these research to the field of nursing practice and society, and to realize high-quality care and nursing practice for older people and their families.

プロジェクトの進め方 Project Style 講習他

ゼミ形式で実施しています。  
Conducted in seminar format.

所属に向いている学生 Expected Students

高齢者ケアに関する研究に関心と熱意のある方。  
Students who are interested and enthusiastic about research on care for older people.



藤井 千枝子

FUJII CHIEKO

看護医療学部教授

speciality

先端看護学  
Scientific Fundamentals for Nursing

works

- Fujii C et al. (1999) "Association between polymorphism of the cholecystokinin gene and idiopathic Parkinson disease" *Clinical Genetics*. 56 (5) , pp. 394-9.
- 藤井千枝子 (2004) 『うつること—遺伝と環境とひと』,小菅隼人編『腐敗と再生』慶應義塾大学出版会
- 藤井千枝子 (2018) 『見て 整理し 実践する 基礎看護技術』三輪書店
- Fujii C et al. (2020) "Video analysis of safety and reproducibility issues with the timed up-and-go test applied to patients with Parkinson's disease", *Disability and Rehabilitation: Assistive Technology*. 17 (7) , pp. 801-6.

プロジェクト Projects

プロジェクトⅠ・Ⅱ

私の担当する先端看護学という分野では、基盤を大切にしながらも、人々の生きる力を支える研究を開拓したいと思っています。私は、STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics) 教育とELSI (Ethical, Legal and Social Issues) を両輪としたケアの基盤づくりと、医療安全に関わる研究に関心をもっています。新しいことを学ぶことで、変わらない大切なものは何かを考える科目として大切にしています。

In the field of Scientific Fundamentals for Nursing, I would like to see the development of research that supports people's ability to life while valuing the foundation. I am interested in research related to medical safety and building a foundation of Care based on STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics) education. One more pillar are ELSI (Ethical, Legal and Social Issues). By learning new things, I value it as a subject that makes me think about what is important and unchanging.

プロジェクトの進め方 Project Style 他

あれかこれか、あれもこれもなど、適切に分けて、わかる経験ができるとよいと思います。このためには、一つの関心事をまとめ上げる過程を応援します。

I think it would be good to be able to have the experience of understanding by properly dividing it into whether it is "this or that", or "both this and that". To this end, I would like to support the process of bringing together a theme.

所属に向いている学生 Expected Students

研究協力者や、人々の創造から学びながら、思考と感性を活かした真善美の探求に意欲をもつ人が向いていると思います。それが気品の泉源、智徳の模範に近づける気がします。

I think it is suitable for research collaborators and people who are motivated to pursue truth, goodness, and beauty by making use of their thoughts and sensibilities while learning from other people's creations. I feel like it would be getting closer to the source of refinement and a model of wisdom and virtue.

speciality

成人看護学 (急性期)  
Adult Nursing (Acute)

e-mail

afuji@sfc.keio.ac.jp

works

- Development and validation of a disease-specific scale to assess psychosocial well-being of patients living with unruptured intracranial aneurysm. Asami Fujishima-Hachiya, Tomoko Inoue (2012) *The Journal of neuroscience nursing : journal of the American Association of Neuroscience Nurses* 44 (6) 317-28
- 看護にSOCをどう活用するのか【研究実践例から考える】未治療の病いをもちながら生きる体験 SOC理論を用いた質的データ分析の試み 藤島麻美, 戸ヶ里泰典, 山崎善比古 [看護研究] 42 (7) 2009年
- 未破裂脳動脈瘤を持つ人々の体験と看護支援に関する研究-自然経過観察を選択した人々の生活体験- 藤島麻美, 井上智子 [日本看護科学会誌] 30 (3) 2010年
- 未破裂脳動脈瘤を持つ人々が自然経過観察を選択するまでの体験と意思決定プロセス 藤島麻美 [日本保健科学学会誌] 13 (3) 2010年



藤島 麻美

FUJISHIMA ASAMI

看護医療学部助教

おすすめ授業 Recommended Courses

Acute Care Nursing / Seminar on Adult Nursing Skills

受け持っている授業が少ないのですが、急性期看護学では周術期看護に関する知識を体系的に学ぶことができます。私は脳神経外科看護の回を担当します。これまでの経験をふまえて、脳外科看護の面白さが伝わるような授業にしたいと思っています。技術演習では実習に必要な技術を習得することができます。皆、座学とは違う雰囲気を楽しそうに演習をしています。

In acute care nursing, you can systematically acquire knowledge about perioperative nursing. In the Seminar on Adult Nursing Skills, you can acquire the skills necessary for practical training. In exercises, everyone seems to be practicing lively.

授業の進め方 Class Style 講

急性期看護学は主に講義形式です。私の講義では、隣の人と意識レベルや神経症状の見方を確認したりクイズ形式にすることで、皆さんが深い眠りに陥らないように工夫しています。3年生はとにかく授業数が多くて大変だと思いますが、並行して開講している急性期病態学の知識とあわせて急性期看護学を受講するとより理解が深まると思うので、科目間のつながりを意識して学習してみてください。技術演習はユニフォームを着て、実習室で演習を行います。3年次のケア実践(病院実習)に向けて必要な看護技術を学びます。In acute care nursing, lectures are mainly held in the classroom. In Seminar on Adult Nursing Skills, we all wear uniforms and practice nursing skills in the training room.

受講に向いている学生 Expected Students

必修なので看護医療学部の学生はみんな履修しないといけないと思いますが、専門的知識と技術を高いレベルで獲得したい学生さんに向いていると思います。

Nursing student who wants to be an excellent nurse!



藤屋 リカ

FUJIYA RIKA

看護医療学部准教授

speciality

国際保健

works

- Health literacy as a key to improving weight status among Palestinian adolescents living in chronic conflict conditions: a cross-sectional study. *BMJ Open*. 2022 Sep 16;12 (9) :e061169. doi: 10.1136/bmjopen-2022-061
- Exploring health literacy and its associated factors among Palestinian university students: a cross-sectional study. *Health Promot Int*. 2021 Aug 24;36 (3) :854-865. doi: 10.1093/heapro/daaa089.
- Health literacy among adolescents and young adults in the Eastern Mediterranean region: a scoping review. *BMJ Open*. 2023 Jun 8;13 (6) :e072787. doi: 10.1136/bmjopen-2023-072787.
- The influence of economic factors on the location of birth among Palestinian women in Bethlehem during the second Palestinian uprising. *Trop Doct*. 2007 Jan;37 (1) :13-7. doi: 10.1258/004947507779951853.

### プロジェクト Projects

### プロジェクトI・II

「すべての人に健康を」健康格差の是正を目指し、看護が人々の健康にどのように貢献できるかを探求します。

Health for All Aims to rectify health inequalities and explore ways nursing can contribute to people's health.

#### プロジェクトの進め方 Project Style

履修学生の興味関心に合わせて進めます。

The course is based on the interests of the students taking it.

#### 所属に向いている学生 Expected Students

グローバルヘルスに関心のある学生。

Students with an interest in global health.

speciality

母性看護学 / 助産学

Woman's health nursing / Midwifery

works

- 細坂泰子、茅島江子 (2021) 「幼児を養育する母親および父親のしつけセルフリアーシ尺度の開発のための検討」『母性衛生』62 (2), pp. 381-389.
- 細坂泰子 (2023) 『母性看護学実習ハンドブック』, 中央法規出版.
- 細坂泰子、柏崎真由 (2019) 「日本語版 Quality Assessment Tool for Quantitative Studies (J-QATQS) の等価性を担保した作成および信頼性の検討」『東京慈恵会医科大学雑誌』134 (5), pp. 75-81.
- 茅島江子、村井文江、細坂泰子 (2022) 『看護判断のための気づきとアセスメント 母性看護』中央法規出版



細坂 泰子

HOSOSAKA YASUKO

看護医療学部教授

### おすすめ授業 Recommended Courses

### Sexual and Reproductive Health and Rights

本科目では性と生殖に関する概念を用いて、母子の健康や家族計画、生殖に関する権利、生殖補助医療、ドメスティック・バイオレンス、国際的視野を含めた社会情勢を扱います。講義とグループワークを併用し、学生自身が女性をエンパワーとする方策を考えます。

This course uses concepts related to sexuality and reproduction to address social issues including maternal and child health, family planning, reproductive rights, assisted reproductive care, domestic violence, and international perspectives. Through a combination of lectures and group work, students will consider ways to empower women on their own.

#### 授業の進め方 Class Style

講義はゲストスピーカーを含む教員が担当します。GWは学生を10名程度に分け、リプロダクティブヘルスにおける課題を解決するためのNPO法人の設立を検討します。

Lectures will be given by faculty, including guest speakers. Group work will examine the establishment of a non-profit organization to solve issues in reproductive health.

#### 受講に向いている学生 Expected Students

女性の権利や健康について興味がある学生。

Students interested in women's rights and reproductive health.





堀口 崇

HORIGUCHI TAKASHI

看護医療学部教授

speciality

脳神経外科 / 脳神経外科手術微小解剖 / 脳疾患の予防と疫学  
neurosurgery / microsurgical neuroanatomy /  
Prevention and epidemiology of brain disease

works

- 堀口崇 (2021) 「現代における実践的頭蓋底外科手技を獲得するための cadaver dissectionによる手術教育」『脳神経外科ジャーナル』30 (9) , pp. 665-672.
- 堀口崇、吉田一成 (2014) 「脳血管の機能と解剖・役割」高橋ひとみ編集「苦手から一歩ぬけ出す！ ICUでの脳神経看護—脳の解剖生理・疾患を知った的確なケアをするために—」総合医学社., pp. 203-214.
- 堀口崇 (2022) 「脳の疾患」北川雄光、江川幸二編集『別巻 臨床外科看護各論』医学書院., pp. 344-376.
- 堀口崇、吉田一成 (2013) 「合併症のためのシステムティック・レビュー 適切な Informed Consentのために (6) 髄膜腫・1— Sphenoid ridge, parasellarの髄膜腫」『脳神経外科』41 (2) , pp. 163-184.

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

系統講義や実習を通じて学習してきた解剖学、生理学、病態学の知識は、「想起」のレベルにとどまっているだけでは、臨床現場における看護実践には役立たない。これらの知識を横断的に関連付け、「解釈」さらには「問題解決」のレベルにまで向上させることを目的に、主に体験型学習を重視している。

The knowledge of anatomy, physiology, and pathology that has been learned through systematic lectures and practical training is not useful for nursing practice in clinical settings if it remains at the level of “remembering”. We focus mainly on experiential learning with the aim of cross-sectionally linking these knowledge and improving them to the level of “interpretation” and even “problem-solving”.

プロジェクトの進め方 Project Style 他

論文検索、解剖モデル作成、メディカルイラストレーションの作成、CTやMRIの2次元画像を3次元の立体構築にイメージできる訓練。

Research papers, anatomical model creation, medical illustration creation, training to visualize 2D images of CT and MRI into 3D construction.

所属に向いている学生 Expected Students

急性期病態学、急性期看護、周術期看護、脳卒中、頭部外傷、解剖と機能の融合、医療安全などに興味がある学生、手を動かして何かを作成することが好きな学生。

Students who are interested in acute pathology, acute nursing, perioperative nursing, stroke, head trauma, fusion of anatomy and function, medical safety, etc. Students who like to create something with their hands.

speciality

心理学 / 心理測定法  
Psychology

works

- 広田すみれ、増田真也、坂上貴之編著 (2018) 『心理学が描くリスクの世界』慶應義塾大学出版会
- 増田真也、坂上貴之、森井真広 (2019) 「調査回答の質の向上のための方法の比較」『心理学研究』90, pp.463-472.
- Masuda, S., Sakagami, T., Kawabata, H., Kijima, N., & Hoshino, T. (2017) Respondents with low motivation tend to choose middle category : Survey questions on happiness in Japan. *Behaviormetrika*, 44 (2) , pp.593-605.
- 増田真也、坂上貴之 (2014) 「調査の回答における中間選択」『心理学評論』57 (4) , pp.472-494.



増田 真也

MASUDA SHINYA

看護医療学部教授

おすすめ授業 Recommended Courses 心理学

判断や意思決定に関する心理学研究について学ぶことで、私たちが当たり前だと思っていることを疑い、社会で生じている出来事について批判的に検討する視点を養うことを目的としている。

授業の進め方 Class Style 講

授業内で簡単な実験を行い、その結果から授業で取り上げたテーマについて考えていく機会を設けている。



松 寄 愛

MATSUZAKI AI

看護医療学部専任講師 (有期)

speciality

基礎看護 / 手術看護

works

- Matsuzaki, A. Miyawaki, M. (2023) "A Study of Nursing Practices of Operating Room Circulating Nurses in Japan: A Focus on Patient Support", *Journal of Perioperative and Critical Intensive Care Nursing*, 9 (1), pp.1-7.
- 松寄愛、宮脇美保子 (2013) 「手術看護認定看護師の認識を通じた手術看護における術前訪問の現状と課題」『日本手術看護学会誌』14 (1), pp.3-10.
- 松寄愛 (2010) 「認定看護師の立場で考える、手術看護の独立性と専門性」『日本手術医学会誌』31 (4), pp.290-293.
- 松寄愛 (2011) 「手術室と病棟との連携のあり方」『日本手術医学会誌』32 (4), pp.343-346.

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

周術期とは、手術の適応が決定したときから、手術が終了して退院し、外来通院にいたる一連の期間を指し、専門性の高い治療が行われている。しかし、手術を受けているのはヒトであり、患者の多くは手術に対する期待や不安といった揺れ動く気持ちを抱えつつ、手術を経験している。専門性を高めつつ患者の気持ちに寄り添い、安全・安心な看護を提供するために、患者の視点から手術看護を考え様々な課題に取り組んでもらいたい。

プロジェクトの進め方 Project Style 講

手術看護において自身の関心テーマに沿って取り組む課題を明確にするための文献検討及び研究方法について学習する。授業はゼミ形式で実施し、関心テーマについて考え研究的に取り組むプロセスを経験する。

所属に向いている学生 Expected Students

手術を受ける患者を支援したいと考えている学生。

speciality

ヘルスケア情報学 / 防災情報学  
Health Informatics / Disaster Informatics

works

- 宮川祥子 (2022) 「人工知能はナースの夢を見るか」日本看護協会出版会
- 宮川祥子 (2023) 「減災ケアのためのコミュニティ情報学」宮垣元・琴坂将広編著「社会イノベーションの方法と実践」
- Kanbara, S., Miyagawa, S., Miyazaki, H. (Eds.) (2022) *Disaster Nursing, Primary Health Care and Communication in Uncertainty*, Springer.



宮 川 祥 子

MIYAGAWA SHOKO

看護医療学部准教授

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

デジタルファブリケーションを用いたケアのものづくりや、健康に関する意思決定を支援するための情報技術について多様な視点から研究を行っています。

We conduct research from diverse perspectives on the creation for care using digital fabrication technologies and the delivery of information to support health-related decision making.

プロジェクトの進め方 Project Style フ他

ケアのものづくりを必要としている現場でのフィールドワークと実践を通じて学びを深めます。

Deepen learning through fieldwork and practice in the field where the creation for care is needed.

所属に向いている学生 Expected Students

学部に関係なく、ケアの現場での課題解決に関心がある方。

Any academic background is acceptable, as long as you are interested in seeking solutions to problems in care settings.



矢ヶ崎 香

YAGASAKI KAORI

看護医療学部教授

speciality

成人看護学 / がん看護学 / 緩和ケア  
Adult Nursing / Cancer Nursing / Palliative Care

works

- Yagasaki, K., Komatsu, H., Takahashi, T. (2015) Inner conflict in patients receiving oral anticancer agents: a qualitative study. *BMJ Open*. 5 (4) :e006699.
- Yagasaki, K., Takahashi, H., Ouchi, T., Yamagami, J., Hamamoto, Y., Amagai, M., Komatsu, H. Patient voice on management of facial dermatological adverse events with targeted therapies: a qualitative study. (2019) *J Patient Rep Outcomes*. 3 (1) :27.
- 小松浩子, ほか. (2022) 『別巻 がん看護学』. 医学書院
- 小松浩子, ほか. (2022) 『専門 成人看護学総論』. 医学書院

プロジェクト Projects

プロジェクトI・II

がんをはじめ慢性疾患をもつ患者に対する看護を学ぶうえで、当事者の体験からの学びを大切にしています。

プロジェクトの進め方 Project Style **講** **フ** **他**

speciality

医療政策・管理学 / 精神医学 / 塾史  
Health Policy & Management / Psychiatry / Keio History

works

- 山内慶太 (2017) 「慶應義塾塾歌と雷田正文－歌詞にこめられた意味－」『近代日本研究』 33, pp.131-162.
- 山内慶太 (2002) 「解説」山内慶太・西川俊作編『福澤諭吉著作集第5巻』慶應義塾大学出版会.
- 岡村, 椿広計, 山内慶太 (2021) 「COVID-19感染拡大による自殺率上昇の把握と対策に資する質的/量的混合アプローチ」『横幹』 16 (2) , pp.54-59.
- 山内慶太 (1999) 「医療システムの研究における探索的データ解析—樹形モデル解析とその応用—」『オペレーションズ・リサーチ』 44 (7) , pp.343-348.



山内 慶太

YAMAUCHI KEITA

看護医療学部教授  
大学院健康マネジメント研究科教授

おすすめ授業 Recommended Courses

慶應義塾入門 / 医療と経済 / (院生には) 医療政策・管理学

「慶應義塾入門」は、慶應義塾で学ぶことの意義と楽しさを感じるきっかけになることを期待しています。その意義を理解すると、様々な場面で、人に臆することなく、みんなが当たり前と思っていることにも、本当にそうなのかと、疑いの目をもって考えることが面白がって出来るようになります。それを医療制度や医療サービスを巡る議論の中で感得することを意識しているのが、健康マネジメント研究科の「医療政策・管理学」です。

授業の進め方 Class Style **講**

「慶應義塾入門」は講義動画と資料を基に自分のペースで考えを深めて貰います。健マネの「医療政策・管理学」は講義と様々な角度からの議論を組み合わせています。

受講に向いている学生 Expected Students

どんな学生でも大丈夫です。あまり、自分の授業への学生の向き不向きは意識していません。



Index of Names

教員名索引

あ

- 16 青山 敦  
AOYAMA ATSUSHI
- 122 赤塚 永貴  
AKATSUKA EIKI
- 17 秋山 美紀  
AKIYAMA MIKI
- 18 安宅 和人  
ATAKA KAZUTO
- 123 新井 康通  
ARAI YASUMICHI
- 19 荒川 和晴  
ARAKAWA KAZUHARU
- 20 アルマンスール アフマド  
ALMANSOUR AHMAD
- 21 飯盛 義徳  
ISAGAI YOSHINORI
- 22 石川 初  
ISHIKAWA HAJIME
- 124 石川 志麻  
ISHIKAWA SHIMA

- 23 一ノ瀬 友博  
ICHINOSE TOMOHIRO
- 24 印南 一路  
INNAMI ICHIRO
- 25 植原 啓介  
UEHARA KEISUKE
- 26 牛山 潤一  
USHIYAMA JUNICHI
- 27 大木 聖子  
OKI SATOKO
- 28 仰木 裕嗣  
OHGI YUJI
- 29 大越 匡  
OKOSHI TADASHI
- 125 大坂 和可子  
OSAKA WAKAKO
- 126 大澤 祐介  
OSAWA YUSUKE
- 30 大堀 壽夫  
OHORI TOSHIO
- 31 大前 学  
OMAE MANABU
- 32 岡田 暁宜  
OKADA AKIYOSHI
- 33 小熊 英二  
OGUMA EIJI

- 127 小熊 祐子  
OGUMA YUKO
- か
- 34 加藤 貴昭  
KATO TAKAAKI
- 35 加藤 文俊  
KATO FUMITOSHI
- 36 金井 昭夫  
KANAI AKIO
- 37 金沢 篤  
KANAZAWA ATSUSHI
- 128 金澤 悠喜  
KANAZAWA YUKI
- 38 蟹江 憲史  
KANIE NORICHIKA
- 39 加茂 具樹  
KAMO TOMOKI
- 40 川島 英之  
KAWASHIMA HIDEYUKI
- 41 國枝 孝弘  
KUNIEDA TAKAHIRO
- 42 國枝 美佳  
KUNIEDA MIKA
- 43 黒田 裕樹  
KURODA HIROKI

- 44 巖 網 林  
YAN WANGLIN
- 129 小池 智子  
KOIKE TOMOKO
- 45 高 在 弼  
KO JAEPIIL
- 46 河野 暢明  
KONO NOBUAKI
- 47 國領 二郎  
KOKURYO JIRO
- 48 琴坂 将広  
KOTOSAKA MASAHIRO
- 49 小林 博人  
KOBAYASHI HIROTO
- さ
- 130 佐野 毅彦  
SANO TAKEHIKO
- 50 サベジ パトリック  
SAVAGE PATRICK
- 51 シェッターディ アキル  
CHEDDADI AQIL
- 52 篠原 舟吾  
SHINOHARA SHUGO
- 53 島津 明人  
SHIMAZU AKIHITO

54  清水 たくみ  
SHIMIZU TAKUMI

55  清水 唯一朗  
SHIMIZU YUICHIRO

56  ショウ ラジブ  
SHAW RAJIB

57  白井 さゆり  
SHIRAI SAYURI

58  白井 裕子  
SHIRAI YUKO

59  新保 史生  
SHIMPO FUMIO

60  杉原 由美  
SUGIHARA YUMI

61  杉本 昌弘  
SUGIMOTO MASAHIRO

131  杉本 なおみ  
SUGIMOTO NAOMI

132  杉山 大典  
SUGIYAMA DAISUKE

62  鈴木 治夫  
SUZUKI HARUO

133  鈴木 美穂  
SUZUKI MIHO

63  曾我 朋義  
SOGA TOMOYOSHI

た

64  高木 丈也  
TAKAGI TAKEYA

65  高汐 一紀  
TAKASHIO KAZUNORI

66  高橋 裕子  
TAKAHASHI YUKO

134  田口 敦子  
TAGUCHI ATSUKO

135  武田 祐子  
TAKEDA YUKO

67  田島 英一  
TAJIMA EIICHI

68  田中 浩一郎  
TANAKA KOICHIRO

69  田中 浩也  
TANAKA HIROYA

70  玉村 雅敏  
TAMAMURA MASATOSHI

71  塚原 沙智子  
TSUKAHARA SACHIKO

72  鶴岡 路人  
TSURUOKA MICHITO

73  鄭 浩瀾  
ZHENG HAOLAN

74  手塚 悟  
TEZUKA SATORU

75  東海林 祐子  
TOKAIRIN YUKO

76  トレースジョナサン  
TRACE JONATHAN

な

77  内藤 泰宏  
NAITO YASUHIRO

78  中川 エリカ  
NAKAGAWA ERIKA

79  中澤 仁  
NAKAZAWA JIN

80  仲谷 正史  
NAKATANI MASASHI

81  中西 泰人  
NAKANISHI YASUTO

82  中浜 優子  
NAKAHAMA YUKO

83  鳴川 肇  
NARUKAWA HAJIME

84  西川 葉澄  
NISHIKAWA HASUMI

85  野中 葉  
NONAKA YO

は

86  白頭 宏美  
HAKUTO HIROMI

136  橋本 健史  
HASHIMOTO TAKESHI

87  長谷川 福造  
HASEGAWA FUKUZO

88  長谷部 葉子  
HASEBE YOKO

89  服部 隆志  
HATTORI TAKASHI

137  バティアーロン  
BATTY AARON

90  華 金玲  
HUA JINLING

91  馬場 わかな  
BABA WAKANA

138  平野 優子  
HIRANO YUKO

92  平山 明由  
HIRAYAMA AKIYOSHI

93  廣瀬 陽子  
HIROSE YOKO

139  深堀 浩樹  
FUKAHORI HIROKI

94  藤井 進也  
FUJII SHINYA

140  藤井 千枝子  
FUJII CHIEKO

141  藤島 麻美  
FUJISHIMA ASAMI

95  藤田 護  
FUJITA MAMORU

142  藤屋 リカ  
FUJIYA RIKI

96  古谷 知之  
FURUTANI TOMOYUKI

97  ペトルス アリ サントソ  
PETRUS ARI SANTOSO

98  ヘニグマン デイビッド  
HOENIGMAN DAVID

143  細坂 泰子  
HOSOSAKA YASUKO

99  保田 隆明  
HODA TAKAAKI

144  堀 口 崇  
HORIGUCHI TAKASHI

ま  
100  マイヤー アンドレアス  
MEYER ANDREAS

101  増井 俊之  
MASUI TOSHIYUKI

145  増田 真也  
MASUDA SHINYA

102  松井 孝治  
MATSUI KOJI

103  松川 昌平  
MATSUKAWA SHOHEI

146  松 崎 愛  
MATSUZAKI AI

104  三 次 仁  
MITSUGI JIN

105  宮 垣 元  
MIYAGAKI GEN

147  宮 川 祥子  
MIYAGAWA SHOKO

106  宮代 康文  
MIYASHIRO YASUTAKE

107  宮本 大輔  
MIYAMOTO DAISUKE

108  宮本 佳明  
MIYAMOTO YOSHIAKI

109  森 さ ち 子  
MORI SACHIKO

110  森 将 輝  
MORI MASAKI

や

148  矢ヶ崎 香  
YAGASAKI KAORI

111  柳 町 功  
YANAGIMACHI ISAO

112  矢作 尚久  
YAHAGI NAOHISA

149  山内 慶太  
YAMAUCHI KEITA

113  山本 薫  
YAMAMOTO KAORU

114  吉井 弘和  
YOSHII HIROKAZU

わ

115  脇田 玲  
WAKITA AKIRA

116  和田 龍磨  
WADA TATSUMA

117  渡辺 光博  
WATANABE MITSUHIRO

118  藁谷 郁美  
WARAGAI IKUMI

119  ヴレタオチ  
VU LE THAO CHI



## Index of Specialities (Japanese)

専門分野索引 (日本語)

### あ

アイヌ語とアイヌ語口承文学	95
アラブ文学	113
アルゴリズムック・デザイン	103
アンチエイジング	117
ESG 投資・経営	57
EU	72
意思決定論	24
イスラーム学	20
遺産看護	135
イノベーション	54
異文化コミュニケーション学	131
意味論	30
イランを中心とする西アジア (中東) 地域の国際関係とエネルギー安全保障	68
医療コミュニケーション学	131
医療情報科学	61
医療政策・管理学	149
医療福祉政策	24
Wellbeing のためのコンピューティング	29
ウェルビーイング・未病	42
宇宙構造物	104
運動疫学	126, 127
運動生理学	26
英語教育	137

英語教材	88
HRI	81
HCI	81
疫学	17, 132
遠隔教育	88
欧州政治	72
応用言語学	60, 76, 82, 137
応用統計学	96
オーラル・ヒストリー	55
音楽	50
音楽神経科学	94
音楽と脳	94
<b>か</b>	
外国語教育	118
開発コミュニケーション	42
会話ストラテジー	107
基礎看護学	133
家族看護学	139
カリキュラム設計	76
がん看護学	125, 148
環境学	23
環境政策	71
環境マネジメント	56
韓国語学	45
看護管理	129
看護政策	129
がん看護	135
がん代謝	63
緩和ケア	125, 148

機械工学	31
機械と材料工学	20
幾何学	37
幾何モデリング	115
機械力学・制御	31
気候変動	44
技術・デザインを包括した戦略立案	18
気象学	108
基礎看護	146
機能的類型論	30
キャリアデザイン	114
急性期看護	135
旧ソ連地域研究 (特にコーカサス)	93
教授法	88
行政改革	114
行政法	87
クラウドネットワークロボティクス	65
グラフィックデザイン	83
グローバルヘルス	42
経営	54
経営情報システム	47
景観生態学	23
計算機科学	89
経済社会学	105
計測工学	80
計量経済学	116
ゲノム科学	19, 46
ゲノム微生物学	62
ケバック文学	84
健康情報とコミュニケーション	17

健康長寿	123
言語学習	86
言語学	30
言語人類学	45, 95
言語試験	76, 137
現代韓国論	111
現代社会と宗教	85
現代中国政治外交	39
現代東南アジア研究 (特にインドネシア)	85
建築	49, 83
建築学	51
建築設計	103
建築設計及び建築に関連したデザイン全般	78
憲法	59
公共経営	52, 70
公共宗教論	67
公衆衛生	17
公衆衛生学	132
公衆衛生看護	138
公衆衛生看護学	122, 134
交渉論	24
合成生物学	46
行動行政学	52
行動科学	53
公法学	87
コーチング	75
コーポレートファイナンス	99
国際安全保障	72

国際関係論	38
国際金融	57
国際政治	93
国際保健	142
国際マクロ経済学	116
国土安全保障・公衆衛生	96
コミュニケーション学	131
コミュニケーション教育学	131
コミュニケーション論	35
語用論	45
コンピュータサイエンス	40
コンピュータネットワーク	25

## さ

災害情報	27
サイバーセキュリティ	74
産業保健	53
山林、木材そして木造に至る分野にエンジニアリングでアプローチ	58
仕事と家庭のジェンダー	66
地震学	27
システム生物学	19
実験心理学	110
質量分析	92
自動車工学	31
社会学	105
塾史	149
熟達化	34
手術看護	146
循環型都市	69

情報法	59
情報セキュリティ	74
情報通信政策	90
助産学	128, 143
女性とイスラーム	85
触覚	80
神経科学	26
新商品開発	18
心理学	50, 53, 145
心理測定法	145
人類学	50
数学	37
数理心理学	110
数理物理学	37
スポーツ医学	127, 136
スポーツ科学	126
スポーツ経営学	130
スポーツ工学	28
スポーツ心理学	34
スポーツバイオメカニクス	28
スマートマテリアル	115
3D/4D プリンティング	69
整形外科（足の外科）	136
政治哲学	106
精神医学	149
成人看護学	148
成人看護学（急性期）	141
成人看護学（慢性期看護）	125
精神分析	32
精神分析学	109

生体計測	28
青年期精神医学	32
生物統計学	132
設計プロセス論	103
選択行為の分析	119
先端看護学	140
ソーシャルファイナンス	99
ソーシャルマーケティング	70
ソーシャルロボティクス	65
組織	54
組織論	24
<b>た</b>	
代謝疾患	117
代数学	37
第二言語用論	82
第二言語習得論	82
多文化／異文化間教育	60
多文化共生	86
タレントマネジメント	114
談話分析	30, 64
地域イノベーション	21
地域看護	138
地域看護学	122, 124, 134
地球システムガバナンス	38
地方行政	52
中国近現代史	73
中国語学	107
中国語教育	107
中国市民社会論	67

中国地域研究	67, 73
中東社会文化論	113
朝鮮語学	64
地図学	22
地理情報科学	44
定性的調査法	35
データ× AI 時代の基礎教養	18
データベース	40
テクノロジーの社会的受容	90
デザイン工学	69
デジタル社会とメディア利用	90
電子認証	74
ドイツ近現代史	91
ドイツ語教育	100, 118
ドイツ地域研究	91
ドイツ文学	100
ドイツ文学研究	118
統語論	45
統治機構論	102
都市社会学	51
都市・地域環境	44
都市地方デザイン	49
ドラマ	94
トランザクション	40
<b>な</b>	
内分泌代謝内科	127
日本語教育	60, 86
日本政治外交論	55
日本政治史	55

人間工学	20, 34
脳機能計測	16
脳情報学	16
脳疾患の予防と疫学	144
脳神経外科	144
脳神経外科手術微小解剖	144
農村計画学	23
脳電磁気学	16
<b>は</b>	
バイオインフォマティクス	19, 46, 62
バイオメカニクス	136
発生生物学	43
非営利組織論	105
比較政治	39
東アジア国際関係	39
東アジア経営史・財閥史	111
ビジュアライゼーション	115
百寿者研究	123
ヒューマンセキュリティ	119
ヒューマンロボットインタラクション	65
評価システム設計	70
ファミリービジネスマネジメント	21
プラットフォームデザイン	21
フランス語教育	41, 51, 84
フランス哲学・思想	106
フランス文学	41, 84
プロダクトデザイン	83
分散システム	79
分子進化学	36

分子生物学	36
分析化学	63, 92
紛争・平和研究	93
平和構築と予防外交	68
ヘルスケア社会システム戦略論	112
ヘルスケア情報学	147
ヘルスサイエンス	117
ベンチャービジネス	99
方言学	64
防災	56
防災教育	27
防災情報学	147
母性看護学	128, 143
<b>ま</b>	
マクロ経済	57
まちづくり	49, 78
ミドルウェア	79
無線応用	104
無線通信	104
メタボロミクス	63, 92
メディア論	35
モバイル / ユビキタスコンピューティング	29
モビリティ（観光・交通）分野のデータサイエンス	96

<b>や</b>	
UI/UX	81
ユーザインターフェース	101
ユビキタスコンピューティング	79, 101
ヨーロッパ研究	100
<b>ら</b>	
ライフスキルプログラム	75
ラテンアメリカ研究（特にアンデス諸国）	95
ランドスケープアーキテクチャ	22
力動精神医学	32
リスク	119
理論生物学	77
臨床看護学	135
臨床心理学	109, 110
歴史社会学	33
老化疫学	126
労働政策	66
労働法	66
老年医学	123
老年看護学	139
ロボット法	59



## Index of Specialities (English)

専門分野索引 (英語)

### I

3D/4D Printing **69**

### A

Administrative Law **87**

Administrative Reform **114**

Adult Nursing **148**

Adult Nursing(Acute) **141**

Advanced Vehicle Control and Safety Systems **31**

Algebra **37**

Algorithmic Design **103**

Analytical Chemistry **63, 92**

Anthropology **50**

Anti-aging **117**

Applied Linguistics **60, 76, 137**

Applied Linguistics (Second language acquisition, applied pragmatics) **82**

Arabic and Islamic Studies **20**

Arabic Literature **113**

Architectural Design **103**

Architectural Design and Design Related to Architecture in General **78**

Architecture **49, 51, 83**

Areas of Expertise **32**

Automotive Engineering **31**

Aynu Language and Aynu Oral Literature **95**

### B

Behavioral Public Administration **52**

Behavioral Science **53**

Bioinformatics **19, 46, 62**

Biomechanics **136**

Biostatistics **132**

Brain Information Science **16**

Business History(Japan and Korea) **111**

### C

Cancer Metabolism **63**

Cancer Nursing **148**

Career Design **114**

Cartography **22**

Centenarians **123**

Chinese Area Studies **73**

Chinese Education **107**

Chinese Linguistics **107**

Chinese Politics and Foreign Policy **39**

Choice Analysis **119**

Circular Economy **69**

Civil Society **105**

Climate Change **44**

Clinical Psychology **109, 110**

Cloud Network Robotics **65**

Communication and Media Studies **35**

Communication for Development **42**

Communication Strategies **107**

Community Health **17**

Community Health Nursing **122, 138**

Community Innovation **21**

Comparative Cultural Media Sociology **90**

Comparative Politics **39, 93**

Computational Engineering **104**

Computer Networks **25**

Computer Science **40, 89**

Computing for Wellbeing **29**

Constitutional Law **59**

Corporate Finance **99**

Creative Writing **98**

Cultural Studies **98**

Curriculum Development **76**

Cyber-Law **59**

Cybersecurity **74**

### D

Data Science and Data-Driven Thinking **18**

Database **40**

Decision Making **24**

Design Engineering **69**

Design Process Theory **103**

Developmental Biology **43**

Dialectology **64**

Disaster Informatics **147**

Disaster Information **27**

Discourse Analysis **30, 64**

Distance Learning **88**

Distributed Systems **79**

Drums and Rhythm **94**

Dynamic Psychiatry **32**

### E

Earth System Governance **38**

Econometrics **116**

Economic Sociology **105**

Electronic Authentication **74**

Energy Security **68**

Engineering Approach to Forests/Timberland, Forestry, Lumber Production and Wooden Architecture **58**

English Education **137**

English Teaching Materials **88**

Entrepreneurship **48**

Environment and Disaster Management **56**

Environmental Policy **71**

Environmental Sciences **23**

Epidemiology **132**

Ergonomics **20, 34**

ESG Investment **57**

Especially on Chinese Civil Society **67**

European Integration **72**

European Politics **72**

European Studies	100
Exercise Physiology	26
Experimental Literature	98
Experimental Psychology	110
Expertise	34

## F

Family Business Management	21
Family Nursing	139
Foot and Ankle Surgery	136
French as a Foreign Language	84
French Language Education	41
French Literature	41, 84
French Philosophical Thoughts	106
French Studies	51
Functional Typology	30
Fundamentals of Nursing	133

## G

Gender in Work and Family	66
Genome Microbiology	62
Genome Science	19
Genomics	46
Geographic Information Science	44
Geometric Modeling	115
Geometry	37
Geriatrics and gerontology	123
German Area Studies	91
German as a Foreign/Second Language	100

German Literature	100, 118
Gerontological Nursing	139
Global Health	42
Government Organizations	102
Graphic Design	83

## H

Haptics	80
HCI	81
Health Care Policies	129
Health Communication	17
Health Informatics	147
Health Policy	24
Health Policy & Management	149
Health Science	117
healthy longevity	123
Historical Sociology	33
HRI	81
Human Security	119
Human Sensing	28

## I

Indonesian as Foreign Language	97
Information and Communication Policy	90
Information Security	74
Innovation	54
Intercultural Communication	97
International Business	48
International Finance	57

International Macroeconomics	116
International Politics	93
International Relations	38
International Relations in West Asia (Middle East) Region, with a Strong Focus on Iran and Afghanistan	68
International Relations(East Asia)	39
International Security	72

## J

Japanese Language Education	60, 86
Japanese Politics	55

## K

Keio History	149
Korean Language Study	64
Korean linguistics (syntax, pragmatics)	45

## L

Labor Law	66
Labour Policies	66
Landscape Architecture	22
Landscape Ecology	23
Language & Teaching Design	118
language Assessment	76
Language Learning	86
Language Learning Technology	118
Language Testing	137
Latin American Studies (esp. Andean societies)	95

Life Skill Program Coaching	75
Linguistic Anthropology	45
Linguistic Anthropology of the Andes	95
Linguistics	30
Local Governance	52

## M

Machizukuri	49
Macroeconomy	57
Malay-Indonesian Language	85
Management	54
Management Information System	47
Mass Spectrometry	92
Materials Engineering	20
Mathematical Physics	37
Mathematical Psychology	110
Mathematics	37
Measurement of Brain Functions	16
Mechanical Engineering	31
Medical Data Science	61
Metabolic Disease	117
Metabolomics	63, 92
Meteorology and Climate Science	108
Microsurgical Neuroanatomy	144
Middle Eastern Society and Culture Studies	113
Middleware	79
Midwifery	128, 143
Mobile and Ubiquitous Computing	29

Modern and Contemporary History of China	73
Modern German History	91
Modern Japanese History	55
Modern Korean Studies	111
Molecular Biology	36
Molecular Evolution	36
Multicultural Coexistence	86
Multicultural and Intercultural Education	60
Music	50
Music Perception and Cognition	94
<b>N</b>	
Negotiation & Organizational Behavior	24
Neighborhood Design	78
Neuroelectromagnetism	16
Neuroscience	26
Neurosciences and Music (NeuroMusic)	94
Neurosurgery	144
New Product Development	18
Nursing	135
Nursing Administration	129
<b>O</b>	
Occupational Health	53
Oral History	55
Organization	54

<b>P</b>	
Palliative Care	148
Peace Building and Preventive Diplomacy	68
Physical Activity Epidemiology	127
Platform Design	21
Political Philosophy	106
Prevention and Epidemiology of Brain Disease	144
Preventive Medicine	127
Product Design	83
Psychiatry	149
Psychoanalysis	32, 109
Psychology	50, 53, 145
Public Health	17, 132
Public Health Nursing	122, 138
Public Law	87
Public Management	52, 70
Public Religions	67
<b>Q</b>	
Qualitative Research Methods	35
Quebec Literature	84
<b>R</b>	
Risk	119
Robot-Law	59
Rural Planning	23

<b>S</b>	
Safety Education	27
Scientific Fundamentals for Nursing	140
Second Language	100
Seismology	27
Semantics	30
Sensor Engineering	80
Smart Material	115
Social Acceptance of Technology	90
Social Finance	99
Social Marketing	70
Social Robotics	65
Sociology	105
Southeast Asian Studies (esp. Indonesia)	85
Space Structures	104
Spatial Econometrics	96
Spatial Statistics	96
Sport Management	130
Sport Psychology	34
Sports Biomechanics	28
Sports Engineering	28
Sports Medicine	127, 136
Strategy	48
Strategy Building	18
Strategy for Value-Based Healthcare Delivery	112
The Study on China	67
Synthetic Biology	46

System Design	112
System Strategy	112
Systems Biology	19
<b>T</b>	
Talent Management	114
Teaching Methodology	88
Theoretical Biology	77
Tourism	96
Transaction	40
The Transcaucasus Area Studies	93
<b>U</b>	
Ubiquitous Computing	79, 101
Ubiquitous Computing	79
UI/UX	81
Urban and Regional Environment	44
Urban and Rural Design	49
Urban Sociology	51
User Interface	101
<b>V</b>	
Venture Business	99
Visualization	115
<b>W</b>	
Wellbeing/Me-Byo	42
Wireless Communications	104
Woman's Health Nursing	128, 143



## Social Media Accounts and Websites

SNS・Web 一覧

先生方の研究会のSNSやウェブサイトを一覧でまとめました。情報収集のためにご活用ください。(2023年10月現在の情報です。)


青山 敦 AOYAMA ATSUSHI	<a href="https://brain.sfc.keio.ac.jp/">https://brain.sfc.keio.ac.jp/</a>	16
秋山 美紀 AKIYAMA MIKI	<a href="https://akiyama-lab.sfc.keio.ac.jp/">https://akiyama-lab.sfc.keio.ac.jp/</a>	17
安宅 和人 ATAKA KAZUTO	X (旧 Twitter) @kaz_ataka 個人ブログ <a href="https://kaz-ataka.hatenablog.com/">https://kaz-ataka.hatenablog.com/</a> 風の谷を創る <a href="https://aworthytomorrow.org/">https://aworthytomorrow.org/</a> 研究会 <a href="https://atakalab.org/">https://atakalab.org/</a>	18
荒川 和晴 ARAKAWA KAZUHARU	X @gaou_ka	19
アルマンズールアハムド ALMANSOUR AHMAD	f <a href="https://fb.com/ahmad.almansour1964/">fb.com/ahmad.almansour1964/</a>	20
飯盛 義徳 ISAGAI YOSHINORI	<a href="https://isagai.sfc.keio.ac.jp/">https://isagai.sfc.keio.ac.jp/</a>	21
石川 初 ISHIKAWA HAJIME	<a href="https://hajimelab.tumblr.com/">https://hajimelab.tumblr.com/</a>	22
一ノ瀬 友博 ICHINOSE TOMOHIRO	X @Landschaftsplan f <a href="https://fb.com/ichinose.lab/">fb.com/ichinose.lab/</a> f <a href="https://fb.com/lchinoseKeio/">fb.com/lchinoseKeio/</a> <a href="https://scrapbox.io/lchinose-lab/">scrapbox.io/lchinose-lab/</a>	23
牛山 潤一 USHIYAMA JUNICHI	<a href="https://www.youtube.com/@gyutubelab/">https://www.youtube.com/@gyutubelab/</a>	26
大木 聖子 OKI SATOKO	X @bosailab_sfc <a href="http://www.bosai.sfc.keio.ac.jp/">http://www.bosai.sfc.keio.ac.jp/</a>	27
仰木 裕嗣 OHGI YUJI	<a href="http://www.sports.sfc.keio.ac.jp/">http://www.sports.sfc.keio.ac.jp/</a>	28
大越 匡 OKOSHI TADASHI	X @TadashiOkoshi <a href="https://www.okoshi.org/">https://www.okoshi.org/</a> <a href="https://www.jn.sfc.keio.ac.jp/">https://www.jn.sfc.keio.ac.jp/</a>	29
大前 学 OMAE MANABU	<a href="https://web.sfc.keio.ac.jp/~omae/">https://web.sfc.keio.ac.jp/~omae/</a>	31

加藤 貴昭 KATO TAKAAKI	<a href="https://hpl.sfc.keio.ac.jp/">https://hpl.sfc.keio.ac.jp/</a>	34
加藤 文俊 KATO FUMITOSHI	X @who_me Instagram @frogleap f <a href="https://fb.com/fumitoshi.kato.5/">fb.com/fumitoshi.kato.5/</a> <a href="https://fklab.today/">https://fklab.today/</a> <a href="https://camp.yaboten.net/">https://camp.yaboten.net/</a>	35
金沢 篤 KANAZAWA ATSUSHI	<a href="https://sites.google.com/view/akanazawa/">https://sites.google.com/view/akanazawa/</a>	37
加茂 具樹 KAMO TOMOKI	X @KamoTomoki <a href="https://www.kamotomoki.com/">https://www.kamotomoki.com/</a>	39
國枝 美佳 KUNIEDA MIKA	<a href="https://www.sfc.keio.ac.jp/introducing_labs/015970.html">https://www.sfc.keio.ac.jp/introducing_labs/015970.html</a> 研究会 1 <a href="https://sites.google.com/keio.jp/sfcafrica/">https://sites.google.com/keio.jp/sfcafrica/</a> 研究会 2 <a href="https://sites.google.com/keio.jp/sdpe/">https://sites.google.com/keio.jp/sdpe/</a>	42
黒田 裕樹 KURODA HIROKI	<a href="http://kerolab.jp/">http://kerolab.jp/</a>	43
巖 網 林 YAN WANGLIN	<a href="https://ecogislab.sfc.keio.ac.jp/">https://ecogislab.sfc.keio.ac.jp/</a>	44
河野 暢明 KONO NOBUAKI	X @yves_twit <a href="https://nkono.org/">https://nkono.org/</a>	46
琴坂 将広 KOTOSAKA MASAHIRO	X @kotosaka <a href="https://iber.sfc.keio.ac.jp/">https://iber.sfc.keio.ac.jp/</a>	48
小林 博人 KOBAYASHI HIROTO	Instagram @toriaezu_yattemiru_ten <a href="https://architecture.keio.ac.jp/lab/kobayashi/">https://architecture.keio.ac.jp/lab/kobayashi/</a> <a href="https://www.veneerhouse.com/">https://www.veneerhouse.com/</a>	49
サベジ パトリック SAVAGE PATRICK	X @PatrickESavage	50
篠原 舟吾 SHINOHARA SHUGO	<a href="https://sites.google.com/view/pafontier/">https://sites.google.com/view/pafontier/</a>	52
島津 明人 SHIMAZU AKIHITO	<a href="https://hp3.jp/">https://hp3.jp/</a>	53
清水 たくみ SHIMIZU TAKUMI	X 研究会 @SFC_TakumiLab 教員 @TakumiShimizu <a href="https://takumilab.sfc.keio.ac.jp/">https://takumilab.sfc.keio.ac.jp/</a>	54
清水 唯一朗 SHIMIZU YUICHIRO	X @ys_jpd @sfcyslab f <a href="https://fb.com/YS2007Lab/">fb.com/YS2007Lab/</a> 教員 Web <a href="http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/">http://web.sfc.keio.ac.jp/~yuichiro/</a> 研究会 B1 <a href="https://shimizujpdlab.wordpress.com/">https://shimizujpdlab.wordpress.com/</a> 研究会 B2 <a href="https://shimizulab.wordpress.com/">https://shimizulab.wordpress.com/</a>	55

ショウ ラジブ SHAW RAJIB	X @rajibshaw f fb.com/rajibshawofficialpage/ www.rajibshaw.org/ www.indiajapanlab.org/	56
白井 裕子 SHIRAI YUKO	http://architecture.keio.ac.jp/lab/shirai/	58
杉原 由美 SUGIHARA YUMI	https://sugihara.sfc.keio.ac.jp/	60
曾我 朋義 SOGA TOMOYOSHI	https://metabolome.iab.keio.ac.jp/	63
高木 丈也 TAKAGI TAKEYA	X @TakagiTakeya https://t-takagi.jimdofree.com/	64
高汐 一紀 TAKASHIO KAZUNORI	X 研究会 @Sociable_Robots 教員 @kaz_ss597 f 教員 fb.com/kaz.ss597/ 研究会 https://sr.sfc.keio.ac.jp/	65
田中 浩也 TANAKA HIROYA	https://fab.sfc.keio.ac.jp/	69
塚原 沙智子 TSUKAHARA SACHIKO	ig @tsukahara_lab_sfc	71
鶴岡 路人 TSURUOKA MICHITO	X @MichitoTsuruoka	72
手塚 悟 TEZUKA SATORU	https://d-trust.sfc.wide.ad.jp/	74
東海林 祐子 TOKAIRIN YUKO	https://www.lifeskill-coaching.com/	75
中澤 仁 NAKAZAWA JIN	https://www.jn.sfc.keio.ac.jp/	79
仲谷 正史 NAKATANI MASASHI	X @Dery2 研究会 https://touchlab.sfc.keio.ac.jp/	80
中西 泰人 NAKANISHI YASUTO	http://unitedfield.net/	81
鳴川 肇 NARUKAWA HAJIME	https://narukawa-lab.jp/	83
藤井 進也 FUJII SHINYA	X @sfujiidr @NeuroMusicKeio @XmusicLab 研究会 B1 https://neuromusic.sfc.keio.ac.jp/ 研究会 B2 https://medium.com/x-music-lab/ 研究所ラボ https://x-music.sfc.keio.ac.jp/	94

藤田 護 FUJITA MAMORU	X @mfujita1023 ig @mfujita1023 研究会 http://mfujita.sfc.keio.ac.jp/ 個人ブログ http://lapazankiritwa.blogspot.com/	95
ヘニグマン デイビッド HOENIGMAN DAVID	ig @sfc_record https://sfcindiepress.com/	98
保田 隆明 HODA TAKAAKI	X @sfc_hoda https://havefun.sfc.keio.ac.jp/	99
増井 俊之 MASUI TOSHIYUKI	X @masui f fb.com/toshiyukimasui/ http://masui.org/ http://pitecan.com/	101
松井 孝治 MATSUI KOJI	X @matsuiKOJI	102
松川 昌平 MATSUKAWA SHOHEI	X @sho000 f fb.com/shohei.matsukawa.3/ ig @shohei_matsukawa 研究会 https://onl.sc/ir7QWAm	103
三次 仁 MITSUGI JIN	https://www.autoidlab.jp/	104
宮代 康丈 MIYASHIRO YASUTAKE	X @SFC44529498 https://miyashiro-lab.sfc.keio.ac.jp/	106
宮本 佳明 MIYAMOTO YOSHIKI	https://met-lab.sfc.keio.ac.jp/	108
森 将輝 MORI MASAKI	https://morima.asia/	110
山本 薫 YAMAMOTO KAORU	ig @arab_culture_lab	113
吉井 弘和 YOSHII HIROKAZU	X @hirony23 https://note.com/hirolon3253/	114
脇田 玲 WAKITA AKIRA	https://wakita.sfc.keio.ac.jp/	115
バティ アーロン BATTY AARON	X @AaronOlafBatty	137





## When Lost in the Woods

もし森に迷ったら

ここまで研究会やプロジェクト、専門度の高い授業を紹介してきました。それでも、SFCという森は広大で、時には迷ってしまうものです。そのようなときに限って、周りの友人が活躍する姿が目に入り、自分は何も結果を出せていないと悩んでしまい、さらに迷い込んでいくこともあります。

そんなときは、友人や先輩、後輩を頼ってみましょう。オフィスパワーを使って、先生に相談もできます。

確かな道筋が見えていなくても思い切ってどこかの研究会やプロジェクトに入ってみて、研究にとことん打ち込んでみるのも、ひとつの手です。目の前にある何かを続けることで、自分のできることや知識の幅が広がり、新たな興味が湧いてくるかもしれません。

研究会や授業はもちろんのこと、サークルやインターンなどそのほかのコミュニティもたくさんあります。

例えば、KEIO SFC REVIEW 編集部もそのうちの1つです。

地図が無いからと森の中で立ち止まるのではなく、このBRAINを手に取り、自分の心に従って森の中を歩き回ってみませんか。

そうすることで、きっと居場所やできることが増えていくはずです。

SFCの強みを活かしながら、様々なことにチャレンジしてみましょう。

この本が少しでもあなたの助けになれば幸いです。

何度でも開いてみてください。



### 編集後記

#### 慶應SFC学会

**発行人** 黒田 裕樹 (会長 / 環境情報学部 教授)  
**担当理事** 宮代 康文 (総合政策学部 准教授)  
**事務局** 田坂 真美

**編集長** 工藤 美桜 (総合政策学部 3年)

**副編集長** 藤田 叶子 (総合政策学部 2年)

**編集委員** 青木 陽花 (総合政策学部 4年)

浅野 悠人 (環境情報学部 4年)

剣持 里菜 (環境情報学部 4年)

深町 優雨 (総合政策学部 2年)

松本 こころ (総合政策学部 2年)

荒井 美海 (環境情報学部 2年)

福原 衣織 (総合政策学部 1年)

堀江 真咲 (総合政策学部 1年)

吉松 野乃子 (総合政策学部 1年)

坂井 壮真 (環境情報学部 1年)

富田 里菜 (環境情報学部 1年)

藤井 美来 (環境情報学部 1年)

#### 表紙 / デザイン

藤田 叶子 (総合政策学部 2年)

#### 写真撮影 (キャンパス風景)

福原 衣織 (総合政策学部 1年)

2023年度版『THE BRAIN』を手にとつてくださり、ありがとうございます。

今号は、2023年2月に企画が動き始め、約8ヶ月もの期間をかけて取り組みました。どのサイズで制作するのかから始まり、どのような内容を掲載すれば多くの人にとって役に立つ冊子になるのかを何ヶ月も話し合いました。夏休みには、編集員で10時間近く及び校正を何度も行いました。

こだわの部分と、どうしても妥協しなければならぬ部分との線引きに何度も苦しみましたが、決断するたびに私自身も『THE BRAIN』を通して成長させていただきました。

私たちの思いがこもった本号を活用して、教員、職員、在校生、未来の学生の皆様が学びや人生の幅を広げてくださることを願っています。

また、想定よりも何度も何度も修正が重なり、大幅に発行が遅れてしまいました。2023年度秋学期に着任された教員の方々の掲載も叶いませんでした。ご了承くださいませと幸いです。

最後になりますが、ご協力いただきました教員や学生の皆様、日英の大変な校正を一緒に頑張ってくれた編集部の方々に、心より感謝申し上げます。

2023.10.10 編集長 工藤美桜

**発行日** 2023年10月17日

**発行所** 慶應SFC学会  
 〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 5322  
 0466-49-3437  
<http://gakkai.sfc.keio.ac.jp/>  
[keio-sfc-review@sfc.keio.ac.jp](mailto:keio-sfc-review@sfc.keio.ac.jp)

無断転載・複製を禁じます。ご相談は慶應SFC学会までお寄せください。